

< | + + + + + + + + + + < | 男女共同参画推進センター報告書 | >



2019

京都大学

男女共同参画推進センター報告書

2020年3月

## 目 次

ご挨拶	1
運営体制	3
<b>I 「広報・相談・社会連携」事業</b>	5
1) 京都大学男女共同参画支援たちばな基金	6
2) Women and the Worldフォーラム6	7
3) 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）	8
4) 講義・ゼミ	16
5) 女子高生・車座フォーラム2019	18
6) 女子高生応援大使	30
7) 第14回女子中高生のための関西科学塾	40
8) 日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム	42
9) 女性研究者紹介冊子「青いリボンのエトセトラ Vol.6」	44
10) 女子卒業生紹介冊子「Will Vol.2」	45
11) 男女共同参画推進センターNewsletter	47
<b>II 「育児・介護支援」事業</b>	71
1) 2019年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」	72
2) おむかえ保育	79
3) ベビーシッター育児利用支援	81
<b>III 「病児保育」事業</b>	83
1) 病児保育室「こもも」	84
<b>IV 「就労支援」事業</b>	97
1) 研究・実験補助者雇用制度	98
<b>資料</b>	
1) 男女共同参画推進センター関係者名簿	107
2) 男女共同参画推進センター会議議事	108
3) 京都大学の教員・学生数	111
4) 京都大学の女性研究者・女子学生の状況	113



## ご挨拶

理事・副学長  
京都大学男女共同参画推進本部長  
稲葉カヨ

平成 18 年に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の下で設立された「女性研究者支援センター」を中心とした活動も 14 年目に入っています。この間、平成 26 年度には、「女性研究者支援センター」を発展的に改組し、男女共同参画推進本部のもとに「男女共同参画推進センター」を設置しました。そのため、支援の対象も女性研究者のみならず教職員・学生へと広がってきています。

平成 27 年 4 月には、山極総長の下にアクション・プラン（2015 年度～2020 年度）を公表しました。その中では、「男女共同参画推進本部・推進センターを軸にして、基盤整備の拡充を進めると共に、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援という 3 つの目標を設定し、本学における男女共同参画の一層の進化を進める」としています。また、その後発表された「WINDOW 構想」の末尾の W は“Women and Wish”を表すとし、「男女共同参画推進アクション・プランに基づき明るい希望を持てる環境を整備します」と明記されました。さらに 3 年が経過した平成 30 年 3 月には実績を見た上で、この W は“Women and the World”と改訂されました。

平成 26 年 7 月に思修館の学寮「船哲房」の 1 階に入居したセンターの待機乳児保育室では、既に定員増を行い以前より多くの待機乳児を受け入れることができるようになっています。また、9 月からの開室を 4 月へと変更し、利用者の利便性の向上に努めています。

今年度は 6 回発行したニュースレターでも、多くの方々に楽しみにしていただいている「連載：研究者になる！」では 76 人目の教員に登場していただきました。京大の女性研究者を紹介する「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」も Vol.6 となり、社会で活躍する女性の先輩達を紹介する冊子「Will Kyoto University」も Vol.2 を発行することができました。学部一回生に向けた ILAS セミナー「ジェンダーと社会」や全学共通科目「ジェンダー論」の講義においては本センターの運営に関与する教員が大きな役割を担っています。京都大学進学を目指す女子高校生を対象として開催した「女子高生・車座フォーラム 2019（第 14 回）」にも、東北から九州にまたがる地域だけでなく海外からも、多くの女子高校生とその保護者の参加を得ることができました。また、昨年度より新しく開始した「女子高生応援大使」事業では、教育学生支援課と共同し、「鼎会（卒業生財界トップによる総長支援団体）」の支援のもと、女子学生に出身校に出向いて後輩に京大を紹介してもらっています。

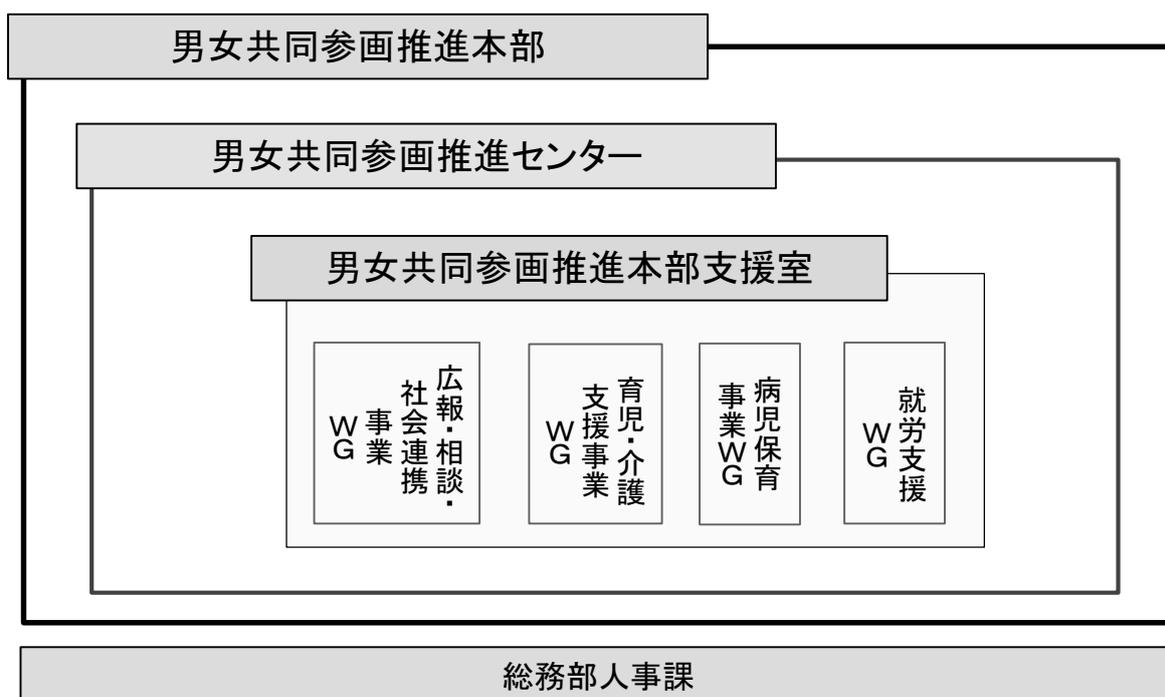
学内の男女共同参画を推進している本センターにとって大切なイベントは、女性教員懇話会との共催として今年度も開催した第 6 回“Women and the World”フォーラムです。総長の出席を

得て、多くの出席者との対話の中で、課題に立ち向かう姿勢を示していただいたことは大きな成果でした。しかし、アンケート調査から教職員共に女性の方が、男女共同参画に対する関心やセンターの活動に対する認知度が低いという問題も浮かび上がっております。

このような状況ではありますが、さらに多くの方々への事業の周知を図り、活動の重要性を御理解頂けるよう、ホームページの刷新を始めとして広報に積極的に努めていきたいと考えております。そのため、今後もなお一層のご理解、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 運営体制

男女共同参画推進本部のもと、京都大学の男女共同参画を推進するために、男女共同参画推進センターが設置されています。本センターには男女共同参画推進本部支援室をおき、そのもとに学内教員を委員とする4つのワーキンググループを設置して、それぞれの事業を企画・運営しています。



役職	氏名
男女共同参画推進センター長	稲葉 カヨ (理事・副学長)
男女共同参画推進本部支援室長	足立 壯一 (医学研究科)
広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査	今村 博臣 (生命科学研究科)
育児・介護支援事業ワーキンググループ主査	矢野 孝次 (理学研究科)
病児保育事業ワーキンググループ主査	丹羽 房子 (附属病院)
就労支援事業ワーキンググループ主査	喜多 恵子 (農学研究科)

## I 「広報・相談・社会連携」事業

# 広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ活動報告

広報事業では、3月3日に Women and the World フォーラム 6「総長と語る！京大らしさと diversity & inclusion」を女性教員懇話会との共催で行い、総長との意見交流をおこないました。また、センターの活動について、ウェブサイトや web ニュースレター「たちばな」、研究者紹介の冊子「未来に繋がる 青いリボンのエトセトラ」、卒業生紹介の冊子「Will」を通して、学内外に広報活動を行いました。



社会連携事業としては、京都大学主催で関西の他大学と連携し、第15回女子中高生のための関西科学塾を開催しました。京都大学においては、11月10日に様々な分野のグループに分かれて実験を実施しました。また、12月22日には女子高生・車座フォーラム 2019 を学内にて開催しました。両イベントとも多数の高校生および保護者にご参加いただきました。将来を担う次世代の女性たちに、早い段階から大学の雰囲気に触れ、教員や学生と交流する機会を提供することができたと考えています。

こうした従来の活動に加え、今年度は新たな取り組みとして男女共同参画センターの基金を立ち上げました。

広報・相談・社会連携事業WG主査 今村 博臣

## ■2019年度 活動記録

- |           |  |
|-----------|--|
| 5月15日(水)  | ニュースレター「たちばな」第84号発行  |
| 7月15日(月)  | ニュースレター「たちばな」第85号発行  |
| 7月17日(水)  | 日経ウーマノミクスプロジェクト「Be Ambitious!夢に向かって決意の瞬間」                        |
| 9月15日(日)  | ニュースレター「たちばな」第86号発行  |
| 11月10日(日) | 第14回女子中高生のための関西科学塾   |
| 11月15日(金) | ニュースレター「たちばな」第87号発行  |
| 12月22日(日) | 女子高生・車座フォーラム 2019  |
| 12月22日(日) | 「未来に繋がる 青いリボンのエトセトラ Vol.6」「Will Vol.2」発行                         |
| 1月15日(水)  | ニュースレター「たちばな」第88号発行  |
| 3月3日(火)   | “Women and the World”フォーラム 6「総長と語る！京大らしさと diversity & inclusion」 |
| 3月15日(日)  | ニュースレター「たちばな」第89号発行  |

# 京都大学男女共同参画支援たちばな基金

女性と男性が、公平に研究活動を行えるように支援するための、基金を設立しました。

京都大学男女共同参画推進センターでは、育児や介護等によってやりたい研究をあきらめることがないように、育児・介護中の男女研究者のための研究・実験補助者雇用制度等の施策を実施しています。

しかし、京都大学ではいまだに女性教員の比率が1割程度。さらに現行の育児・介護中の研究者への支援制度では、希望者の約半分しか支援できていません。男女共同参画推進の施策をより一層充実させる必要がありますが、現在、その予算を十分に確保できていないのです。

そのため私たちは、基金を設立いたしました。育児・介護を理由に、学生が進学や研究者になることを諦めたり、研究者が研究を縮小・中断・断念することなくしてほしい。基金を活用して各種支援・啓蒙事業を充実させ、女性も男性も安心して学業・研究に取り組める環境を目指しています。

皆様のご支援が男女の公平な研究活動に役立ちます。

お問い合わせ

京都大学男女共同参画推進センター

TEL  
075-753-2437

E-MAIL  
w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

WEB  
ホームページで  
<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp>

やりたいためにと、



京都大学男女共同参画支援たちばな基金

TACHIBANA FUND

京都大学男女共同参画支援たちばな基金

## 男女共同参画、一層の拡充を目指します。

男女共同参画の推進にあたって、京都大学は、男女共同参画推進本部・推進センターを軸にして、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援という三つの重点目標を設定し、基盤整備の拡充を進めるとともに、本学における男女共同参画の一層の深化を進めています。

そのために設置した4つのワーキンググループの活動をさらに拡充していきます。



基金でより充実した4つのワーキンググループに。

01  
WORKING GROUP

広報・相談  
社会連携

男女共同参画に向けた取り組みの周知・浸透。

女子高生や研究者を対象にしたイベントや広報誌のより一層の充実を図ります。また男女共同参画理念の浸透、優秀な女子学生の獲得、そして女性研究者の環境改善に向けた取り組みを推進します。

02  
WORKING GROUP

育児  
介護支援

仕事への復帰につながる育児・介護の諸問題の解消。

産休・育休後のスムーズな復帰のためには欠かせない15か月未満の保育園待機児童を預かる保育室を開設しています。早朝の開室時間拡張、保育室の増設による入所定員の増員、15か月未満の月齢制限の緩和など、要望が多いものの子どもの都合で対応できていない問題の解消に取り組めます。

03  
WORKING GROUP

病児保育

病気の子供を安心して預けられる体制づくり。

大学に在籍するすべての教職員・学生の子供を対象に、急な疾病により保育園や幼稚園、小学校に通うことができない子どもたちの病中病後の保育を行っています。定員や年齢上限などの制限を緩和し、希望する人にいつでも入所可能といった体制の拡充を目指します。

04  
WORKING GROUP

就労支援

少しでも多くの研究者の研究継続。

育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的で、研究・実験補助者雇用制度の運用を行っています。十分な支援ができなくなってきています。多くの問題を抱えた研究者の採択率をアップすることで、女性・男性を問わず、本制度を利用した研究の継続を可能とします。

## 2019年度

・1970年に京都大学で初めての女性教授に就き、教育研究に貢献された故柳島 静江先生のご遺志により、100万円のご寄付をいただきました。

- 6 -

京都大学男女共同参画推進センター

シリーズ “Women and the World” フォーラム 6

総長と語る! 京大らしさと diversity & Inclusion

日時: 2020年 3月3日(火) 12時00分~13時30分 (11時30分 受付・開場)

場所: 本部棟 1階 ミーティングルーム

山極壽一京都大学第26代総長は、6つの活動指針の頭文字をとった標語 *WINDOW* の結びの “W” として、「京都大学男女共同参画推進アクションプラン」(2015年度~2020年度)に基づき、明るい希望を持てる環境を整備することを宣言するために、“*Women and Wish*”を掲げました。この “W” は、2018年に、環境・支援体制に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築することも含むものとして、“*Women and the World*”と改訂されました。

男女共同参画推進センターでは、京都大学女性教員懇話会との共催で、今年度もフォーラムを開催します。今回は、京大らしさと本学の持続的成長の原動力となる、diversity & inclusion について、男女を問わず、情報や意見の交換を行う場を設けます。総長およびセンターの関係者も、家族や地域の中にいる一研究者として、また後進研究者を育てる一指導者として出席し、参加者のお話をうかがいながら、柔軟な働き方を選べる制度を構築し、学生が希望を持ってキャリアパスを描くことができる環境を実現するためには、どのような体制整備及び支援が必要であるのかについて考えます。是非、総長や当センターに多くの皆さまの生の声をお届け下さい。

出席予定者 山極 壽一 総長  
稲葉 カヨ 理事・副学長、男女共同参画推進センター長  
足立 壯一 男女共同参画推進本部支援室長  
男女共同参画支援センターWG各主査  
京都大学女性教員懇話会事務局

対象者: 京都大学に所属する教職員・学生

定員: 30名(先着順) 申込: 予約制 右のQRコードよりお申し込みください。



QRコードが読めない方は [w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp) へ所属、氏名、電話番号、メールアドレスを記入のうえ、2020年2月21日(金)までにお申し込みください。昼食を食べながらの和やかなランチミーティングを予定しています。希望者には、600円でお茶付きのお弁当の販売も致しますので、申込み時にその旨をご記入ください。お弁当申込み後のキャンセルはできませんのでご了承ください。お弁当を頼まれない方も、趣旨をお汲み取りいただき、お弁当のご持参にご協力ください。

なお、総長およびセンターの関係者は、本フォーラムにおいて一研究者個人として出席・発言します。大学の運営方針等につき、何かの約束をすることを目的とする会合ではないことを予めご了承ください。

共催: 京都大学女性教員懇話会



京都大学男女共同参画推進センター / Kyoto University Gender Equality Promotion Center



将来を担う  
女性研究者に

# 応募者募集

第十二回 京都大学

優秀女性研究者賞

# たちばな

Kyoto University

# 賞

Tachibana Award

受付期間

令和  
元年

**11/1** [金] ▶ **11/29** [金] (17時必着)

対象

学術上優れた研究成果をあげた本学に所属する45歳未満（昭和50年4月2日以降生まれ）の若手女性研究者のうち下記条件を満たす者

【学生部門】 応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること。

【研究者部門】 博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

顕彰

たちばな賞 正賞：賞状 副賞：記念品及び賞金10万円 [研究者部門・学生部門 各1名]

奨励賞 正賞：賞状 副賞：記念品及び賞金8万円 [該当者がいた場合のみ]

[応募要領などの詳細について]

京都大学のHPからダウンロードしてください。 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>  
お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話：075-753-2059・2283

【協賛】株式会社ワコール

## 第12回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）応募要領

### 1. 趣旨・目的

京都大学における若手の女性研究者の優れた研究成果を讃えるため、平成20年度に「たちばな賞（京都大学優秀女性研究者賞）」を創設しました。本制度は、学術上優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資することを目的としています。

### 2. 応募条件

昭和50年4月2日以降生まれの本学に所属する女性の大学院生及び女性研究者（研究を職務に含んでいる者。ポスドク及び日本学術振興会特別研究員を含む。）のうち、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者で、以下の条件を満たす者とします。なお、過去に学生部門でたちばな賞を授与された者も、研究者部門に応募することができます。また、過去に奨励賞を授与された者も、受賞対象となる業績が異なる場合に限り、次年度以降に本賞へ応募できます。

#### 【学生部門】

応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること（医学研究科医学専攻及び薬学研究科薬学専攻にあつては博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科及び総合生存学館の博士課程にあつては後期に相当する課程を含む。休学中の者は除く。）なお、募集年度において京都大学通則第33条に規定する懲戒を受けている者は応募できません。

#### 【研究者部門】

博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

### 3. 顕彰

受賞者は、各部門1名ずつとし、表彰状と副賞（記念品及び賞金10万円）を授与します。また、該当者がある場合は、奨励賞として各部門原則1名に表彰状と副賞（記念品及び賞金8万円）を授与します。

### 4. 提出書類

- ①応募調書（様式1／PDF）
- ②これまでの研究の概要（様式2／PDF）
- ③推薦状（様式3／PDF）
- ④業績目録（A4／形式自由／PDF）
- ⑤その他特記すべき事項（特許・書評・新聞記事などの参考

資料（形式自由）／PDF）

⑥応募対象となった書籍、論文の別刷（主なものを学生は3編以内、研究者は5編以内／PDF）

上記③の推薦状については、応募者の研究をよく理解している、本学に所属する常勤の研究者が作成してください。③以外の書類については、応募者本人が作成してください。

### 5. 提出方法

(1) 提出書類は、応募者が直接、下記連絡先にメールに添付して提出してください。

(2) 提出書類①～⑥については、PDFにして提出してください。なお、⑥については、表紙、目次及び該当部分を抜粋したPDFを提出してください。

PDF file が大容量になる場合には、大容量文書にて提出もしくはCD に焼くかUSB メモリーに入れて学内便にて提出することも可とします。

### 6. 応募受付期間

令和元年11月1日（金）～令和元年11月29日（金）

### 7. 選考及び選考結果の通知

学内に設置された選考委員会において、書面審査による第一次選考を行います。第一次選考通過者にはヒアリング審査による第二次選考を行い、受賞者を決定します。

なお、ヒアリング審査は令和2年1月下旬～2月上旬頃に実施予定です。

また、第一次選考通過者には、令和元年12月末日までに第一次選考のご連絡及び第二次選考ヒアリング審査用の資料の提出を依頼いたしますので、よろしくご願いたします。

受賞決定の通知は、令和2年2月中旬頃までに行い、学内外へ公表します。

### 8. 表彰式

令和2年3月3日（火）午後に行います。また、表彰式後に受賞対象となった研究成果の発表をしていただきます。日程等詳細については、別途、受賞者に通知します。

### 9. その他

(1) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。

(2) 受賞者の氏名、略歴及び受賞の対象となった研究業績等は公表されますので、予めご承知願います。

(3) 提出書類に含まれる個人情報は、厳重に管理し、本表彰の事業遂行のためのみに利用します。



2020

3/3 火

午後2時～午後3時

第十二回 京都大学

たちばな

Kyoto University 賞 Tachibana Award

# 表彰式

京都大学事務本部棟5階 大会議室

【京都大学たちばな賞】 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）は、優れた研究成果をあげた大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的とする賞です。

[受賞者による研究発表]

たちばな賞受賞者		奨励賞受賞者	
学生部門	<b>永田 理奈</b> (生命科学研究所 博士後期課程2年) 細胞競合の分子メカニズムの遺伝学的解明	学生部門	<b>萬成 遥子</b> (工学研究科 博士後期課程2年)
研究者部門	<b>杉村 薫</b> (高等研究院 特定拠点准教授) 機械的な力による多細胞秩序形成原理の解明	研究者部門	<b>辻 かおる</b> (生態学研究センター 研究員) <b>服部 佑佳子</b> (生命科学研究所 助教)

[プログラム]

14:00～14:05 開会の挨拶 **稲葉 カヨ** (京大大学理事)

14:05～14:15 表彰式・ワコール賞贈呈

14:15～14:25 総長挨拶

14:25～14:35 来賓祝辞 **加茂下 泰生** (株式会社ワコール取締役 常務執行役員)

14:35～14:45 研究発表1 [学生部門] **永田 理奈**

14:45～14:55 研究発表2 [研究者部門] **杉村 薫**

14:55～15:00 閉会の挨拶

お問い合わせ先:総務部人事課職員掛 電話 075-753-2059 2283 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>

## 2019年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 受賞者略歴

#### 【たちばな賞】



現 職: 京都大学大学院生命科学研究所 博士課程2年 (システム機能学分野)

専門分野: 細胞生物学

研究テーマ: 細胞競合の分子メカニズムの遺伝学的解明

(略 歴)

2016年3月 名城大学農学部 卒業

2018年4月 京都大学大学院生命科学研究所修士課程 修了

2021年3月 京都大学大学院生命科学研究所博士課程 修了見込み

(受賞歴)

#### 【学生部門】

##### 永田理奈

2016年 第4回 新学術領域「細胞競合」領域班会議 最優秀発表賞

2018年 第6回 新学術領域「細胞競合」領域班会議 優秀ポスター賞

2018年 The 13th Japanese Drosophila Research Conference (JDRC13)

Daigoro Moriwaki Award (Second Prize)

2019年 第8回 細胞競合コロキウム 最優秀口頭発表賞

2019年 第17回幹細胞シンポジウム ポスター賞

2019年 第28回日本 Cell Death 学会学術集会 優秀ポスター賞

(研究概要)

生体内にがんの元になるような異常細胞が生まれると、周辺の正常細胞がそのような異常細胞を認識し細胞死を誘導して生体から排除する現象が知られている。この現象は「細胞競合」と呼ばれ、これまでになかった新しいがん抑制メカニズムとして世界的に注目されつつある。しかし、細胞競合の分子メカニズムの詳細はこれまでほとんどわかっていなかった。そこで本研究では、ショウジョウバエをモデル生物として用い、細胞競合を制御する因子を探索するための大規模な遺伝学的スクリーニングを行った。具体的には、ショウジョウバエ遺伝子を1つ1つ破壊していき、細胞競合が起こらなくなる遺伝子変異を探索した。その結果、オートファジーと呼ばれる細胞内タンパク質分解現象に関わる遺伝子が欠損すると細胞競合が起こらなくなるという、全く予期しなかった事実を発見した。オートファジーは通常は細胞の生存に必要なプロセスであるため、これが細胞の排除に必要なものであることは驚きであった。しかし解析を進めた結果、正常細胞は近隣に異常細胞が生まれるとその細胞にオートファジーを誘導し、それによって異常細胞内に細胞死誘導遺伝子が発現誘導されて細胞死が起こることがわかった。重要なことに、このメカニズムは様々な要因で引き起こされる細胞競合現象に共通する普遍的なものであることがわかった。今回、細胞競合を駆動する中心的な分子メカニズムが初めて明らかになったことで、細胞競合現象を人為的に制御できる可能性が出てきた。これを実現できるようになれば、正常細胞の細胞競合活性を増強することでがん細胞を生体から排除するようなこれまでにならながん治療法の開発や、不良細胞や老化細胞を細胞競合により排除することでアンチエイジングや健康寿命を延伸させる画期的な医療の開発につながる事が期待される。

## 2019年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 受賞者略歴

#### 【たちばな賞】



#### 【研究者部門】

杉村 薫

現 職： 京都大学高等研究院物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS) 特定拠点准教授  
専門分野： 定量生物学、発生生物学

研究テーマ： 機械的な力による多細胞秩序形成原理の解明

(略 歴)

2001年 3月 京都大学理学部卒

2003年 3月 京都大学大学院理学研究科修士課程修了

2005年 4月 日本学術振興会特別研究員 DC2

2006年 3月 京都大学大学院理学研究科博士課程修了

2006年 3月 博士(理学)の学位取得(京都大学)

2006年 4月 日本学術振興会特別研究員 PD

2007年 4月 理化学研究所基礎科学特別研究員

2010年 4月 理化学研究所脳科学総合研究センター研究員

2011年 4月 京都大学物質-細胞統合システム拠点特定助教

2013年 10月 JST さきがけ研究者(兼任)

2017年 4月 現職

(受賞歴)

2001年 3月 The 10th East Asian Joint Symposium on Biomedical Research, Young Investigator Award

2003年 3月 The 3rd International Student Seminar, The Best Oral Presentation Award

2006年 3月 Kyoto University-NUS International symposium, The Best Poster Award

2007年 7月 The 8th Japanese *Drosophila* Research Conference, Moriwaki Daigoro Prize

2010年 10月 平成21年度理研研究奨励ファンド・連携の芽ファンド合同成果報告会 優秀発表賞

2013年 9月 京都大学学際研究着想コンテスト 奨励賞

2014年 8月 日本生物物理学会 第10回若手奨励賞

(研究概要)

多細胞生物のかたちは、個々の細胞が集団として協調的に振る舞い、組織が正しく成長し変形することで形成される。成長する組織の中では、細胞が能動的に力を生成し、力学環境を感知して、動的にかたちや機械物性を変化させる。このことは、生き物の形作りは、非生物材料を対象とする従来の物理学・材料科学の単純な拡張では理解できないことを示唆している。では、自然界に存在する多様な動植物の形を生み出す、細胞の力学とはどういったものだろうか？私は、物理モデリング、数理統計、基板微細加工技術などの理工系諸分野の思想と技術を生物学に統合することで、この問いに答えることに挑戦してきた。代表的な業績として、第一に、上皮組織で働く力を画像データからベイズ推定する手法の開発が挙げられる。力のベイズ推定法は、既存手法では不可能だった、力の非侵襲的な定量を可能にする強力な技術である。代表的な業績の第二は、組織応力場による多細胞秩序形成の物理・分子メカニズムの解明である。組織応力場による細胞機能制御メカニズムはほとんど報告されておらず、力を介した新しい生体内情報処理原理を分子レベルで解明した本研究は高い先駆性と独創性を有する。本研究で明らかになった分子メカニズムは発生・恒常性維持の様々な局面で働いている可能性があり、今後の研究の発展が期待される。

## 2019年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 受賞者略歴

#### 【奨励賞】



現 職: 京都大学大学院工学研究科 博士課程 2年

日本学術振興会特別研究員(DC2)

専門分野: 電気工学

研究テーマ: レドックスフロー電池の電解液流量制御についての基礎的研究

(略 歴)

2016年3月 京都大学 工学部 電気電子工学科 卒業

2018年3月 京都大学工学研究科 電気工学専攻 修士課程 修了

2018年4月 京都大学工学研究科 電気工学専攻 後期博士課程 入学

2019年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)

(受賞歴)

2016年度 電気情報通信学会非線形問題研究会奨励賞

2018年度 非線形ワークショップ合同夏合宿 口頭発表 最優秀賞

2018年度 工学研究科馬詰研究奨励賞

(研究概要)

再生可能エネルギーの大量導入に伴い、電力の需給バランスの維持が課題となりつつある。この問題の解決のため、大規模電力貯蔵装置の開発に期待が寄せられる。本研究の対象であるレドックスフロー電池もそうした電力貯蔵装置の一つである。すでに北海道の南早来変電所において実証試験も行われている。この電池では、エネルギーの入出力部であるセルと貯蔵部であるタンクが分離されており、両者の間をポンプにより電解液が循環する。この電解液の循環構造がレドックスフロー電池の最大の特徴である。電解液の循環によって酸化還元反応に必要な反応物がタンクからセルへ供給され、反応物供給によりセル内の酸化還元反応が持続される。したがって、理想的にはタンク内の反応物が全て消費されるまで充放電が可能になる。しかしながら、入出力電力量が急増した場合に電解液流量の値が小さいままだと、セル内での反応による反応物の消費に対してタンクからの反応物供給が追いつかず、急激な電圧降下や副反応による内圧上昇が発生してしまう。大きな電力変動が頻発する電力系統においてはこうした問題も多く発生すると予想される。よって、セル内の反応物濃度や要求された入出力電力量に応じて動的に電解液流量を制御する必要がある。本研究では電解液流量制御について理論的設計指針を構築すべく、数値的解析およびモデリングを行ってきた。数値解析では、セル内の反応物濃度の時間変化を表す常微分方程式と Nernst 式を使用し、負荷変動発生時のレドックスフロー電池の放電挙動を調べた。これにより、電解液流量および負荷変動発生時の初期反応物濃度について、上述の急激な電圧降下が発生する条件を明らかにした。この条件は、流量制御則の設計に役立つ。またモデリングでは、セルとタンク間の反応物輸送時間の影響を表すモデルを導出した。従来のレドックスフロー電池のモデルでは、タンクからセルまでの反応物輸送が瞬時に行われるものと仮定されてきた。しかしながら、実験室規模の実機が表す電圧挙動からも、反応物輸送に由来する遅れが10秒から20秒程度確認されている。電力系統で使用されるような大規模のシステムではさらに大きな遅れが現れるものと想定される。本モデルを用いて引き続き数値解析を行い、実機を用いた検証も行う。そうして得られた知見を用いて、電解液流量制御則を構築する。この電解液流量制御によって、セルの充電率変動を抑制し安定した電力供給を持続できれば、系統に接続された他の機器への負担を軽減することにつながる。

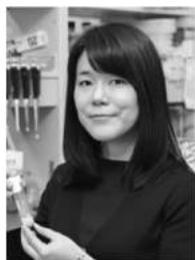
#### 【学生部門】

萬成遥子

## 2019年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 受賞者略歴

#### 【奨励賞】



#### 【研究者部門】 服部 佑佳子

現 職: 生命科学研究科 助教

専門分野: 発生生物学

研究テーマ: 「オミクスデータから読み解く神経発生・栄養応答機構」

(略 歴)

2006年3月 東京工業大学生命理工学部卒

2008年3月 京都大学大学院生命科学研究科修士課程修了

2012年3月 京都大学大学院生命科学研究科博士後期課程研究指導認定退学

2008年4月～2011年5月 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2012年10月 京都大学大学院生命科学研究科特定助教

2014年3月 博士(生命科学)の学位取得(京都大学)

2015年4月 京都大学大学院生命科学研究科助教 (現在に至る)

(受賞歴)

2011年 Outstanding Oral Presentation Award (Kyoto University the 9th International Student Seminar)

2014年 第31回井上研究奨励賞 (公益財団法人 井上科学振興財団)

2016年 平成27年度笹川科学研究奨励賞 (公益財団法人 日本科学協会)

(研究概要)

近年、生命科学分野では、遺伝子発現や代謝産物の網羅的解析(マルチオミクス解析)技術の発達により、従来の生物学では扱うことが難しい生命現象にアプローチが可能となってきました。本研究では、独自の実験系で得られた大規模データを、バイオインフォマティクスにより統合解析し、生物学的な意味を丁寧に読み解くことで、以下の2つの分子機構を明らかにしました。

#### 1. 神経細胞の突起発達を担うサブタイプ特異的な転写調節プログラム

樹状突起の形態は、サブタイプごとに非常に多様であり、生理機能の違いに大きく寄与しています。そこで、ショウジョウバエの感覚神経のひとつ dendritic arborization (da) ニューロンをモデル系として用い、サブタイプ間で形態的に異なる神経突起の特徴を生み出す2つの転写調節因子の働きに着目しました。そして、それらの転写調節因子が支配する遺伝子発現プログラムを、全ゲノムにわたって解析し、互いに比較することで、サブタイプごとの形態的な特徴を生み出す機構を見出しました。

#### 2. 栄養環境への応答適応機構

世に生まれ出た若い個体は、食餌から栄養を摂取することで劇的な成長発達を遂げ、生殖能力を備えた成体へと成熟します。しかし、動物がどのようにして様々な栄養環境に巧みに応答し、適応しているかについては不明な点が多く残されています。そこで、ショウジョウバエ近縁種のうち、自然界で様々な物を食べる広食性の2種と、特定の物のみを食べる狭食性の3種について、栄養バランスに対する適応能力、および遺伝子発現や代謝レベルでの生体応答の網羅的な比較解析を行いました。その結果、広食性種は、炭水化物の比率に応じた遺伝子発現制御や代謝恒常性維持の機構によって、異なる栄養バランスに柔軟に適応するのに対し、狭食性種ではそのような機構が働かず、高炭水化物食下で成長できないことを明らかにしました。

ショウジョウバエと哺乳類では、遺伝子、組織やホルモンなどの多くが共通しており、これらの研究成果が、ヒトの神経発生機構や栄養への適応応答機構を理解する足がかりとなることが期待されます。

現在は、研究を更に発展させ、ショウジョウバエとその栄養を支える存在としての共生微生物叢の研究や、栄養条件が神経突起の発達に及ぼす影響とその分子機構の解析にも取り組んでいます。

## 2019年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 受賞者略歴

#### 【奨励賞】



現 職: 京大大学生態学研究センター 研究員

専門分野: 生態学

研究テーマ: 雌雄差が生態系において果たす役割の解明

(略 歴)

2007年3月 京都大学理学部卒業

2009年3月 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学系 修士課程 修了

2012年3月 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学系 博士後期課程 修了

2009年4月-2012年3月 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2012年4月-2013年3月 京都大学理学研究科研究員

2013年4月-2016年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)

2016年4月-2017年3月 京大大学生態学研究センター 研究員

2017年4月-2017年10月 Stanford University Visiting Postdoc Scholar

2017年4月-2019年3月 京大大学生態学研究センター 機関研究員

2019年4月(～現在にいたる) 京大大学生態学研究センター 研究員

(受賞歴)

2010年 第54回日本応用動物昆虫学会ポスター賞

2011年 第58回日本生態学会ポスター優秀賞

2011年 第1回京都大学理学研究科竹腰賞

(研究概要)

多くの生物に性別による違い(雌雄差)があり、雄同士の戦いや、雄と雌の相互作用など、同じ種の中での個体同士の関係において雌雄差が果たす役割は古くから研究されてきました。しかし、雌雄差は、他の種に属する生物にも影響を与えているのではないかと考え、研究を進めています。

研究材料のヒサカキという植物には、雄個体と雌個体があります。このヒサカキの蕾を食べるソトシロオビナミシヤク(以下ナミシヤク)という蛾の幼虫は、雄の蕾を食べていますが、雌の蕾では見つかりませんでした。実験的に、幼虫に雌の蕾を与えると、数個の蕾を食べた後に99.8%が死亡しました。化学成分の分析などにより、蕾の萼が幼虫の生死を左右しており、雌花の萼には防御物質が多く含まれることが分かりました。しかも、ナミシヤクの雌成虫は、幼虫の餌となる雄の蕾を選び産卵していました。

ナミシヤクは日本中に生息し、ツツジ科の花や実を食べることが知られています。一方、ヒサカキは北海道や標高の高い場所には分布していません。そこで、日本中からナミシヤクを採集して、実験を行いました。すると、ヒサカキが分布していない地域の雌成虫にヒサカキを提示しても、うまく幼虫の餌となる雄の蕾を選ばませんでした。このことから、ヒサカキを利用している地域でみられた雄花の蕾に卵を産む行動は、雌雄差のあるヒサカキを利用するための適応として進化したと考えられます。

この研究から、雌雄の違いは他の生物の生活史や進化に影響を与えていることが分かってきました。そこで、次に、雌雄の違いは、少数種の昆虫だけではなく、多様な種の生物にも影響を与えるのではないかと考え、多くの種からなる微生物相に着目しました。すると、ヒサカキと、その近縁種のハマヒサカキの、両種の雄花の蜜には、雌花の蜜より、多くの酵母と細菌が住んでおり、雌雄の花の蜜では、最も多くみられる細菌の種が違うことが分かりました。また、これら微生物相の違いは、雄花と雌花で蜜の成分が異なることに起因することも分かってきています。しかも、蜜に棲む微生物は送粉を行う昆虫に影響を与え、種子生産に影響している可能性があり、現在検証を行っています。

このように、蕾を食べる昆虫や、蜜に棲む微生物に関する実証研究を重ねることで、雌雄差は、周囲の生物にも様々な影響を及ぼすことが初めて明らかになりました。これらの研究から得られた知見は、動植物にかかわらず、多くの生物に当てはまるものであり、「雌雄差」は多様な種に属する生物に影響を及ぼしていることを示唆しています。そのため、雌雄差は、単に種内での繁殖にかかわる戦略としてだけではなく、周囲の多様な、他の種に影響を及ぼす要因としても、研究を進める意義があると考えられます。これからも、この独自の視点から、雌雄差が、多様な生物同士の関わりの中で果たす役割を解き明かしていきたいと考えています。

#### 【研究者部門】

#### 辻 かおる

## 講義・ゼミ

### ■ILAS セミナー「ジェンダーと社会」

2019年度のILASセミナー「ジェンダーと社会」では、前半は、授業テーマに関連する学生や講師を招いて、ジェンダーやセクシュアリティに関するフリートーキングを行い、後半はジェンダーに関する読みたい本を読んで文献の要約や見解をレジュメにまとめて発表し、全員でディスカッションをしました。

2019年度 4月開講のILASセミナー（前期） 「ジェンダーと社会」講師・テーマ一覧			
回	講義日	講師	テーマ
1	4月8日	落合 恵美子	オリエンテーション
2	4月15日	〃	自己紹介
3	4月22日	落合 恵美子 鈴木 七海	性的同意について
4	5月7日	〃	〃
5	5月13日	落合 恵美子	文献案内・発表計画
6	5月20日	〃	『女性活躍後進国ニッポン』について発表・意見交換
7	5月27日	〃	『ジェンダーとわたし<違和感>から社会を読み解く』について発表・意見交換
8	6月3日	〃	発表準備(文献の要約及び自身の見解)
9	6月10日	〃	『彼女は頭が悪いから』について発表・意見交換
10	6月17日	〃	『男同士の絆』について発表・意見交換
11	6月24日	〃	『82年生まれ、キム・ジョン』について発表・意見交換
12	7月1日	〃	『平等と効率の福祉革命』について発表・意見交換
13	7月8日	〃	『「レズビアン」である、ということ』について発表・意見交換
14	7月22日	〃	まとめ

月曜日5限（16時30分～18時）、男女共同参画推進センター会議室にて



## ■全学共通科目「ジェンダー論」

現代日本のジェンダーを広い視野に位置付けて理解し、問題解決の方法について自ら考える力を養いました。適宜ゲストスピーカーをお招きし、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブ、日本および世界の他の地域のジェンダーの状況や課題について講義いただきました。

2019年度 10月開講の全学共通科目（後期） 「ジェンダー論」講師・テーマ一覧			
回	講義日	講師	テーマ
1	10月7日	落合 恵美子	日本の子育てはなぜ難しいのか
2	10月16日	〃	伝統を問い直す：二つのアジア
3	10月21日	〃	近代家族とジェンダー
4	10月28日	〃	家族の戦後体制は終わったか
5	11月6日	川島 隆	ハイジと日本
6	11月11日	鈴木 和代	女性医師/医学研究者として生きる：多様性の中の一事例
7	11月18日	小畑 史子	男女雇用機会均等法・育児介護休業法・女性活躍推進法
8	12月2日	GENESIS	性的同意
9	12月9日	丸山 里美	女性の貧困
10	12月16日	伊藤 公雄	男性学とは何か
11	12月23日	中里 英樹	ジェンダー平等と父親の育児休業の国際比較
12	1月6日	片田 孫 朝日	男性のワーク・ライフ・バランス
13	1月14日	高嶋 航	女子野球・京都・ジェンダー
14	1月20日	落合 恵美子	まとめ

月曜日3限（1時～12時30分）、吉田南構内 国際高等教育院棟31にて



知ろう！語ろう！  
**京都大学！**

京都大学の受験を目指す女子高校生の皆さん！  
受験の前に京大の教育・研究を知り、  
学生や研究者と話をしませんか？

はい、  
質問！

京都大学の  
受験を目指す  
女子高生の  
みなさまへ

参加  
無料

そういう  
ことか！

女子高生の  
ための

# 車座フォーラム

KURUMAZA  
FORUM 2019

何が  
できるの？

あ、  
なるほど！

クラブや  
サークルは？

どんな  
研究を  
するの？

これが  
知りたい！

開催  
日時  
2019.  
12 | 22 [SUN]  
10:00-16:00

会場

京都大学国際科学イノベーション棟  
シンポジウムホール、他

募集  
定員

女子高校生100名程度  
保護者50名程度（先着順）

主催／京都大学男女共同参画推進センター  
共催／京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

申込  
方法

男女共同参画推進センター  
ホームページをご覧ください。  
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

申込期間

9.24[火]-11.22[金]

お問合せ

MAIL [w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)  
TEL 075-753-2437  
〒606-8303 京都市左京区吉田橋町京都大学 男女共同参画推進センター

# 知ろう！語ろう！ 京都大学！

女子高生のための

# 車座 フォーラム

KURUMAZA FORUM 2019



**京** 都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、色々な疑問をお持ちのみなさん、京都大学の企画する「女子高生・車座フォーラム2019」にいらっやいませんか？  
京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうと「京都大学を知ろう 学生・研究者と語ろう」を企画しました。フォーラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域があるのか、なぜ今の分野を選んだのか、といった大学進学に関わる話をはじめ、試験勉強、進学後の大学生活、研究の面白さや苦勞など、さまざまなテーマについての疑問に、学生や研究者がお答えします。  
保護者の方々の疑問にも、学部生や大学院生がお答えします。どうぞ奮ってご参加ください。

当日の流れを  
チェック！

## PROGRAM [プログラム]

10:00~10:30	受付
10:30~10:35	司会の挨拶
10:35~10:50	開会の挨拶・京都大学の紹介
10:55~11:15	女性研究者の講演
11:20~11:45	京大【おもろチャレンジ】の紹介
11:50~12:00	講師紹介・グループワークの説明
12:00~13:00	昼休憩 ※昼食は各自持参 ※学生食堂の利用可
13:10~14:40	グループワーク「車座になって話そう」 <div style="background-color: #ccc; padding: 2px; display: inline-block;">高校生</div> 講師・京大生とのグループワーク <div style="background-color: #ccc; padding: 2px; display: inline-block;">保護者</div> 京大生との交流(13:10~14:40)
14:40~15:00	移動（休憩）
15:00~16:00	まとめ
16:00	閉会
閉会后16:30まで、入試に関する質疑応答を受け付けます。	
16:00~16:30	入試質疑応答 個別対応(教育推進・学生支援部入試企画課) 学部別質疑応答 個別対応(学生スタッフ)

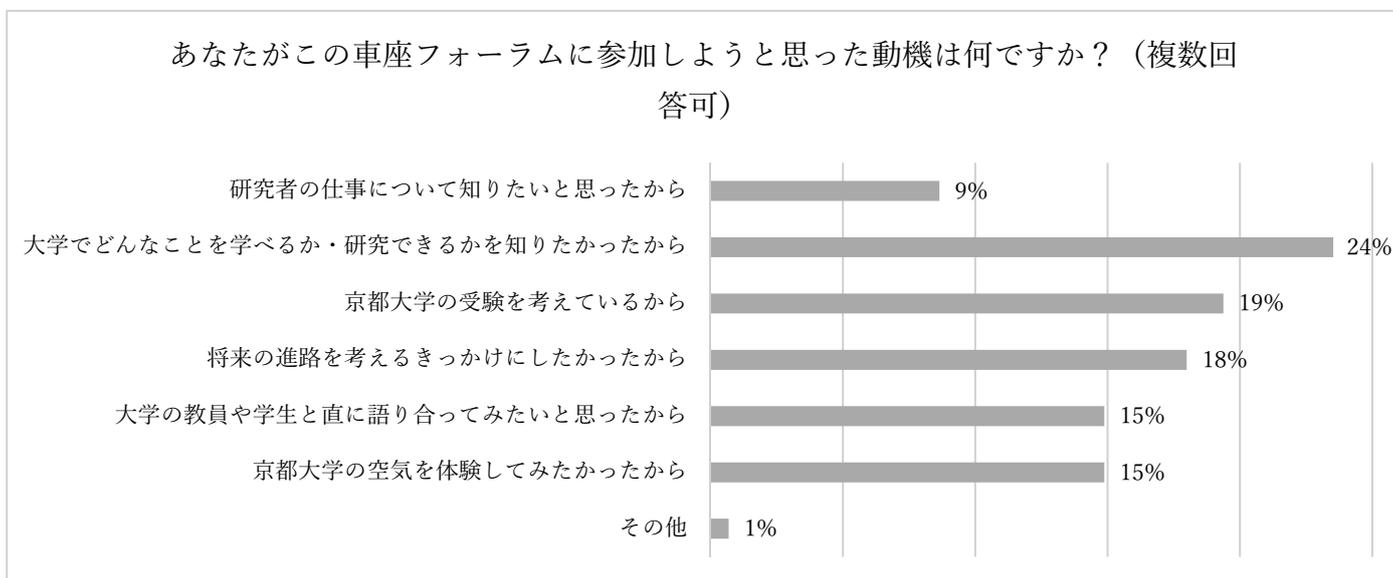
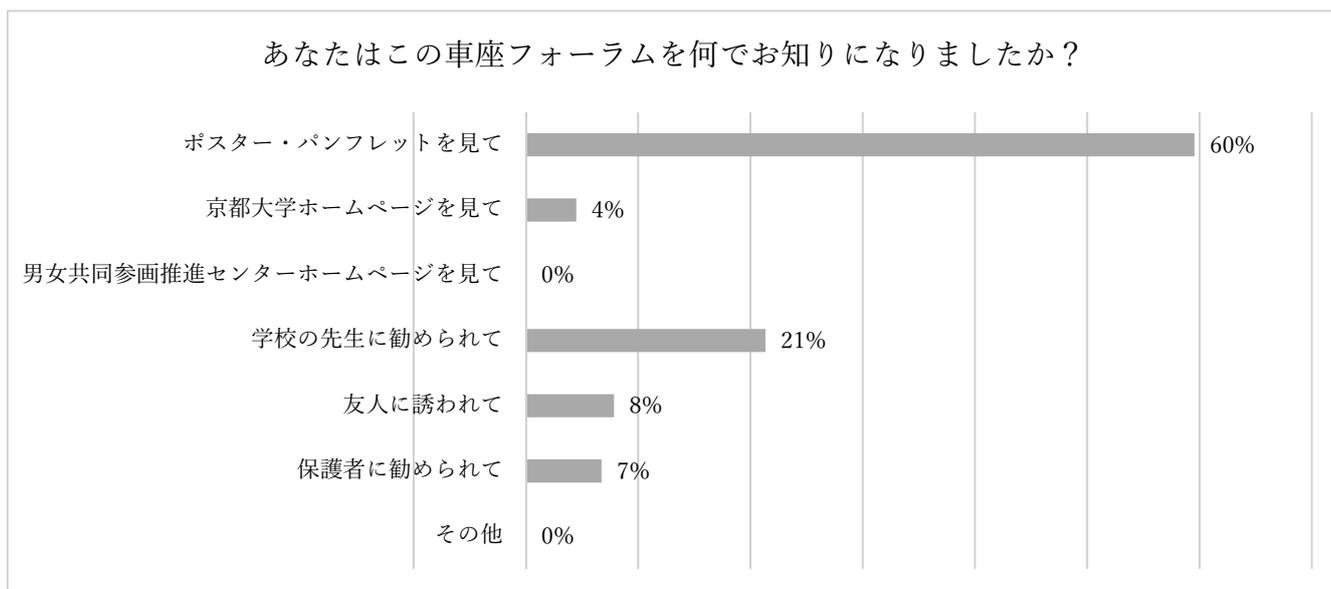
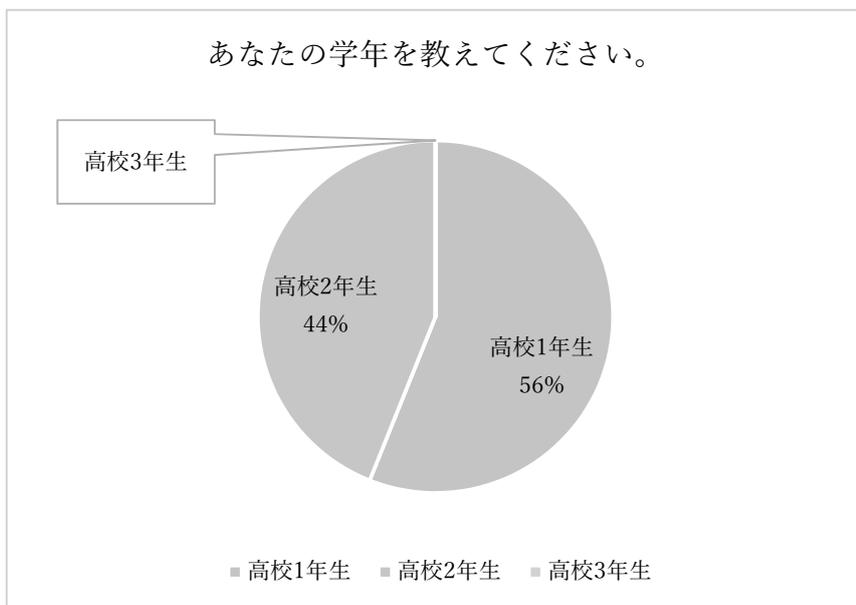
あなたは  
どの学部を  
知りたい？

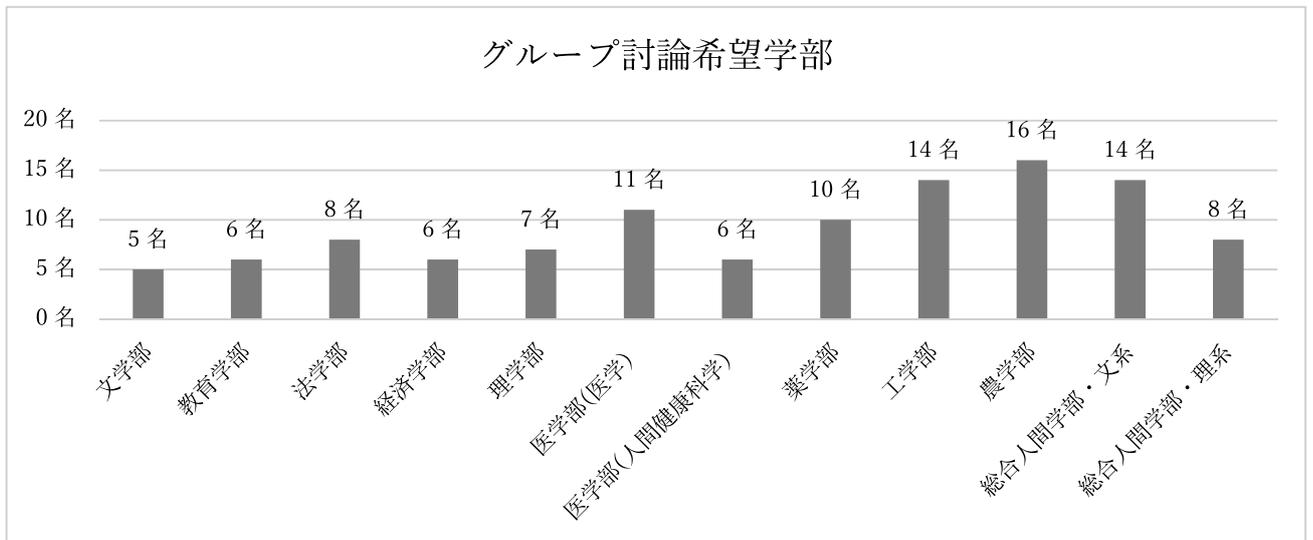
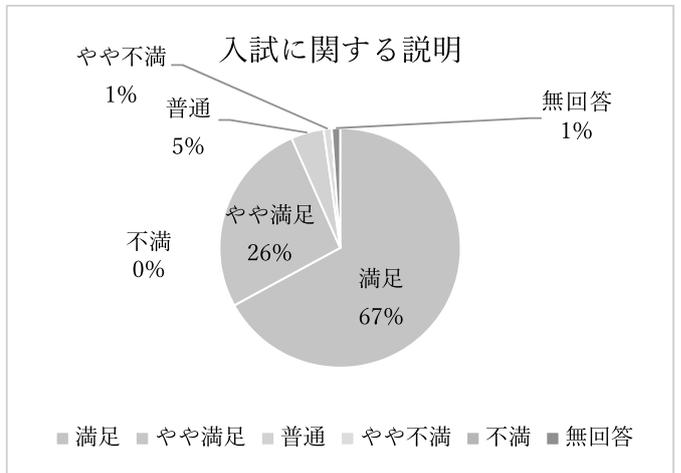
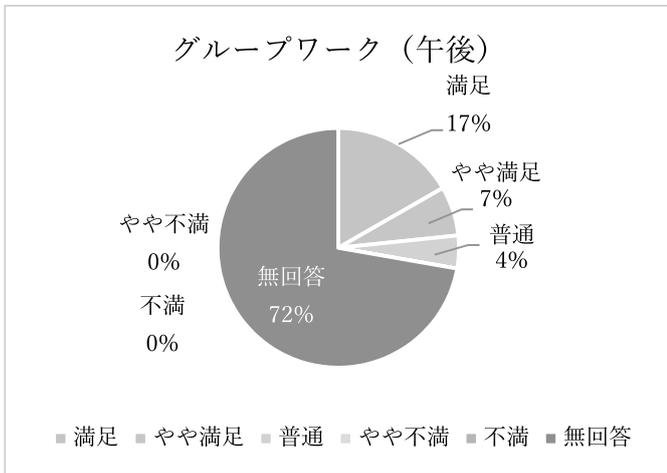
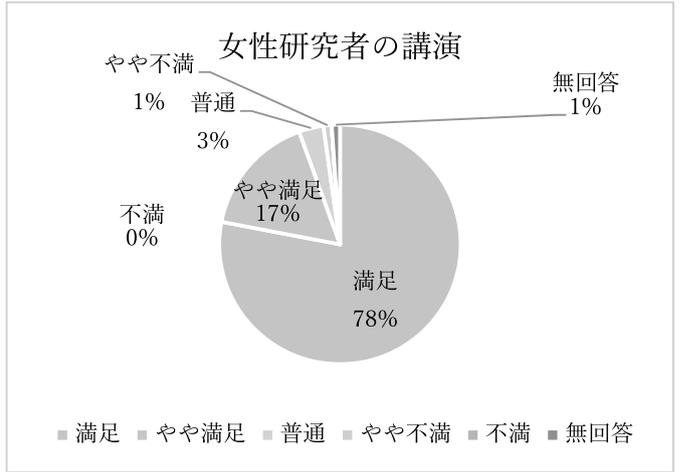
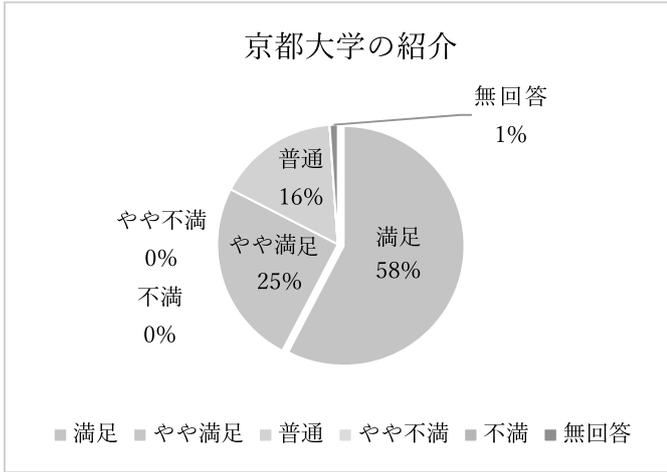
### グループワーク 希望学部

- A 文学部
- B 教育学部
- C 法学部
- D 経済学部
- E 理学部
- F 医学部（医学）
- G 医学部（人間健康科学）
- H 薬学部
- I 工学部
- J 農学部
- K 総合人間学部（文系）
- L 総合人間学部（理系）



■車座フォーラム参加者アンケート1  
高校生

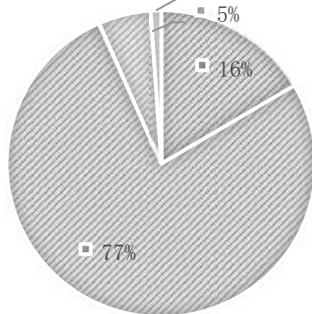




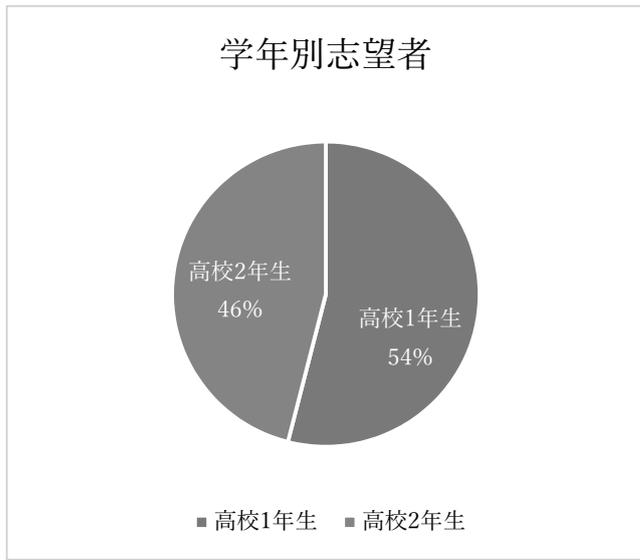
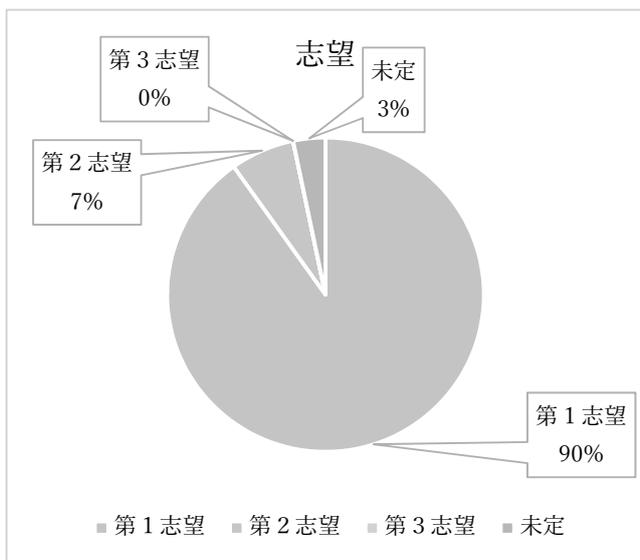
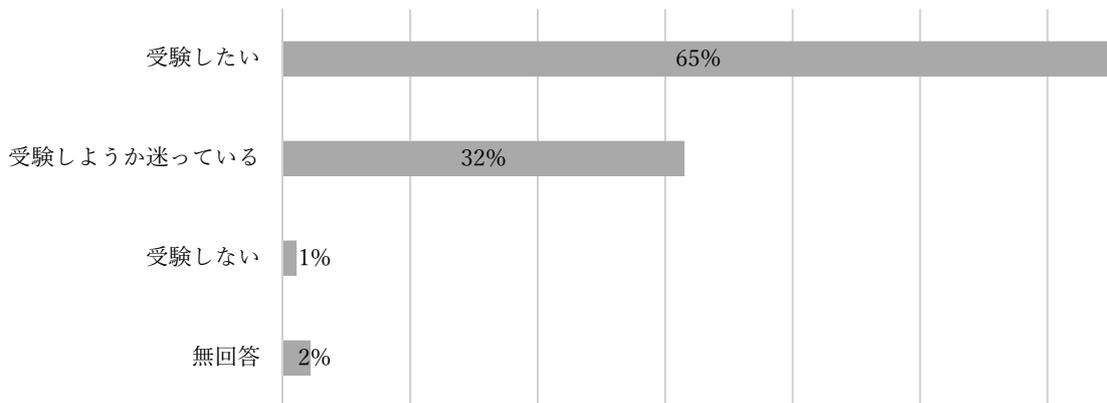
このフォーラムに参加して、将来、研究者になりたいと思いましたが？

■研究者になりたい ■研究者も将来の選択肢のひとつである ■研究者になりたくない ■無回答

16% 77% 1% 5% 1%

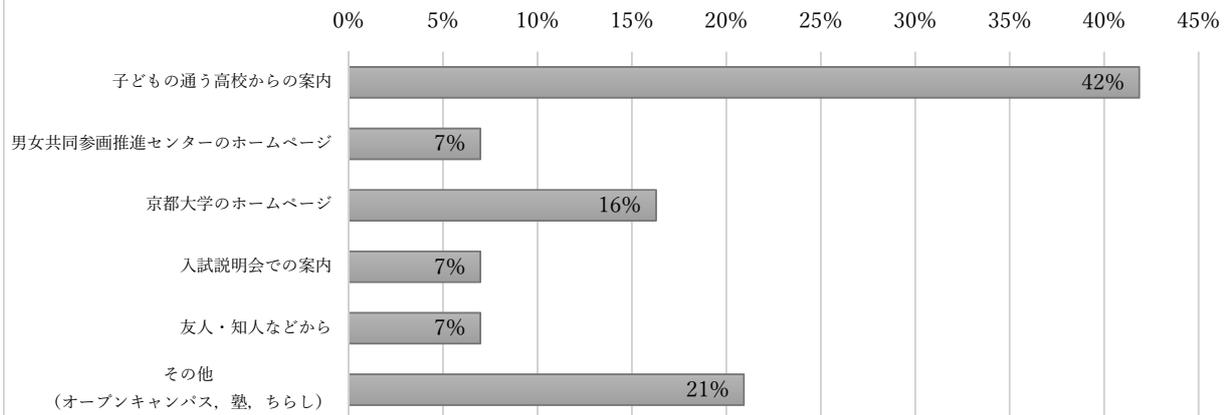


このフォーラムに参加して、京都大学を受験したいと思いましたが？

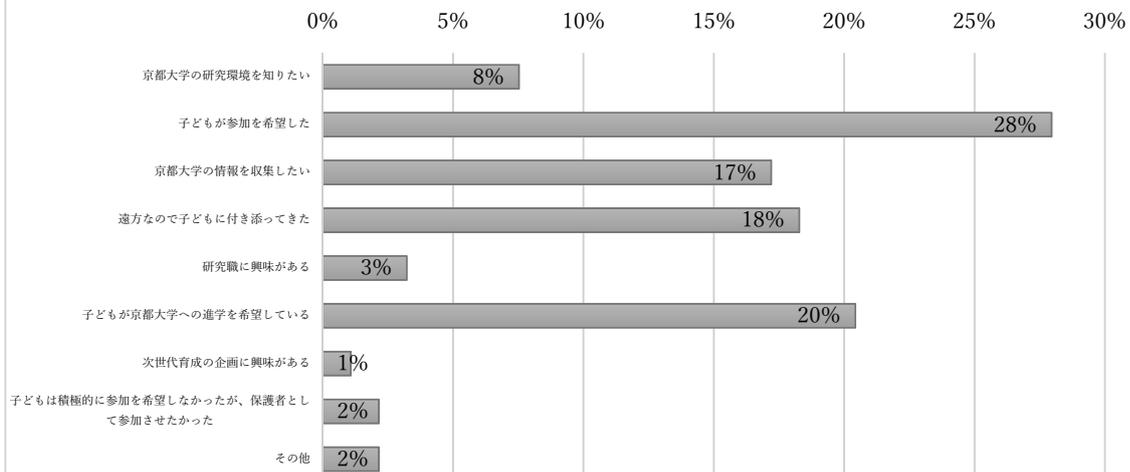


## 保護者

車座フォーラムを知ったきっかけ（複数回答）

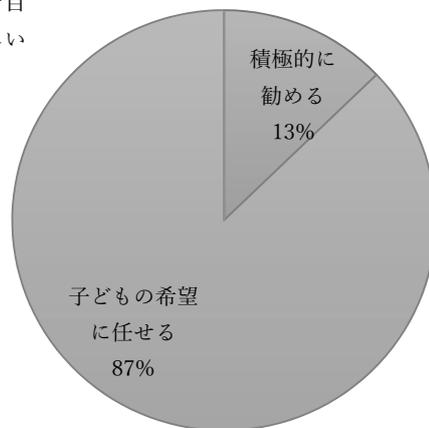


参加の動機（複数回答）



子どもが研究職を目指すことについて

別の職業を目指してほしい  
0%



■ 積極的に勧める ■ 子どもの希望に任せる ■ 別の職業を目指してほしい

## ■女子高生・車座フォーラム 2019 参加者アンケート2

### 高校生より

#### Q:自由感想

- ・オープンキャンパスや大学の資料、HP などではわからない話を聞くことができ、貴重な体験だったと思います。
- ・自分の進路について考え直すきっかけになり、選択の幅が広がったのは良かったです。
- ・志望学部の先輩、先生、自分と同じように目指す高校生と交流できてとても楽しく、充実した時間となり、参加してよかったです。
- ・今まではただ漠然と、やりたいことを追いかけているだけだったが、話すうちにビジョンが見えてきた気がしました。
- ・京都大学の女性研究者への支援が厚いことを感じました。研究者という進路も視野に入れて頑張ります。
- ・自由な学風がすごくいいなと思った。「おもしろチャレンジ」のオーロラの話がすごく面白かった。
- ・オーロラのおもしろチャレンジの話が印象的で、京大の自由さがよくわかった。女子大学生のお話が身近で分かりやすく良かった。漠然と目指していた京大が、未来の自分が過ごしたい、輝きたい場所として想像できるようになった。
- ・想像以上に自由度が高くて、とてもいいなと思った。
- ・自分がやっている内容や自分がこれから進む道について、くわしく語ってくれた先生や学生の方が多く、とても参考になりました。
- ・受け身な自分はあまり発言できなかったけれど、他の方の意見を聞いてとても新鮮で、刺激を受けた充実した時間となりました。
- ・京都大学には自由な空気が流れており、学ぶことが楽しくなりそうだと思います。女性も活躍しやすい環境だと思います。
- ・高校までの決められたプログラムと違い、大学では自分で選んでいくことが多いと感じました。目標を定めてからも広い視野を持ち続け、興味があるならやってみることが大事だとわかりました。
- ・結婚・出産・育児を考えると、自分がしたい研究は若いうちにしたい方がいい、という内容が強く印象に残りました。
- ・他の学校、地域の普段なら関われない人たちと交流することができて、とても刺激を受けました。京都大学では始めからどの科目を学ぶかを選択するということではなく、3回生になってから選べるという点が、自分の進路に焦ることなく、ゆったりと決めることができると安心しました。

- ・すごく話しやすい雰囲気が進めてくださり、とても楽しめました。
- ・研究に特化された方の話、また実際に京大に通っている先輩方のお話を聞くことができ、自分が京大に行きたい！行く！という思いが強くなり、貴重な機会を経験できました。
- ・女性研究者の講演では、フィールドワークについて詳しく聞くことができ、様々な経験をすることで視野が広がるのだと感じた。
- ・京大の女子学生が全体の 20%くらいしかないということを知り、とても驚きました。フォーラムを通して、京大で勉強したいという気持ちがとても強くなったので頑張ります。
- ・今までずっと思っていた疑問を解決することができました。参加して良かったです。
- ・研究者には男性が多いイメージがありましたが、実際私自身も将来の選択の一つに研究者を考えているので、先輩方である女性研究者や学生の生の経験談を聞いて、さらに研究者に対しての興味が大きくなりました。今回のフォーラム全体を通して、京大の自由な校風と探求精神に強くひかれました。
- ・趣味に没頭しながら極める、という在学中の方々の姿がとてもかっこいいと思いました。自分のやりたいことを全力でサポートしてくれる京大の先生方の姿勢にも大きな魅力を感じました。おもしろチャレンジに自分も参加してみたいと強く思いました。
- ・とても勉強になりました。進路探求にも役立ち、このイベントを後輩たちにもお勧めしたいと思います。
- ・大学の先生とお話できるのはめったにない貴重な機会です。京大法学部のことに限らず、今の法律の動きも聞くことができ、とても濃密な時間を過ごせた。
- ・職業としての「研究者」について考えるいい機会になりました。
- ・京都大学の魅力を、研究と学生生活という面から知れて良かったです。
- ・昔読んだ本で、女性研究者が苦勞した本を読みましたが、今は女性の研究者であるからといって苦勞することは少なくなっていることを知り、安心しました。理学部は2回生までは自由に授業を取れることを知り、自分に合っていると感じました。
- ・夏は部活に忙しく来ることができないので、この機会に参加できれ良かったです。京大ならではの特色も教えてもらったので、今後の進路を決めるときに参考にします。
- ・おもしろチャレンジについてのお話の中で、京大生の方々が楽しんで勉強していると強く感じました。
- ・自由に学べる環境がとても素敵だと思います。
- ・自ら調べようと思ったことのない学部も、面白そうだと思います。
- ・先生がとても気さくで、研究者のイメージが変わりました。来て良かったです。
- ・京大というと雲の上の存在でしたが、意見交換をして少し身近に感じることができました。
- ・選んだ学部以外のことも学べることがわかり、良かった。
- ・グループワークは話しやすい雰囲気で、笑いもあって楽しかったです。

- ・質問して実際の声を聞くことで、私が研究者を夢見ることにつかえていたことが取れました。参加して良かったです。
- ・京大で輝いている女性の方を見て、かっこいいと思いました。
- ・自分から質問するという企画がとても楽しかったし、やはり自分の質問に京大生や先生が答えてくれるというのは刺激的で、印象に残った。興味本位で参加したフォーラムでしたが、京大に行きたくなったので、勉強に対するやる気もわいてきて、とても有意義な時間になったと思う。
- ・学生自らが行うことが多くて、自由な感じがとても良いなと思いました。この自由な感じが社会に出てからも役立つと思うので、積極性が高まる良い経験だと思いました。
- ・少人数だったので、聞きたいことを全て聞くことができた。関東に住んでいると、京大の情報が少ないように思うので、とてもよい機会でした。
- ・漠然と医療に進みたいと思っていたけれど、色々な話を聞いて女性の医療関係者について視野を広げられたり、研究も楽しそうだと思いました。
- ・自分が思っていた以上に、学部や学科を超えた研究ができることがわかり、自由の学風を強く感じました。
- ・おもしろチャレンジを始め、一人一人の興味を持ったことを突き詰めるためのサポートが充実していて、本当に魅力的な大学だと思いました。

**Q:このフォーラムの改善点があれば教えてください。**

- ・総人・文系のグループは15人ぐらいいて、質問しきれなかった。5人ぐらいが最適だと思った。
- ・全体会の会場の換気をしてほしい。暖かいのか酸素が足りないのか、ぼんやりしてしまうことがあった。
- ・学生の方々が忙しいことは承知していますが、もう少し時間を取っていただいて、もっと詳しくお話を伺いたかったです。
- ・グループワークの時の大学生の数を2人とかにしてほしい。
- ・グループワークの担当講師の方の研究分野を事前に知りたい。
- ・もう少し少人数の方が話しやすい。

## 保護者より

Q:開催時期、開始・終了時間についてお聞かせください。

- ・今回初めてこのフォーラムを知り、参加させていただきました。時間的にもたっぷり満足できる内容でした。
- ・まさかの高校駅伝と同じ時間帯に集合で、交通機関がどうなるか心配でしたが、何とか間に合って安堵しました。この時期、この時間帯で良いと思います。
- ・日時ともによいと思います。
- ・オープンキャンパスの時期とずれているため、参加しやすいです。
- ・時期、時間ともにとってもよいと思う。片道2時間かけての参加だったので、10:30開始はありがたかった。
- ・1年生での参加でしたが、今の時期でちょうどよかったです。また、関東からでも時間的に来やすく、日曜日でしたのでさらに参加しやすかったです。
- ・高校のテスト期間にかからず適度な時期だと思います。遠方なので、10時30分開催は助かります。
- ・もう少し早く終わってほしい。食事のとれるところを増やすなど改善してほしい。混んでいて時間ギリギリだった。
- ・良いと思います。「高1の冬」で良かったです。
- ・冬休みに入ってから開催を希望します。学期中であれば、部活動などで参加できない場合もあるので。
- ・高1、高2が対象と思われ、冬季休暇に入ったこの時期で良いと思います。遠方からの参加で、朝は非常に早くて大変でしたが、仕方ないと思います。
- ・時期・開始・終了時間ともに色々な配慮がされていて、とても良かったです。
- ・開催を増やしてほしい。
- ・夏休みのオープンキャンパスに参加できなかったのも、この時期に開催されてありがたかったです。
- ・お昼休憩をもう少し長くしてほしい。
- ・遠方からの参加のため、時間調整が難しかった。
- ・夏の暑い時期より動きやすく良いです。
- ・開始時間がもう少し遅いと、東京からも日帰りできるかと思います。

Q:このフォーラムに関するご意見をご自由にお書きください。

- ・普段「どうなんだろうね〜？」で終わらせていた質問ができて良かったです。
- ・文化人類学の石井先生のフィールドワークに関する様々な体験を通して、発想力や現地の方々を受け止める力を養ってこられたということを押聴し、ライフイベントと合わせて女性として出産・育児しながらの研究生生活も詳しく教えていただき、大変有意義な内容と感心しました。保護者対象の学部生との懇談も有意義なものでした。等身大の答えが返ってきて良かったです。これからも継続してこの企画をさらに実りあるものとしていただきたいです。
- ・昨年に引き続き参加です。やはり京都大学はとても魅力があります。娘には積極的に目指してほしいと思います。
- ・昼食のレストランが混んでいて、席に座るまでに時間がかかり集合時間ギリギリになった。休憩が1時間半あればよかった。
- ・直接うかがってお話を聞き、感じる事ができ、子供も保護者の私も具体的に大学入試に向けての目標の定め方を考えることができました。
- ・学生さんの話もたくさん聞くことができ、京都大学を少し近くに感じる事ができた。先生のお話を聞いて、女性が子育てをしながらそんな風に仕事をする道があるのかと、自分の今までの考え方が変わった。とても素晴らしいと思った。大変だと思うが、自分のやりたいことをするのは生きていくうえでとても大切だと思います。
- ・学生さんの生の声を聞いてよかったです。
- ・意識の高い先生方や学生さんたちのお話を聞いて、とても刺激を受けました。今後の進路における指針となる良い機会を得られたことに感謝したいと思います。また来年も参加したいです。
- ・「京大」というだけで何かはるか遠くに存在しているもの、特別なものであったが、実は多くの人のために開かれたものであることがわかりました。親にも子供のやりたいことがわかり、応援できるようになった。
- ・このグループフォーラムにより、よりつつこんだ話を聞く機会が持てるのはありがたいです。
- ・私(母)自身、女性管理職として長年苦勞してきており、非常に刺激になりました。ただ、若い社員の扱いに苦慮している側としては、社会に出るための教育について、何かしらの話ができればよかったな、と思いました。
- ・子供たちは自分の希望する学部で、少数で専門的な機会に触れることができ、その時間を利用して保護者への質問にも学生さんが丁寧に答えてくださり、不安やわからないことの多いこの時期、大いに助かり勉強になりました。
- ・非常に丁寧に教えていただき、ありがとうございました。
- ・学生さんの受験体験、日々の生活など実体験が聞いて参考になりました。また、各学部の

アピールでは、京大にはいろいろなカラーがあると感じました。

- ・ホームページや大学案内ではわかりにくかったことがわかった。こうした機会が年に数回あるとありがたいです。
- ・女性の声(目線)で大学での研究についてお話を聞くことができ、参考になりました。また、学生さんのお話は、具体的な大学生活をイメージすることができました。
- ・先生や学生さんからお話が聞けて、京大が一層魅力的に思われました。
- ・小冊子にある稲葉先生の、「しなやかに、たおやかに、うたれ強く」という言葉に非常に感銘を受けました。石井先生の講演では、結婚・出産後も自分の挑戦したい分野の研究を続けられている(しかも海外生活も含め)姿に、女性だからといって身を引かなくてもいいんだな、そういう環境もあるんだな、と感動しました。
- ・女性だけで限られた人数なので、オープンキャンパスの時より興味がある分野の具体的な内容を詳しく聞くことができた。今は学部を迷っているが、色々なことに興味を持ち、そのことを受けとめてくれる先生方がいてくださって、京大のイメージをよいものにしてくれました。
- ・2年連続参加させていただきました。「京大に絶対入りたい！」と意志は固まったようなので、車座フォーラムに感謝です。
- ・他の保護者の方もよく勉強されていて、好感が持てました。
- ・全体会では、自分が思いつかないような質問もしていただいたので、それも参考になりました。

**Q:保護者向けの企画「京大生と保護者との交流会」について改善点があれば記入ください。**

- ・事前に質問を受け付けてほしい。そうすれば生徒側も回答をある程度用意できるのではないかな。
- ・女子学生の意見が聞きたかった。
- ・全体での質問はなかなか厳しいので、事前質問をメールで募集するのがよいと思う。また、親は待機か質問があれば個人的にでもよいと思う。

そう遠くないむかし、  
女子高校生だったあなたに。

あなたの母校で  
京都大学の魅力を伝える

女子高生  
応援大使  
事業のご案内

SHE  
≡ YOU

そこにいるのは、あの頃のあなたです。

本事業は、ここ数年で多数の卒業生(女性)が本学に入学している高校について、卒業生である本学の女子学生に「応援大使」として母校訪問いただき、(女子)生徒と座談会のような形での話し合いの場を通じ、京都大学の魅力や大学生としての生活、学習方法等におけるアドバイスなどを皆さんから直接後輩たちに伝えることで、母校の後輩が進路等について考える手助けをしていただきたいという趣旨により、実施するものです。

## 女子高生応援大使のご案内

### 募集

- ・女子高生応援大使事業を希望する高校を募集  
→あなたの母校が、是非あなたに母校訪問していただきたいと応募してきました！

### 協力

- ・あの頃のあなたのように、進路を考える後輩に少しの手助けをしてみませんか。良かったこと、楽しいこと、勉強のこと。京都大学の魅力をあなたの言葉で、母校の後輩に伝えてください。

### 訪問

- ・原則授業等に影響を及ぼさない時期(8月～9月)に訪問していただきますが、高校との話し合いで変更することも可能です。(ただし、遅くとも1月中旬までに実施してください)

### 実施方法

- ・皆さんご自身の体験(本学入学後の学習環境、学生生活、受験時のこと等)を、素直な言葉で後輩に伝えてください。
- ・実施形式については、座談会のような形を想定していますが、特に制限はありません皆さんと高校側との話し合いにより、決定いただきます。

### サポート

- ・片道分の交通費と謝礼(6,000円)を支給します。
- ・本事業については、応援大使として訪問いただく皆さんご自身の体験を、皆さんの主体性に基づいた素直な言葉で後輩に伝えていただきたいと考えています。そのため、母校訪問に際し、本学教職員は同行いたしません。

## 申込方法

お申し込みは、メールで受け付けます。

MAIL: [hsgca@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:hsgca@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

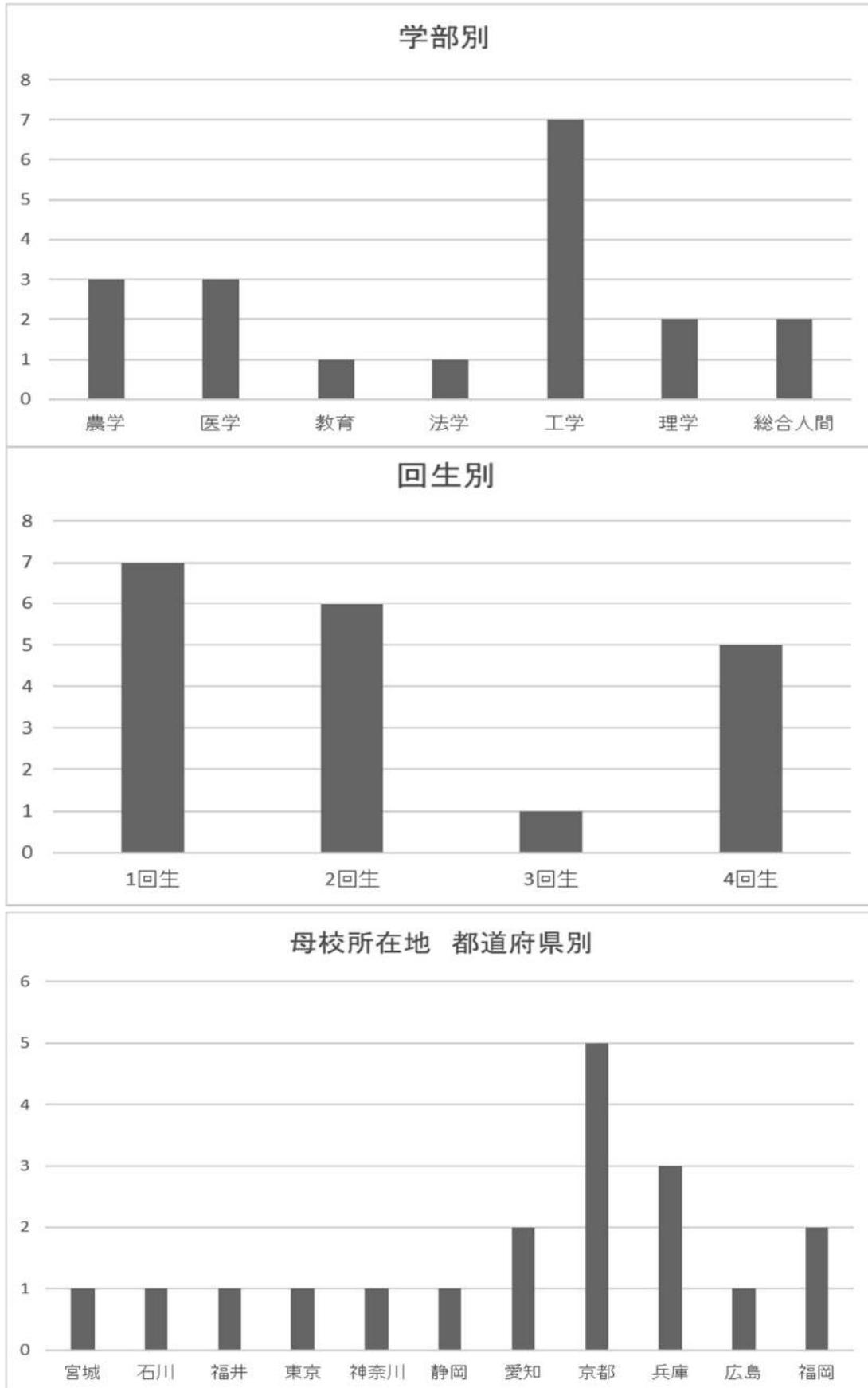
件名を「女子高生応援大使」とし、①氏名(ふりがな)②学部・学科③学年  
④出身高校を上記メールアドレス宛てに送信してください。

京都大学「女子高生応援大使」事務局

(男女共同参画推進センター内)

TEL:075-753-2437

2018年度 女子高生応援大使 母校訪問実績



## 2018 年度 女子高生応援大使 母校訪問後の感想

- ・中学生も来てくれ熱心だとおもいました。
- ・予想される問題にあらかじめスライドを用意し参加したが、多くの質問があり積極性に驚いた。参加した生徒は全員理系であった。自分の経験を役に立てることができ、企画に参加してよかった。
- ・パワーポイントで説明したので、しっかり見ていてくれた。今回の発表が生徒のやる気を引き出せたり、京大への興味に繋がることができると嬉しい。
- ・進路指導担当者と相談して専攻や大学での学びを紹介。専攻に関連のある生徒にもアナウンスをしてもらい、京大進学の子には個別対応を行う時間を設けた。
- ・卒業研究の話などできたので、卒業後の進路などについても具体的に話すことができた。
- ・様々な学年がきてくれていたので、どの程度話せばよいのか迷うところもあったが、興味を持ってくれた生徒は個別質問にも来てくれた。生徒に近い立場でアドバイスができて良かったと思う。
- ・京大志望の子に対し話せ、関心を持って聞いてくれたので話しやすかった。終了後生徒の感想シートを見せてもらい、自分の思いが伝わったかなと思った。
- ・女性研究者の小冊子を進路指導部においてもらうことにし、そのことを広報した。1年生は終了後に個別で研究者になりたいと相談に来た人がいて効果はあったように思う。
- ・前期が可能ならオープンキャンパス開始前に行った方が、特に1.2年には効果的かと考える。
- ・多くの質問が出て、和やかな雰囲気を進めることができた。
- ・高3は京大模試と重なり参加できなかったが、京大希望の高2が参加してくれ熱心に話を聞いてくれた。
- ・理系女むけ座談会という形で行った。スライドが終了して輪になって話したが砕けた感じで話せて幅広く回答できた。全体的に勉強へのモチベーションをあげてくれたと思えたので講演した甲斐があった。
- ・定期テスト直前だったので1名の参加となった。個別対応となったが多くの質問を受けた。
- ・女子学生が少ないことを知ってもらい経験を話した。女子が少なくても安心して勉強できる環境であることを話した。(学年末テストの放課後)
- ・思った以上に真剣に聞いてくれた。質問も多く進めやすかった。来てくれた人以外にも京大志望は多く、今の段階では学部を決めかねている人が多かった。
- ・説明45分、質疑応答15分に設定し、各学部の特徴、高校時代の過ごし方など興味を持っていた。終了後も質問に来る生徒が多く30分ほど別室対応を行った。
- ・受験終了後だったので、京大を志望するというイメージがない中での話は難しかった。

夏頃であったら志望校選びや夏休みの勉強、部活のことなど踏み込んだ話ができたとと思う。

・女子限定でしたが参加希望の男子もいた。女子だから将来は不安だという意見は聞かなかった。人生設計をしっかりと考えている女生徒はまだいないように感じた。

・1年が多く普段の学生生活に興味があったように思う。京都大学、女子にどのように特化すればいいのか最後まで分からず、ちゃんと伝わっているか不安。

・女子限定より女子向けにした方が、結果的には京大に興味を持ってきている生徒が増えるかと思う。

・卒業生の話として興味を持ってくれた。受験の実感がまだわいていない感があったが、話を聞いてもらったことで少しだけでも身近に感じてもらえたのではないかと思う。母校で話ができよかった。

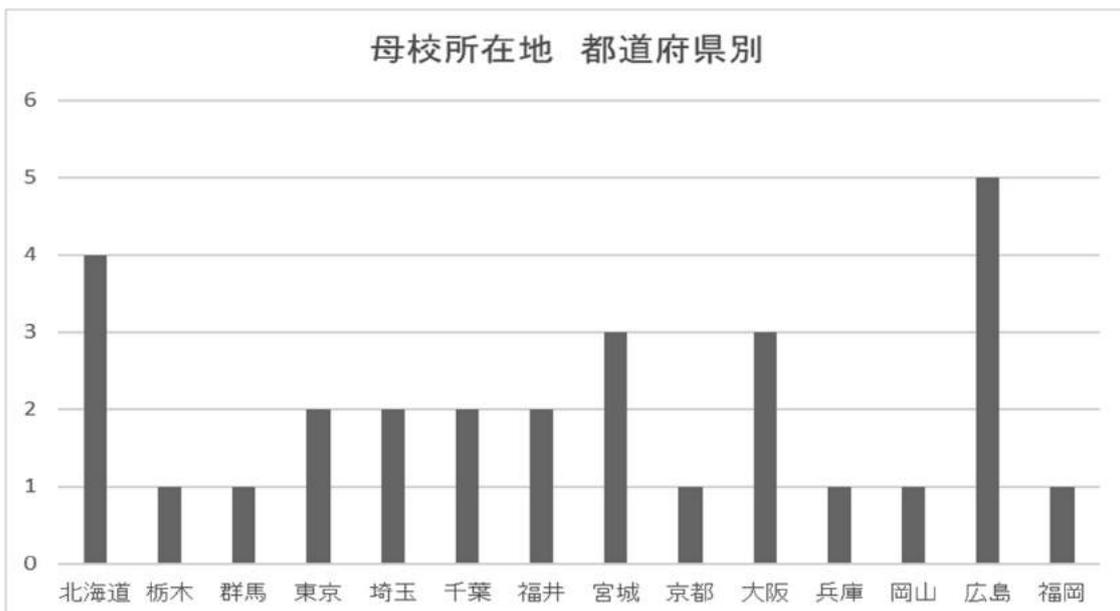
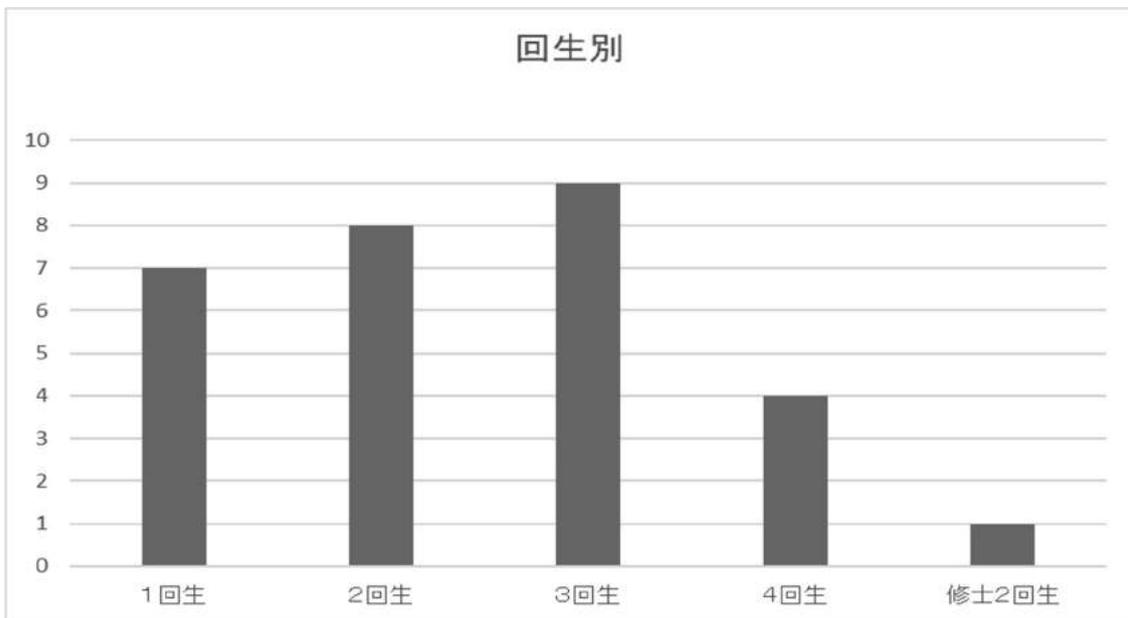
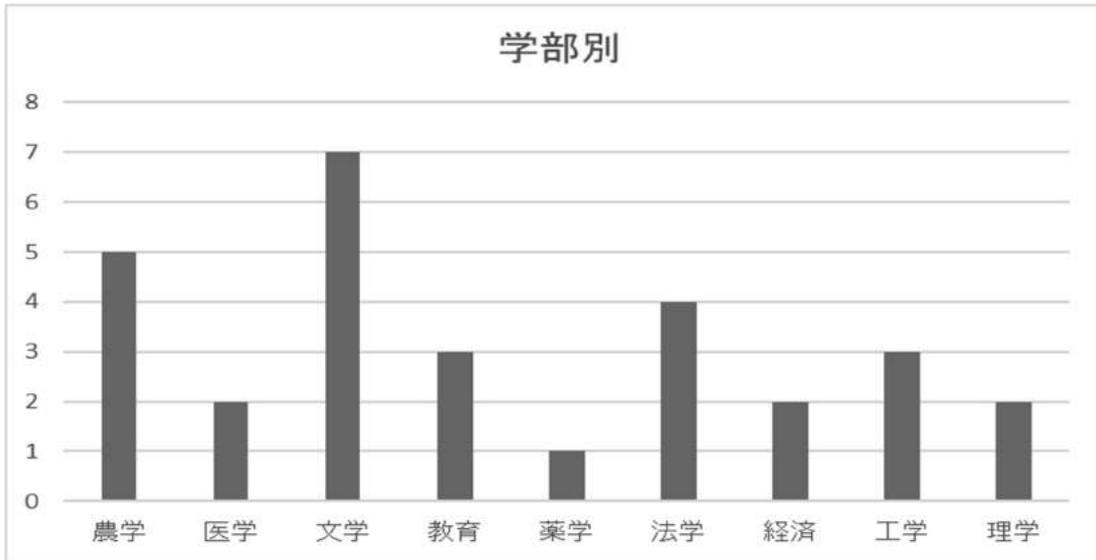
・理系選択者に話をするようになった、研究生生活や実験の様子を写真付きで紹介したところ興味を持ってもらった。京大志望の少ない学校の中でも十分狙えるといったことが伝えられたと思う。

・1年生全体に20～30分程度話し、1、2年希望者数名と1時間半ほど座談会をおこなった。質問も自由にでき、興味を持ってもらえました。座談会では、ゆっくり各人と話せ、少人数のよさを実感できた。先生方にも喜んでもらえ、また機会があればよろしく願いしたいとのことでした。

・高校の主催したイベントに大学生8名とともに参加。分科会では、京大理系を目指したい高校生に京大の魅力、受験のエピソードなどを話した。男女参加型だったが女生徒が特に熱心な態度で臨んでくれた。



2019年度 女子高生応援大使 母校訪問実績



## 2019 年度 女子高生応援大使 母校訪問後の感想

・想像していたよりも、学部・学科での勉強内容や進路、高校時代の勉強の仕方などについて質問が多く出て、有意義な時間になったと思います。案外大学生がどのような生活を送っているのか分からないようで、各回生ごとの私の生活を説明したら興味を持って聞いてもらえました。

・人数が少なかったので質問形式にして、学生が聞きたいテーマについてお話ししました。事前に配付した資料に関すること、部活との両立のこと、推薦入試についてなど様々な質問が出て積極性・熱心さをすごく感じました。もともと先輩の話をよく聞き、参考にしてくれる生徒が多い学校ですが私も参加してよかったという手ごたえを感じました。

・高校生から様々な質問なども出て、盛り上がった座談会であった。高校と大学の違いを生徒が理解する助けになれたと思う。座談会の後にも相談に来てくれる生徒がいて、個別の面談にも一定の需要はあると感じた。まとまった数の生徒の前での座談会は、聞く生徒達の積極性により雰囲気が変わった。

・高校生にとっては大学生活は未知のものであり、具体的な生活のことを詳しく話すとても興味深い様子であった。進路を決める上で実際に現役の学生から話を聞くというのはとても良い影響を与えると思うので、このような企画をもっとやっていくべきだ。またやはり一番関心があるのは、実際にどんな受験勉強をしていたかということであった。使っていたテキスト、勉強時間、効果的なやり方など、かなり詳しく質問してくれて、とても有意義な会になったと思う。

・例年受験人数も多くないため 10 人程度の参加を予想していましたが、1 年生の参加も多く、70 人もの生徒が参加してくれて驚きました。「学部学科にとらわれず興味があることを学ぶことができる」という点に魅力を感じた生徒が多かったようです。全体に向けた座談会のあとも個別質問に並んでくれた生徒もいました。関東近辺の大学に進学する人が多い学校ですが、受験を控えた 3 年生はもちろん、1、2 年生のうちから京大に興味をもってくれる後輩が増えてくれれば嬉しいと思いました。

・予想していたよりも大勢の後輩達の前でお話することになり、大変緊張しましたが、熱心に我々の話を聞いている学生が非常に多く、やりがいを感じました。また、高校時代の勉強法についても触れさせて頂いたのですが、これは自分の中でも当時の受験勉強を振り返り、これからの学びに生かす一助にすることができたのではないかと思います。講演後には 10 数名の生徒が並んで質問に来て下さり、受験全体や京都大学に対しての関心が高い生徒が多いと感じました。特に参加した生徒は 1 年生が多く、今のうちから大学受験に対し高い関心を寄せていることに驚き、また大いに期待を寄せられる講演となりました。

・想定・事前に連絡を受けていたより大人数の参加であり、関東の進学校であるとしても京大がひとつの選択肢として関心を持たれていると感じた。志望系統(文・理)はほぼ半々

であった。学年による人数内訳は、高校3年生5人、高校2年生3人、高校1年生16人、中学3年生1人であった。

京都という土地の魅力や、京都で過ごす学生生活の魅力を写真やキーワードを含んだスライドを用いて話した。人数が多くやや緊張感があったが、和やかな雰囲気を進めることができた。質問事項では、学校選択や学部選択、勉強の仕方への関心が高かった。訪問京大生側は、基礎が大事で高3の段階でも基礎を重要視し勉強していたと話したが、学校内、とくに受験の近い学年ではやはりいかに華やかな応用問題まで解けるか、何点取ればよいのかという不安が大きいようであった（物理教師との会話にて）。

・思ったより多くの生徒に参加してもらい（25名）、嬉しかった。もう一人の京大生の先輩がパワーポイントを準備してくださって、助かった。高校側が事前アンケートを行っていて、非常にありがたかった。

・男女含め20名の高校2年生の方が参加してくださり、終始熱心に聞いてくれていました。京都大学や大学生活についてパワーポイントにまとめたものを話した後、何人かの生徒さんから出た質問に答えたり、パワーポイントでは話せなかったことなどを話したりしました。質問の内容は、大学生活で今まで楽しかったことや、大学での過ごし方、受験勉強のやり方など多岐にわたっていました。生徒さんの間から出た質問を事前に先生から送っていただいていたので、質問が途切れてしまった時に大変助かりました。京都大学の魅力など十分に伝えられたかどうかは分かりませんが、私にとっても大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

・高校と大学の違いについてもあまりわかっていない生徒も多数いて、京大の生の魅力を伝えられて良かった

・東京大学・京都大学を志望する2年生100名に講演をしてきました。私が受験生の頃どのように勉強してきたかと、京都大学の魅力、私が思う勉強の意義について話しました。講演の後、文系理系に別れた座談会、そして女子学生を対象とした座談会を行い、高校生に自由に質問をしてもらい私がそれに答える形式を取りました。母校は3年生の夏まで部活をする生徒も多いため、部活と勉強の両立方法や、限られた時間で効果的に勉強する方法などを訊かれました。また、特に女子学生からは、一人暮らしについてや大学生活について、京都の大学に進学することについて両親の意見はどうだったのか、などと言った質問を受けました。やはり、女子学生は男子以上に親元を離れて進学することを懸念しているのだと感じました。

・受験を経験した身としてリアルな話ができたと思う

・高校生にとって先生方にいつも通りお話ししてもらいより実際に先輩の声を聞くことでやる気が出るのかなと思いました。私が高校生の時のことを思い出しても、先輩にお話をいただくことで不安な部分がなくなったり、明確な勉強法が分かることがあったので、京大に来るために頑張った勉強法、高校生の内にやっておいた方がいいことなどを話してきました。みんなメモを取りながら聞いてくれて、話しに行くことができ良かったと思いました。

80 人をグループに分けてグループごとに話しましたが、みんな不安な部分や気になる部分は同じでした。彼らが参考にしてまねをするかどうかは彼ら次第ですが、自分流の勉強法を見つけ出す手助けができたかなと思います。京大の魅力についても分かってもらえたと思います。

・大学についてイメージが湧いて、楽しみだという反応をたくさん貰った。また、高校1年生はまだまだ受験を先に考えていたと思うので、少し意識するきっかけになったと感じた。講演会の後に、希望参加者のみ懇親会を開いた。15人ほど生徒が来て、受験の時は一日中どれくらい勉強したか。とか1年生のときの模試の成績などについて聞かれた。講演会では質疑応答の時間が取られ、たくさん質問をいただいたので興味を持って聞いてもらえたかなと思う。

・京都大学ならではの授業や、前期にとった授業でおもしろかったものなどを紹介することができ、興味をもってもらえたと思う。的確な勉強に関するアドバイスができたかどうかは自信がない。

・希望者のみ参加の座談会だったため数人程度の参加を予想していたが、予想より多くの人数が集まり驚いた。母校の生徒たちは自分の話を熱心に聞いてくれ、また自分の高校生活や受験生時代、大学生活などについて多くの質問が出た。自分も高校時代勉強や進路のことについて悩んでいたため、後輩たちに自分の経験を話すことで少しでも参考になれば良いなと思った。自分が受験生だったころ、周囲に京大志望の人があまり居らず、京大受験に関する情報も手に入れにくいと感じていたため、自分が母校に訪問することで京大をもっと身近に感じてもらえたら嬉しいと思った。母校に訪問でき、お世話になった先生方に会うこともできてよかった。

・大学生活の具体的な様子や京大の魅力を十分伝えられたと思います。

・現在3年生で、東大・京大・一橋大の受験を考えている生徒に対して、1時間ほど質疑応答などを行いました。実際、高校生が何を不安に感じているのか全く想像がつかない状態で高校に行ったのですが、話しているうちに自分の当時の心理状態が思い出され、懐かしい気持ちになりました。この時期に何を考えながら勉強していたか、各教科への力の入れ方などを質問され、二年前の朧気な記憶を頼りにアドバイスをしました。当時の自分の勉強内容を記録していたノートを持っていっておいで正解でした。

・早い段階から京都大学を意識して勉強している女子学生が多いことに驚いた。かなり積極的に質問してくれたのでやりがいがあった。

・将来やりたいことが見つからない、勉強より大切なことはありますか？など、勉強法や入試情報にとどまらない本質的な質問も多く、面白かったです。とても真剣に話を聞いてくださり、終了後もたくさんの生徒が追加の質問に来てくれ、自分たちの話に興味を持って聞いているようでした。

・多くの高校生が個別に質問に来てくれて、食いつきも良く、いい会にできたと思います。

・京大を志す人が想像以上に多いなという印象を受けた。京大の魅力を伝えられたと思う。

・研究について知りたくてもわかりやすく説明してくれる場が少ないと感じている女子高生が多いことを知った。女子高生に近い目線で研究について話せたと思う。

・高校側の積極的な広報により、予想より多くの生徒に話を聞いてもらうことができた。質問も多く挙がり、生徒にとっても私自身にとっても有意義な時間になったと思う。また部活の後輩も参加してくれ、もともと京都大学に関心のなかった生徒にもきっかけを与えることができたように思う。

・今回は、医学部座談会だったので、医学部への入学を目指す2年生に話をした。先生が質問を投げかけて下さって、それに私ともう1人の医学部生が1人ずつ答えていくという形式だった。皆キラキラした目で私の話を聞いてくれていた。質問項目が終わってからの、質疑応答だけでなく、座談会が終了した後も10人以上の生徒たちが私のところまで個人的に質問をしに来てくれ、本気度を感じ、話に来た甲斐があったなと思った。また、話したいことが沢山ありすぎて、どう話していけばいいのかかなり迷ったけれど、私の伝えたかったことは伝わったようで、担当して下さった先生から感激した、来年もやってほしいというお言葉を頂き嬉しかった。自分の高校時代を振り返ったり、今自分が大学で行っている活動について伝えたりする機会はないので、自分自身も改めて見直すきっかけになる有意義な時間だった。

・生徒が皆真剣に話を聞いてくれて嬉しかった。高校生に進路のアドバイスをすると同時に、自分自身のこれまでの進路と、その決定に至るまでに考えていたことを振り返る良い機会となった。帰り際に母校の授業の様子を目にして、自分が高校生だった頃の学問に対するがむしゃらさを思い出し、大きな刺激を受けた。



# 第14回女子中高生のための

# 関西科学塾

数学や理科が  
得意かどうかなんか  
関係ない

まずは楽しい!  
ということを  
感じてほしい

参加者  
募集

2019年 6/16 (日) 締切

全日程の参加でも、一部の日程のみの参加でもOK!

今回はB日程は開講しません。  
A~Eは無料。Fは実費(宿泊費・食費)のみ自己負担。

★  
交流会

## A

2019年 7/21 (日) 12:30~16:45

【定員150名】 大阪市大

身近なロールモデルと気軽に話そう!  
企業や大学で活躍する女性研究者による  
講演 & 理系女子大学生との交流会

- ◆講演(女性研究者・理系卒業生・関西科学塾OG)
- ◆学内実験施設等見学ツアー
- ◆現役女子大学生との交流会

講演の詳細は  
裏面参照



実験  
実習

## C

2019年 10/27 (日) 午後

大阪府大 神戸大 奈良女子大

【定員250名】 大学の研究を体験!

小グループに分かれて実験

実験テーマは  
裏面参照



〈対象: 中学生・高校生〉

実験  
実習

## D

2019年 11/10 (日) 午後

大阪大 京都大

【定員130名】 大学の研究を体験!  
小グループに分かれて実験



実験テーマは  
裏面参照

〈対象: 高校生〉

★  
企業  
見学

## E

2019年 12/22 (日) 午後

【定員25名】 中西金属工業株式会社

科学で広がる世界を見よう!  
科学の現場で働く女性技術者と交流しよう!  
ベアリング・リテーナーやコンペア・システムで  
トップクラスのシェアを誇るNKC

〈対象: 中学生・高校生〉

詳細は  
裏面参照



実験  
発表

## F

2020年 3/20 (金・祝) ~3/21 (土)

【定員80名】 大阪市大

実験の背景にある原理現象を理解!

実験から、結果の整理、考察、発表準備、発表まで。  
充実の2日間!

開催  
場所 3/20 (金・祝) 大阪市立大学  
杉本キャンパス・あべのキャンパス  
3/21 (土) 大阪市立大学杉本キャンパス

〈対象: 中学生・高校生〉

F日程の参加者は、下記旅行手配会社を通して、  
旅行代金実費8,730円(内訳: 1泊2食(夕・朝)付宿泊費8,030円  
・昼食代700円)を事前にお支払いいただきます。  
※上記記載金額は、2019年4月現在のものです。  
増税等に伴い、上記金額は変更される場合があります。

旅行手配会社: 大阪市立大学生生活協同組合 杉本事業所  
大阪府知事登録旅行業第3-1213号  
連絡先: 住所 大阪市住吉区杉本3-3-138  
TEL 06-6605-3022 (平日11時~17時)  
総合旅行業務取扱管理者: 田中琴美

詳細は  
裏面参照

申込は【関西科学塾ホームページ <http://www.kansai-kj.org/>】から

問い合わせ先: 大阪市立大学 関西科学塾事務局(裏面参照)

大阪市立大学生生活協同組合 杉本事業所 (F日程宿泊について: 上記参照)

主催: 大阪市立大学、一般社団法人関西科学塾コンソーシアム

共催: 神戸大学男女共同参画推進室、大阪大学、京都大学(理学研究科、男女共同参画推進センター)

奈良女子大学(理学部、男女共同参画推進機構)、大阪府立大学、一般社団法人日本物理学会

協賛: 株式会社ウィルウェイ、株式会社ダイセル、株式会社ダイヘン、株式会社フジキン、中西金属工業株式会社

株式会社日本経済新聞社、昭和電線ホールディングス株式会社、東洋アルミニウム株式会社

後援: 文部科学省、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、京都市教育委員会

大阪市教育委員会、堺市教育委員会、神戸市教育委員会

協力: 男女共同参画学協会連絡会、日本鉄鋼協会、日本金属学会、近畿化学協会、NPO法人 あなたらしくをサポート

旅行手配会社: 大阪市立大学生生活協同組合 杉本事業所



申込締切  
6月16日(日) 必着

申込は関西科学塾ホームページから  
<http://www.kansai-kj.org/>



- 連絡は、基本的に電子メールでします。また、ホームページ上に情報を掲載します。
- 申込の前に「osaka-cu.ac.jp」ドメインからのメールを受信できるよう設定してください。携帯電話の方は、迷惑メール防止フィルターで受信できないことがありますので、特にご注意ください。
- 申込フォーム入力送信後、関西科学塾から「受付 ID」が自動メール送信されます。24 時間以内に「受付 ID」メールが届かない場合は受信設定を確認の上、関西科学塾メールアドレス (kagakujuku-jimu@ado.osaka-cu.ac.jp) 宛にご連絡ください。ID 番号を再送します。
- 申込者多数の場合は抽選を行います。6 月末頃に電子メールで抽選結果をお知らせします。
- F 日程の参加決定者は、別途旅行手配業者を通しての手続きが必要になります。

### A 日程のプログラム (予定)

大阪市立大学 (中学生・高校生)

「なんちゃって理系のすすめ」  
講 関西科学塾 OG 篠原 さくら (病院勤務管理栄養士)  
演「マリコさんの日常～科捜研の女子力～」  
内 松本 優 (理系卒業生)  
容「素粒子物理実験を知らうー巨大加速器でつくるミニ宇宙ー」  
岩崎 昌子 (大阪市立大学理学研究科准教授)

### C 日程の実験テーマ (予定)

大阪府立大学 (中学生)

- 人工イクラをつくらう！
- DNA 鑑定：遺伝子で身元を突きとめる
- 光がつくる色彩の科学
- 微生物を探せ！
- コンピュータシミュレーションを体験しよう
- 蛍の光をお手本に電気を使わない光をつくりだそう

神戸大学 (中学生)

- 大気圧プラズマって何？
- アロマの化学：自分だけの香水をつくらう！
- お酒の強い人、弱い人
- 身の回りの小さな世界～微生物を見よう～
- 餌のおいほどれ？ - ミツバチの吻伸反射を用いた学習実験 -
- 温室効果ガスってなに？

奈良女子大学 (中学生・高校生)

- 食のライフサイエンス：味の不思議
- 数学の定理を感じてみよう
- 地球 (アース) の贈り物～金属が支える私達の暮らし～
- 水は細胞の中にどうやって入る？
- ケミカルライト (化学発光) のしくみ
- 加速器を用いた物質分析

### F 日程のスケジュール (1泊2日)

大阪市立大学 (中学生・高校生)

1 日目：3/20(金・祝) 受付開始 12:00

テーマごとに分かれて実験

→宿泊所にて発表会の準備

2 日目：3/21(土) 終了予定 16:30

発表会 (テーマごとに発表)・表彰式

関西科学塾 OG 企画

### D 日程の実験テーマ (予定)

大阪大学 (高校生)

- きれいな水を作るには
- 再生エネルギー社会の実現をめざして！  
～エネルギー変換デバイスの実験～
- 混ぜると不思議！電気を流す有機化合物
- レーザーで光速を測ってみよう
- オートファジーをみてみよう！
- 卵の発生を見てみよう！シウジョウバエの生殖細胞のヒミツを探る
- VR・MR (人工現実・複合現実) システムを開発してみよう：環境・エネルギー工学分野を対象として

京都大学 (高校生)

- 「にじいろ」を見よう
- 太陽の虹色を見てみよう
- 野菜などの色の分離実験
- 私たちは土を食べている
- ラプラスの悪魔・マクスウェルの悪魔・  
采を投げぬ神
- 鉱物を鑑定してみよう

### E 日程のプログラム

中西金属工業株式会社 (中学生・高校生)

デザイン思考体験ワークショップ

～身体を使ってアイデアを出す方法を体験してみよう～

13:00～16:00

● ワークショップ ● 女性技術者への質問コーナー

● アグビーデモ ● 会社見学

場所：中西金属工業株式会社 本社 (大阪市北区)

実験テーマ (予定)

- 脈拍計を作ってみよう！
- プラズマって何？何をするもの？
- 加速度を測ると分かること
- 省エネで快適な居住環境を作りましょう
- 音とは何か？
- 閉じ込めた微生物のすごさを体験しよう！
- 賢いポリマーを作ろう！
- いろいろな土や泥のミクロの世界を見てみよう
- いろいろな曲線の工作～二次曲線と定幅曲線～
- マラリア根絶のために私たちには何ができるか？

問い合わせ先 (※事務局への問い合わせは、可能な限り、電子メールでの連絡をお願いいたします)

◆大阪市立大学関西科学塾事務局 E-mail: [kagakujuku-jimu@ado.osaka-cu.ac.jp](mailto:kagakujuku-jimu@ado.osaka-cu.ac.jp)

住所：大阪市住吉区杉本3-3-138 Tel: 06-6605-3466

◆大阪市立大学生協同組合 杉本事業所 (F日程宿泊について) Tel: 06-6605-3022 (平日11時～17時)

日経ウーマノミクス  
プロジェクト

日経ウーマノミクス フォーラム

2019  
シンポジウム

理系学生・高校生応援プロジェクト

2019 日時

7/17 水

10:00~18:00

入場  
無料

会場

ハービスホール

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25  
ハービスOSAKA B2F  
阪神梅田駅(西改札)より徒歩6分  
JR大阪駅(桜橋口)より徒歩7分



主催  
協力

日経ウーマノミクス・プロジェクト実行委員会(日本経済新聞社)

京都大学 大阪大学 神戸大学 奈良女子大学 徳島大学  
大阪府立大学 大阪市立大学 関西大学 立命館大学  
京都女子大学 京都産業大学 関西医科大学

協賛  
後援

株式会社i-plug 三洋化成工業株式会社 塩野義製薬株式会社

科学技術振興機構、産業技術総合研究所、関西経済連合会、大阪府、関西広域連合  
関西文化学術研究都市推進機構、産学協働イノベーション人材育成協議会  
大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所、京都府私立中学高等学校連合会  
大阪私立中学校高等学校連合会、兵庫県私立中学高等学校連合会  
大阪府教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、関西女性活躍推進フォーラム

スケジュール

メイン会場 10:00~10:30

基調講演「求められる人材と女性活躍」

日本イーライリリー 執行役員 コーポレート・アフェアーズ本部 本部長

北野美英氏



10:30~12:30

高校生座談会「Youは何しに大学へ？」

16:00~17:30

高校生グループディスカッション結果発表会

ミニセミナー会場  
13:00~16:00

協力大学、協賛社、参加高校生によるミニセミナー

ディスカッション会場  
14:00~16:00

高校生グループディスカッション「知の探求、常識通じぬ未来を開け」

ブース・パネル展示会場  
10:00~18:00

協力大学、協賛社のブース展示を実施

※講演者、タイトルは予告なく変更する場合があります。予めご了承下さい。

フォーラム最新情報は  
こちらから

<http://www.nikkei-ad.co.jp/nwpcf19/index.html>



お問い合わせ

ウーマノミクスフォーラム事務局 TEL.06-4706-1100 (10:00-17:00土日祝除く)

基調講演

10:00~10:30

「求められる人材と女性活躍」

日本イーライリリー 執行役員 コーポレート・アフェアーズ本部 本部長

北野美英氏



プロクター・アンド・ギャンブル・ファー・イースト・インク(現 P&G ジャパン)入社、生産統括本部配属。アジア製品の購買担当を経て、ヨーロッパ紙製品の購買担当として同部門の日本人女性で初めてドイツへ異動。帰国後同アジア開発担当購買グループマネージャーに昇進。この時期、生産統括本部ウーマズネットワーク立ち上げも主導。同北米・南米化学品担当の購買グループマネージャー/コーポレート購買アソシエートディレクターとして米国本社に異動。帰国後、同アジア化学品購買担当のアソシエートディレクター、同カスタマーサービス / ロジスティック担当アソシエートディレクター。その後エクスターナルリレーションズに異動し、アソシエートディレクターとして企業広報CSR担当アジアサステナビリティリーダーを経験し2013年に退社。同年 12月より日本イーライリリー株式会社広報・CSR部ディレクター、2016年より現職。ひょうご経済・雇用活性化プラン推進会議委員(2017・18年)。ACC(J 米国商工会議所)の女性活躍推進委員長(2012-15年) Business Programs 委員委員長(2016年より)

10:30~12:30

高校生座談会「Youは何しに大学へ？」

メイン会場

基調講演の内容を踏まえつつ、ファシリテーターからの話題提供に対して会場全体の高校生で議論。壇上にはメインの発言者として約10校の代表生徒各1名が登壇、フロアの高校生を交えて「大学受験とは何か」「なりたい自分と未来社会のイメージ」などについて活発な議論を行います。



ファシリテーター:大阪府立大学 理系女子大学院生チーム IRIS

IRIS(アイリスー I'm a Researcher In Science)は、大阪府立大学の理系女子大学院生チームです。

IRISは、女性研究者のロールモデルとして、イベント時に理系を目指す女子高校生に話をしたり、地域に出向いてIRISサイエンス・キャンパス等を実施し、小・中・高校生に科学の楽しさやおもしろさを広めるための活動をしています。

14:00~16:00

高校生グループディスカッション「知の探求 常識通じぬ未来を開け」

ディスカッション会場

新技術や創薬など数々のイノベーションを通じて社会に変化をもたらし、より豊かな社会構築を実現していくため同世代の高校生たちに議論いただきます。現在の常識が当てはまらない未来社会で、自分達がどのように世の中を変えていくのか、理系の仕事の魅力を感じながら、夢の現実に向けたキャリアデザインを探る一助とします。

ファシリテーターとして協賛社社員、大学教員・院生・学生などに加わっていただきます。

分野例:「医療」「食品」「産業素材」「エネルギー」「IT」「製薬」など

16:00~17:30

高校生グループディスカッション結果発表会

メイン会場

議論の結果をグループごとに高校生たちが発表します。

13:00~16:00

ミニセミナー会場

協力大学、協賛社、参加高校生による各20分のミニセミナー。高校生たちの研究成果発表、女子大学院生による理系の学び紹介、企業からはダイバーシティ推進の現状についてプレゼンテーションしていただきます。



10:00~18:00

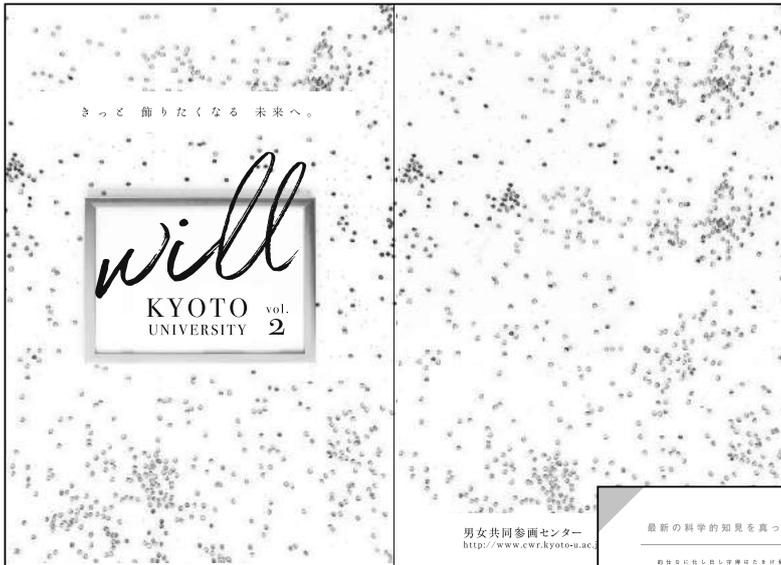
ブース・パネル展示会場

協力大学、協賛社のブース展示を実施。研究成果・研究環境の紹介、理系の学び紹介、入試・採用等のご案内や資料収集などに対応します。



※セミナーのタイトル、内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承下さい。





きっと飾りたくなる 未来へ。

will  
KYOTO UNIVERSITY vol. 2

男女共同参画センター  
http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp

最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事。

特許業務法人  
深見特許事務所  
Fukemi Patent Office, P.C.

FUKUHARA MITSUKO  
福原 充子

京都府立大学卒業 工学部 電子情報工学科  
京都府立大学大学院 工学研究科 電子情報学専攻  
特許業務法人 深見特許事務所

新しいことは何でもチャレンジ  
興味のアナテナは常に多方面に向けて。

FUKUHARA MITSUKO

02

COLUMN 01

こうやって勉強してきました。  
福原さんは、大学時代から特許事務所でのインターンシップに参加し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

COLUMN 02

上司からの一言  
「福原さん、この書類のチェックをお願いします。」  
上司からの一言で、福原さんは、この書類のチェックをお願いします。と、仕事を任せてもらいました。



「新しいことは何でもチャレンジ、興味のアナテナは常に多方面に向けて。」  
福原さんは、大学時代から特許事務所でのインターンシップに参加し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

「最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事。」  
福原さんは、大学時代から特許事務所でのインターンシップに参加し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

切実課題しながら研修を充実した日々。

福原さんは、大学時代から特許事務所でのインターンシップに参加し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

COLUMN 01  
こうやって勉強してきました。

COLUMN 02  
上司からの一言  
「福原さん、この書類のチェックをお願いします。」

福原さんへのメッセージ  
「福原さん、この書類のチェックをお願いします。」

福原さんの研修生活  
福原さんは、大学時代から特許事務所でのインターンシップに参加し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

やっとスタートラインに立った私  
いつかは手術も精力的にこなせるを医に。

FUKUKAWA SHIORI  
藤川 詩織

京都府立大学卒業 医学部 臨床医学科  
京都府立大学大学院 医学研究科 臨床医学科  
京都府立大学大学院 医学研究科 臨床医学科

FUKUKAWA SHIORI

04

「やっとスタートラインに立った私、いつかは手術も精力的にこなせるを医に。」  
藤川さんは、大学時代から臨床医学科で勉強し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

COLUMN 01  
こうやって勉強してきました。

COLUMN 02  
上司からの一言  
「藤川さん、この手術の準備をお願いします。」

藤川さんへのメッセージ  
「藤川さん、この手術の準備をお願いします。」

藤川さんの研修生活  
藤川さんは、大学時代から臨床医学科で勉強し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

世界の中の人々が健康でいられるよう、  
これからも努力するのみ。

VALENTINE CINDY  
バレンティン シンディ

京都府立大学卒業 工学部 電子情報工学科  
京都府立大学大学院 工学研究科 電子情報学専攻  
京都府立大学大学院 工学研究科 電子情報学専攻

VALENTINE CINDY

06

「世界の中の人々が健康でいられるよう、これからも努力するのみ。」  
バレンティンさんは、大学時代から電子情報工学科で勉強し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

COLUMN 01  
こうやって勉強してきました。

COLUMN 02  
上司からの一言  
「バレンティンさん、この実験の準備をお願いします。」

バレンティンさんへのメッセージ  
「バレンティンさん、この実験の準備をお願いします。」

バレンティンさんの研修生活  
バレンティンさんは、大学時代から電子情報工学科で勉強し、最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事に興味を持ちました。

### 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式



3月4日（月）、京都大学国際科学イノベーション棟5階シンポジウムホールにて京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の表彰式が行われました。たちばな賞は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者を育成することを目的として創設され、今回で第11回目となります。

佐藤 亨男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、はじめに、男女共同参画推進センター長の稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。

次に、山極 壽一総長よりたちばな賞 学生部門受賞者の藤森 詩織氏（理学研究科 博士（後期）課程3年）、研究者部門受賞者の西本 希呼氏（人間・環境学研究科 特定研究員）へ表彰状と記念楯が授与され、株式会

社ワコール伊東 知康代表取締役社長より副賞の「ワコール賞」が授与されました。続いて、優秀女性研究者奨励賞 学生部門受賞者の齋藤 美保氏（理学研究科 博士（後期）課程3年）、木邑真理子氏（理学研究科 博士（後期）課程2年）へ山極総長より表彰状が、伊東社長より副賞が授与されました。続いて、山極総長、伊東社長が受賞者へ祝辞を述べられました。

その後、たちばな賞学生部門受賞者の藤森氏、研究者部門受賞者の西本氏による研究発表が行われました。

最後に、川添 信介理事・副学長より閉会の挨拶があり、表彰式及び研究発表会は盛会のうちに終了しました。



#### たちばな賞 優秀女性研究者奨励賞 受賞者 たちばな賞（優秀女性研究者賞）

部門	氏名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	藤森 詩織	理学研究科 博士（後期）課程3年	高周期14族元素を骨格に含むフェニルアニオン種の合成とその性質解明
研究者部門	西本 希呼	人間・環境学研究科 特定研究員	〈茨の国〉の言語——マダガスカル南部タンレイ語の記述

#### 優秀女性研究者奨励賞

部門	氏名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	齋藤 美保	理学研究科 博士（後期）課程3年	タンザニア・カタヴィ国立公園に生息するマサイキリンの仔育て戦略に関する研究
学生部門	木邑 真理子	理学研究科 博士（後期）課程2年	多波長観測で探る、ブラックホール周囲の降着円盤を介した質量降着機構の解明

## “Women and the World” フォーラム5 〈ランチミーティング〉 総長と語る！研究者のワーク・ライフ・バランス

3月4日（月）、国際科学イノベーション棟会議室 5a・5bにて“Women and the World”フォーラム5「総長と語る！研究者のワーク・ライフ・バランス」を開催しました。

参加者の自己紹介後、女性教員懇話会代表の法学研究科 齊藤 真紀教授より挨拶があり、京都市の保育所入所手続きにおける大学院生のポイントの改善やおむかえ保育サービスの利便性の向上などについて報告がありました。その後、懇話会から「研究者のワーク・ライフ・バ

ランス」、「研究コミュニティにおける女性研究者の立ち位置」の2つのテーマについて投げかけがあり、各自が直面している課題や対処法について、参加者がそれぞれの立場から、総長や稲葉 カヨ理事・副学長と活発な意見交換をしました。

1時間20分の短時間ではありましたが、分野を超えた情報共有ができた充実したミーティングとなりました。多くの方にご参加いただきありがとうございました。



### Topic 1 研究集会の託児所開設 ③様々なとりくみとまとめ

前回で紹介した ASAFAS での支援体制は大変進んでいます。託児室利用を目的とした部屋を持っていない部局が大多数でしょう。その場合、研究集会の託児室を開設するにはどうしたらいいでしょうか。乳幼児が室内でくつろいで一定の時間過ごせるためには、畳敷きの部屋など靴を脱いで動き回れるスペースが要りますよね。宿泊施設を備えた会場で開催される場合、託児室に適した部屋を借りられる場合もありますが、学内の一般の建物で行う場合は、適した部屋がないと思うかも知れません。

しかし実績のある託児業者によると、通常のセミナー室や会議室のような設備の整っていない部屋でも、机を移動して床マットやホットカーペット等を持ち込むことにより託児室として利用した経験がたくさんあるそうです。本学でも、学内の宿泊施設を持つ会場、セミナー室や女性休養室などを利用して託児室を設置した実績があるようです。何かあったときに、保護者がすぐに駆けつけられる範囲に託児室があるのが望ましいですから、研究集会の会場と同じかほど近い建物の中に託児室を設置できるよう、是非とも部局にご協力いただきたいところです。

また、セミナー室や会議室を託児室として利用できるかどうかは契約に当たって託児業者が個別に判断することになりますし、また必要な物品のレンタルは予算に関わりますので、託児業者と十分に打ち合わせおきましょう。なお、こうした事例が増えてくれば、部局の備品として床マット等を用意しておくなど、部局としての取り組みを充実させる方向性が見えてくるのではないのでしょうか。

託児室の設置に際して、事故に備えた保険が必要ですが、主催者や利用者ではなく託児業者が加入していることが一般的です。託児業者の選定に際しては保険についてよく確認しておきましょう。他に気を付けることとして、会議・イベント時の託児室開設についてノウハウをまとめた東京大学のウェブサイトもあります（脚注1）。

奈良女子大学（脚注2）では、保育士資格を持たないボランティアや学生が様々な講義を受講し面談を受けてサポーターとして登録されています。シッター料金がかなり抑えられており、直前でもキャンセル料不要など融通が効くきめ細かなサービスを大学が提供しています。託児業者を利用するのは安心である反面、費用が高張るため、ある程度の予算規模がないと対応できない問題があります。託児室を利用するのが1名程度の場合は、利用者側がそれでよいと納得すれば、プロではなく主催者側の人員を割いて対応しているケースも多々あると思います（この場合は、託児室の安全確保について主催者側が十分な知識を持っておく必要があります）。

本WGでも、学内での託児室設置の実績や障壁について情報を集めています。設置を検討したけれども断念したご経験などの情報も是非お寄せください。

託児室併設はこれからますます増えていくでしょう。今よりもっと「当たり前」で「簡単」になっていくことを期待しています。

（文責 育児・介護支援事業WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

脚注1）<http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/resources/childcare/event.html>（東京大学）

脚注2）<http://gepo.nara-wu.ac.jp/childcare-support/event-childcare-system/>（奈良女子大学）

## 懇話会セミナー

2月14日（木）12時30分から京都大学吉田泉殿にて、女性教員懇話会主催のセミナーが行われました。医学研究科の木下 彩栄教授より「認知症の病態と予防から近未来の治療まで」と題して講演がありました。

木下先生は、認知症の問題、アルツハイマー病の症状や原因、さらにアルツハイマー病の気付きのヒント等について話しました。また、生活や睡眠との関係について「運動や本を読んで言語能力を高めること、地中海食・

大豆・ビタミンCの摂取や良質な睡眠をとることが認知症リスクを下げる。」と予防する方法について述べました。講演後は質疑応答があり、大いに盛り上がりました。



## 懇話会セミナー開催のお知らせ

日時 2019年5月31日（金）12時15分～14時頃（入退室自由、ランチ持参歓迎）  
（冒頭の30分程度は、子育て交流室見学の予定。下記※参照。）

場所 本部キャンパス総合研究2号棟2階 法科第四演習室

講師 浅井 歩氏（理学研究科附属天文台准教授）

演題 「最新の天体画像で解き明かす宇宙と太陽のひみつ」

京都大学の関係者ならどなたでも参加可能です。

※セミナーの冒頭、前回のたちばなのコラム「みんなどうしている？」で取り上げられたアジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）の子育て交流室の見学を予定しております（上記の会場から、ご案内いたします）。こちらのみのご参加も大歓迎です。

参加申込み・お問い合わせ：

中村（アジア・アフリカ地域研究研究科 [nakamura@asafas.kyoto-u.ac.jp](mailto:nakamura@asafas.kyoto-u.ac.jp)）または懇話会事務局（[female.jimgroup@gmail.com](mailto:female.jimgroup@gmail.com)）まで。

女性教員懇話会は、本学における女性研究者相互の親睦・交流等を目的として、1981年に設立された団体です。

## 連載：研究者になる！－第71回－

経営管理研究部・教授 アスリ チョルパン  
(Asli Colpan)

### ●勉強が好きだったから来日の機会に繋がった

「勉強をなさい！」。親御さんにそう注意された経験のある方は多いのではないのでしょうか。私の場合はその真逆で、子どもの頃は家に帰って宿題をするのが一番の楽しみ。時には「何時まで勉強しているの！」と怒られるような、珍しいタイプの間人でした。中でも得意だった科目は、数学、化学、物理学です。ロジカルに考えれば答えを導き出せるところに面白く没頭しました。

その志向は成長しても変わらず、大学では繊維工学を選びました。工学の中でもなぜ繊維？と聞かれると、当時は人気分野でしたし、また今から考えると恥ずかしいのですが、好きだった子の希望進路だった、というのが理由の一つでした（笑）。きっかけは不真面目でしたが、入学してからは真面目に勉強を頑張りました。そのおかげで、成績優秀者だけが選ばれる、日本の繊維工学関連企業へのインターンメンバーになることができました。

実は、これが私にとって最初の海外体験でした。一定期間過ごしてみると、電車は時間通りに来るし、やるならやる、やらないならやらないとはっきりしている。ある意味完璧なシステムが出来上がっている社会で、完璧を求める私の性格によく合っていると思いました。その後、一度はインターン先の企業に就職することを希望したのですが、働くなら日本語ができないとダメと言われ……。まだ勉強したい気持ちもあったので、奨学金を申請して学校に通い、もう一度日本に帰ってくることを決意しました。そしてリーズ大学の修士課程、京都工芸繊維大学の博士課程に進むことを決めました。

### ●自分で掴んだ経営学の道。常に論文の先を見据えて

経営学を勉強し始めたのはリーズ大学にいた頃です。私がいた工学のクラスは学生数が少なく、そのうえ授業内容はすでに知っていることが多かったので、若干物足りなさを感じていました。そんな中、もっと新しいことを学びたいと思っていた矢先に、経営学と出会いました。経営学のクラスは学生の数も多く、みんなが競い合って勉強していた環境も肌に合って、途中からはすっかり経営学の虜になりました。どちらの大学も奨学金は工学で申請していたのですが、リーズ大学の時は熱意で

認めてもらい、京都工芸繊維大学の時は、学内に経営学の研究科がなかったため、工学研究科に所属しながら京都大学の特別研究員になる。という形にたどり着きました。

現在、研究しているテーマは、「多角化したビジネス・グループの持続性：理論的および実証的考察」。簡単にいうと、企業戦略と企業統治です。多角化するビジネス・グループ—例えば自動車を造ると同時に、ファイナンスや化粧品の分野も手がけている企業が、どういう成長の仕方をしたのか。なぜそれほどまでに多角化したのか。ということ、企業史から考察したり、企業統治のあり方がその会社の業績とどう結びついているのかなどを、計量経済学的手法を用いて分析したりしています。

経営学というのは、企業活動全般を研究する学問です。その性質的に論文を出して終わりというわけにはいかず、企業に行って発表したり、社外役員として結果を出したりするなど、何らかの形で企業に影響を及ぼすところまでが一連のプロセスなのだと考えています。また、私は海外のビジネス・グループを中心に研究しているので、国際的なトップ雑誌などで成果を発表することも、常に心がけている姿勢の一つです。出版した書籍がハーバードビジネススクールから認められて2016年から1年間、客員教授として迎え入れられたことは、とても嬉しかったです。

社会の問題なのか、女性の考え方によるものかはわかりませんが、日本は女性研究者が少ないと感じています。私自身が今そうなのですが、働きながら子育てをするというのは確かに大変です。しかし、高等教育で女性が自分の役割を持つこともまた、大切なことだと思います。

### 編集後記

長いGWもあっという間に終了しました。花粉症の方は、やっとマスクがとれる…とホッとした気持ちでしょうか。季節の花たちが満開になり、センターの庭もどんどん明るくなってきました。是非、お立ち寄りください。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
電話 075 (753) 2437  
FAX 075 (753) 2436  
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

## 男女共同参画推進センターのホームページが新しくなりました！

センターのホームページが新しくなりました。トップページのデザインを一新し、見やすくしたことに加え、子育て世代の方々に向けた「みんなどうしてる？」や「イクメンたちのワークライフバランス」のコラムページ等、新しいページを追加しています。また、「各種刊

行物」や「ニュースレター」からセンターが発行している刊行物もご覧いただけます。さらに内容が充実したホームページをぜひ活用ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



## Topic 保活入門 その1 京都市の場合

「保活」とは、未就学の子どもを保育所に入れるために保護者が行う活動全般を指します（脚注1）。認可保育所の利用開始時期は年度の切り替わる4月が多く、希望された方は保活に苦労されたのではないのでしょうか。京都市を含め、自治体は認可保育所の利用を希望者に割り当てるのに、指数を設けて優先度判定を行っています。京都市では、今年度から指数の計算方法に大きな変更があったので、今回はこれを含め指数の計算方法についてお伝えします（脚注2）。

京都市では、指数は、まず乳幼児の保護者ごと（両親が揃っていれば父母別々）に基本指数と調整指数を合計し、その合計点数の低いほうが優先度判定に利用されます。

基本指数は、就労、介護・看護、就学・職業訓練等の各カテゴリーで該当する項目を選択し、合計することで決まります。調整指数は保護者の状況の他に、親族の介護やきょうだいを含む世帯の状況について該当する項目を選択し、合計することで決まります。調整指数では、通勤・通学時間が長い場合や育児休業からの復帰などは加算される一方で、保育ができる65歳未満の祖父母と同居していたり、65歳未満の親族に預けている実績があったりすると減算されます。

このうち、変更があったのは基本指数の「就学・職業訓練」のカテゴリーです。「就労」カテゴリーの上限が40点なのに対し、前年度までは「就学・職業訓練」のカテゴリーの上限が35点になっていましたが、今年度の改定で「就学・職業訓練」のカテゴリーの指数が引き上げられ、「就労」カテゴリーと同等に扱われることになりました。今まで片方の親が会社員で40時間以上就労していても、もう一人の親が学生ならばたとえフルタイムでも保育利用には不利だったのが解消されるため、これは大きな変化といえるでしょう。

なお、優先度判定の指数の割り当て方は自治体によって異なります。例えば大阪市では、就労は週40時間あれば100点ですが、就学はどんなに拘束時間が長くても60点が上限で、変更もありません（脚注3）。京都市以外の地

域での保活に関しては、各自治体のホームページなどを参考にしてください。

(文責 育児介護支援事業 WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

(注1)「保活」で検索すると、コトバンクや wikipedia の興味深い解説が見つかります。

(注2) 指数の算出方法は「保育利用申込みの御案内」でウェブ検索すると見つかります。残念なことに、京都市ホームページからリンクだけでこの情報に辿り着くのは困難なようです。

(注3) 博士課程院生の悲痛な声に対し、大阪市は配慮しないと明確に宣言しています。

<https://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/0000437959.html>

## ILAS セミナー「ジェンダーと社会」開講

落合 恵美子教授の令和元年度 ILAS セミナー「ジェンダーと社会」が4月から開講しました。前半は、授業テーマに関連する学生や講師を招いて、ジェンダーやセクシュアリティに関するフリートーキングを行い、後半はジェンダーに関する読みたい本を読んで文献の要約や見解をレジュメにまとめて発表し、全員でディスカッ

ションをする授業形式となっています。毎回様々な意見交換がなされています。

日程：4月8日（月）～7月22日（月）

時間：毎週月曜日 5限（16：30～18：00）

場所：男女共同参画推進センター会議室



## 懇話会セミナー

5月31日（金）12時15分から総合研究2号館2F第4演習室において、女性教員懇話会主催の懇話会セミナーが行われました。アジア・アフリカ地域研究研究科 (ASAFAS) の子育て交流室（同館地下1F）の見学後、理学研究科の浅井 歩准教授より「最新の天体画像で解き明かす宇宙と太陽のひみつ」と題して講演がありました。浅井先生は、主に太陽活動やその歴史について話され、「ガリレオ・ガリレイは、黒点の観察記録によって太陽が自転していることを突き止めた」ことや、「太陽

の表面は水素爆発 100万発程の大爆発が起こっており、放出されたガスは地球の磁場に影響を与える」という話では、参加者から驚きの声があがりました。



京都大学女性教員懇話会は、京都大学で研究する女性（教員・研究員・大学院生や学生を含む）のための自主組織で、教育研究環境向上のため、総会やセミナーなど様々な取り組みを行っています。詳しくは Web サイト (<http://kyotoufemale.blogspot.com/>) をご覧ください。

## 令和元年度保育園入園待機乳児保育室「ゆりかご」開室

学生、研究者の学業、研究と育児の両立を支援することを目的とし、「保育園入園待機乳児のための保育施設」（愛称ゆりかご）を設けています。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象としています。今年は4月3日（水）から開室しています。現時点で定員に迫るたくさんの申し込みをいただいております。利用希

望の方は、事前登録をした上で、自治体への保育園入園申請を行い、入室希望日の1か月前までにお申し込みください。



<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/nursery/>

## おむかえ保育

「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない…」などで困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を民間企業に運営委託をしています。保護者に代

わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行います。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/proxy/>

## 病児保育室「こもも」

病児保育室「こもも」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する学内施設です。京都大学病児保育室では、京都大学医学部付属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境におい

て、病児の保育を行っています。今年度より、受入対象を「小学校3年生」より「小学校6年生」に引き上げましたので、是非ご活用ください。



<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/sick/>

## ベビーシッター利用育児支援

男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ① ベビーシッター派遣事業
- ② 双生児等多胎児家庭育児支援事業

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/babysitter/>

## 令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者募集

令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者を募集しました。育児又は介護のために十分な研究・実験時間が確保できない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、女性研究者に限らず、育児・介護等に携わる男性研究者も対象となりま

す。今回の募集について、実験補助者の雇用期間は令和元年10月1日から令和元年3月末までです。

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛（g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/research/assistant/>

男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

## 連載：研究者になる！第12回

医学研究科・特定助教 三宅 可奈江

### ●幼少期の経験から医師を志すことに

自身の半生を振り返ると、私にとって「病気」は常に目の前に立ちだかる大きな壁でした。幼少期の頃に大病を患い、長い間通院・入院を繰り返す日々。また、医学研究者であった父が病気に倒れ、若くして他界しました。家族にとって何ともし難い苦難をもたらすのが病気であり、看護する母や家族の心配・不安は相当なものであったと記憶しています。

ただ、幸いにして、私の病は医療の進歩のお陰で劇的に改善するのです。高校生の時に私の人生の導となる医師に出会い、当時最先端であった治療を受けることができました。手術の可能性もあった状況でありながら、非侵襲的に半日で済んでしまった治療。医療技術の進歩の恩恵を身をもって感じた瞬間でもありました。

医療には限界もあるが、絶望を希望に変える力がある。そう確信した私は医師になることを志し、そして主治医の出身であった京都大学を目指すようになりました。

地元の岐阜県の公立高校を卒業した後、京都大学医学部に入学。そこで出会った友人達は個性豊かで、とにかく刺激を受ける毎日でした。医学部100人中、女子は約1割のマイノリティーでしたが、お互いを尊重できる関係で、学年全体も和気藹々とした居心地のよい場所でした。部活動はバトミントン部を選択。そこで、平日日中も部活に励む当時の京大らしい大らかな精神を学びました。

### ●研究テーマは画像診断

現存する最適な治療の恩恵を被るには正確な診断が大前提です。ですが世の中には多様な疾患があり、同じ疾患でも個人によって表現型も程度も様々なため、実臨床では速やかに正しい診断にたどり着くのはしばしば困難です。私は日進月歩の技術の詰まった画像診断で診断の道を追究することを決意しました。

画像診断はこの半世紀で急速に成長した医学分野であり、今や多くの疾患において主要な診断手法となっています。放射線科医は患者のマネージメントを支える縁の下のもちとして重要な役割を担います。

私は医師となった最初の年から臨床、研究の両側面から画像診断に向き合ってきました。不器用な自分が両者を追求するのは平坦な道のりではありませんでしたが、随所随所で様々な方から温かいご支援や刺激を頂き、そ

の方針は変わらず今に至っています。これまで従事してきた研究の中で主なものに乳房専用PET装置の研究がありますが、米国スタンフォード大学への留学、そして核医学会での国際交友を深めるきっかけとなりました。

スタンフォードでは、研究業務に励ませて頂いたのはもちろんのこと、日本とは違う多様性のあるライフスタイルに大変感銘を受けました。家族構成も仕事のあり方も人それぞれ。お互いが多様性を認め合い、人との違いはidentityとして大切にす文化を感じました。米国の文化に引っ張られるように我が家も家族で行動する事が増え、どれだけ忙しくても個人や家族の存在を大切にす人生の在り方を学ぶ機会にもなりました。

### ●希望と夢と好奇心を持つこと

日本に帰ってから第2子が生まれ、今は臨床・研究・家事育児で多忙な日々を送っています。正直、全てをこなすのは大変で、疲弊してしまうことも多いですが、それでも前を向けるのは、やはり芯となる信念があること、そして周囲の助けのお陰だと思います。職場や家族の理解と協力があっての自分だと、日々痛感しています。最近子どもも大きくなり、労いの言葉をかけてくれるようになりました。一緒に過ごせる時間は短いですが、日々の成長が本当にありがたく思います。

これから社会に羽ばたかんとする女子学生の皆さん、選択肢が多くなったようで、まだ多様性の未熟な日本社会では、岐路に立たされた時にどの道を選択すべきか迷うことも多いと思います。そんな時は自分の信念に耳を傾けるのが一番ではないでしょうか。マズローの欲求5段階説によると、人間の最上位の欲求は「自己実現」だそうです。なりたい自分に向かってなら不思議と力が湧いてくるでしょうし、自己実現まで達成できたならばこの上なく満ち足りた幸せな人生になるかもしれません。私の周りにも沢山いますが、夢に向かって絶え間ない努力を積み重ねている人は素敵ですよ。

私の場合の自己実現は、家族全員が元気で、放射線科医として臨床も研究も頑張りたいという欲張りなものです。これからも医学の希望を現実にするべく精進していきたいと思っております。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学男女共同参画推進センター  
Gender Equality Promotion Center

## 「女子高生・車座フォーラム 2019」を 12 月 22 日（日）に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうと「京都大学を知ろう 学生・研究者と語ろう」を企画しています。フォーラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域があるのか、なぜ今の分野を選んだのか、といった大学進学に関わる話をはじめ、試験勉強、進学後の大学生活、研究の面白さや苦労など、さまざまなテーマについての疑問に、学生や研究者がお答えします。保護者の方々の疑問にも、学部生や大学院生がお答えします。

申込期間は、2019 年 9 月 24 日（火）～11 月 22 日（金）です。下記センターホームページをぜひご覧ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

日 時 2019 年 12 月 22 日（日）  
会 場 京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール、他

参加費 無料  
募集定員 女子高校生 100 名程度  
保護者 50 名程度（先着順）  
申込方法 男女共同参画推進センターホームページから  
申込期間 2019 年 9 月 24 日（火）～11 月 22 日（金）

時間	内容
10:00-10:30	受付
10:30-10:35	開会の挨拶
10:35-10:50	開会の挨拶・京都大学紹介
10:50-11:10	京都府立大学の紹介
11:20-11:45	京大「5つ星チャレンジ」の紹介
11:50-12:00	懇話会・グループワークの説明
12:00-12:30	昼休憩
12:40-13:00	懇話会「車座になって語ろう」
13:10-14:40	懇話会「学生と研究者の対話」
14:40-15:00	昼休憩
15:00-16:00	閉会の挨拶



## Topic 保活入門 その2 就学ポイント

前回で紹介したように、本年度から、京都市の基本指数において就学ポイントは就労ポイントと同等に扱われることになりました。基本指数は従事する時間に依りて決まるのですが、就労ポイントが就労証明書だけで事足りるのに比べて、就学ポイントを適正に認めてもらうために特別な苦労を要する事情があるようです。

就学の категорияで申請する場合、添付書類として在学証明書の他に「スケジュール申告書（時間割でも可）」を求められています。自己申告のスケジュール申告書の通りに従事時間が認定されるならよいのですが、そうはいかないでしょう。学生にとっては、授業がない時間帯も自由な時間というわけではありませんから、時間割だけでは証明書として不十分です。授業の予習・復習、さらには自身の研究テーマについての調査や実験、場合によっては研究室の業務の手伝い、医療系の場合にはさらに診療などに従事することもあります。このような実態を書類で証明することは難しく、窓口となる福祉事務所に、丁寧に根気よく説明をしていかざるを得ないのが実情のようです。

日本では、学生は、制度上授業料を払うことになっていますが、学生が従事する業務の社会的価値は、雇用されている研究者のそれと全く変わりありません。保活が必要な大学院生に、雇用されている研究者に劣らず多忙な生活を送っている実態について、一筆書いて証明するなどの形で協力することも、指導教員の業務の一つといえるでしょう。名古屋大学では、指導教員が学生の就学・勤務状況を証明する書式を用意しています（注1）。

医学部の大学院生には、非常勤先で診療（場合によっては夜勤）をしながら研究を続ける生活実態を理解してもら

うために苦労する例が後をたちません。外勤先に就労証明書を書いてもらうのは当然として、認可保育所への入所を認めてもらうために、多忙な実態を伝えようと、ありとあらゆる手段を講じる涙ぐましい努力について、さまざまな体験談がWGにも寄せられています。

日本学術振興会（学振）の特別研究員（PD）も、難しい現実と直面します。特別研究員（PD）は、学振とも受入機関とも雇用関係にないため就労扱いにならず、学生でもないのが就学扱いにもなりません。学振は、研究員としての身分は証明してくれますが（注2）、勤務実態が多様な個々の研究員の就労時間を証明してくれるわけではありません。ただ、そのウェブサイトには、このような制度の公式の説明書があり、保育所入所手続などで利用できるようになっています（注3）。この身分で保活をした人には、別途事情を説明した文書を添付し、所属する研究室の教授などに勤務実態について証明してもらい、何とか認可保育所の利用を勝ち取ったという例もあるようです。

今年の5月、幼児教育・保育を無償化する改正子ども・子育て支援法が成立しました。これにより、本年10月から、3～5歳児は原則全世帯において、また、0～2歳児は住民税非課税の世帯において、認可保育所や認定こども園、幼稚園の利用料が無料になります。無償化により保育の潜在的な需要が掘り起こされ、待機児童問題は深刻化するおそれがあることが指摘されています。

WGでは、来年4月入所を目指す方その他研究者の保活に関心を寄せる方のために、保活情報交換会を企画しました。保活経験者にその経験をご披露いただいたり、紙面ではお伝えしきれない情報を交換したりする場にしたいと考えています。関心をお持ちの方は気軽にご参加ください。詳細は、最終ページ下の案内およびバックナンバーのサイトをご覧ください。

（注1）[http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/work\\_balance/kinmu/](http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/work_balance/kinmu/)

（注2）下記掲載のウェブサイトにおける様式10。

[https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd\\_tebiki/yoshiki/saiyouchu.html](https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_tebiki/yoshiki/saiyouchu.html)

（注3）注3掲載の様式10の参考書類「特別研究員制度をご存じない方へ」。

コラム「みんな どうしてる？」バックナンバー <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>

（文責 育児介護支援事業WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

## ウィメンズ・フォーラム京都2019

6月27日（木）9時30分より国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにおいて、「社会・経済のためのウィメンズ・フォーラム京都2019」が開催されました。ウィメンズ・フォーラムは、社会・経済問題を女性の視点から議論し、新しい発想で解決策を提示することを目的に2005年に設立された国際会議です。

はじめに、稲葉カヨセンター長、理事・副学長より開会の挨拶がありました。その後、小池百合子東京都知事が講演を行い、東京都が進める再生可能エネルギー利用の拡大や女性の活躍を推進するための政策について

紹介しました。続いて、「機構関連科学・技術・イノベーション分野での女性の活躍」「女性の目からみたエネルギー利用」「気候分野でのイノベーション、起業」の3つのテーマをもとに、パネルディスカッションが行われ、活発な意見のもと盛会に終了しました。



## 令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度 利用者決定

令和元年度第2期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、11名（女性9名、男性2名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは育児・介護等で十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験

業務（注：事務及び教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年2回です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

## 2019 年度日経ウーマノミクスフォーラム 「Be Ambitious! 夢に向かって決意の瞬間」

7月17日（水）大阪ハービスホールにおいて、2019年度日経ウーマノミクスフォーラム「Be Ambitious! 夢に向かって決意の瞬間」が開催されました。

京都大学も協力大学としてブースを出展し、高校生グループディスカッションでは、【製薬】【生活・健康】【エネルギー・環境】【食品】【IT】と5つのグループにそれぞれサポート役として本学学生が参加しました。また、大学・企業によるミニセミナーでは、大学院理学研究科生物科学専攻の学生磯田 珠奈子さんが「ウキウサってなんだ?～世界一小

さい花に魅せられて～」と題して講演しました。

参加者からは、「様々な学校の方との交流で、たくさんの刺激をもらえました」「各ブースで自分の興味あることをより詳しく知ることができ、とても参考になりました。自分の将来のイメージが以前よりも明確になりました」等、多くの声が寄せられました。



### 京都大学女性教員懇話会セミナーおよびランチ会

セミナーやランチ会を開催しております。ご友人などお誘い合わせてどなたでもお気軽にご参加ください。

- ランチ会 2019年9月2日（月）12時15分～（途中入退室自由）  
場所：吉田泉殿 1階セミナー室 持ち物：ご自身の昼食・飲み物
  - セミナー 2019年11月26日（火）12時15分～14時（途中入退室自由）  
場所：男女共同参画推進センター会議室 持ち物：ご自身の昼食・飲み物  
講師：吉田 万里子氏（京都大学国際高等教育院教授）  
演題：平等な機会と待遇に係る労働法と社会保障法についての国際比較  
～欧州法における「働く女性」の扱い～
- ★参加連絡（任意）：女性教員懇話会（female.jimgroup@gmail.com）

### 京都大学女性教員懇話会のご紹介

**沿革** 京都大学女性教員懇話会（通称：懇話会）の発足は、1981年に遡ります。その前年、ユネスコなどの主催する「婦人のための教育・訓練・雇用に関するセミナー」が埼玉県で開かれた際、一部の参加者が京都を訪れ、京都大学の女性教員と交流を持ったことがきっかけでした。その時の参加者はわずか2名でしたが、2人の間で、これを機会に学内の全女性教員に呼びかけ、情報交換と親睦交流をはかる集まりをもってはどうかということが話し合われました。その後に賛同者を募り、何度かの協議を経て、1981年10月31日、楽友会館において第1回総会を開催し、「京都大学女性教員懇話会（のちに京都大学女性教員懇話会と名称変更）」が発足しました。1985年からは京都大学総長と懇話会代表者との懇談会が開催されるようになり、これは毎年の恒例行事

となっています。

**会員と活動** 本会は京都大学に在籍するすべての女性教員・研究員（大学院生や学生を含む）を会員として想定しており、京都大学で研究する全ての女性のための自主組織です。（1）京都大学における女性教員相互の親睦と交流、（2）各自が当面する諸問題についての情報の交換、（3）女性研究者の地位の向上と差別の撤廃、を目的に掲げ、これまでさまざまな取り組みを行ってきました。懇話会について知っていただき、より簡便に活動をお伝えするためにWEBサイトも立ち上げています <http://kyotoufemale.blogspot.com/>。これまでの活動や歴史を踏まえ、みなさまとともに今日のニーズに合った新しいかたちを模索しています。どうぞよろしくお願ひします。

## 連載：研究者になる！—第13回—

ウイルス・再生医科学研究所・助教 小田 裕香子

### ●調べること、実験が好きで研究者に

大学時代を過ごした京大農学部。そこは実習が多く友達と一緒に参加することが楽しかったことが思い出され、ゆったりと過ごした学生生活でした。そんな中でレポートを書くために調べものをするプロセスが好きで「研究をもう少し本格的にやってみたい」と思うようになり、大学院は理学研究科を受験しました。

大学院（永田 和宏教授）に入学してからは、新しいことばかりでとても刺激的でした。実験をすること、また先輩方と話をすることも楽しい毎日でした。大学で研究を続けるか就職するか、という何度か訪れる分岐点では、そのたび企業へ就職する迷いがありました。将来への不安から来る迷いでしたが、当時、企業のインターンに参加してみて、自分の将来は結局自分で切り拓くしかないと感じ、それならば自分の考えたことを自由に表現できる大学での研究に魅力を感じました。そういう大小の選択の積み重ねがあって今の道を進んでいます。

### ●もがき続けた先で見つけたもの

大学院時代途中からポスドク1年間は森 和俊教授（理学研究科）でお世話になり、その間ずっと小胞体ストレス応答の研究をしていました。まさにその分野が大きく発展しつつある盛り上がりの時期に研究に関わらせていただき、幸運でした。その後、月田 承一郎先生が亡くなられた後のタイミングで、縁あって古瀬 幹夫教授（当時神戸大学医学部）にお世話になりました。そこで現在の研究内容でもあるタイトジャンクションの研究を始めましたが、大学院時代と研究分野がガラリと変わったこともあり、テーマをなかなか見つけることができません。クローディングという分子群が見つかった後で、ノックアウトマウスも次々と作成され、やや成熟してきた分野のようにも感じました。やる気や努力が空回りするのが続き、自分自身を責めたり否定してしまったりしたこともありました。研究室の異動のタイミングで、現所属のボスである豊島 文子教授に拾っていただきました。豊島先生の明るい性格とラボの自由な雰囲気の中、クリエイティブなことを考えられる思考回路に切り替わっていき、ラボで購入している妊娠マウスを使って何かできないかと考えました。真っ先に思い巡らせられるのは、散々悩んで勉強したタイトジャンクションのことです。タイトジャンクションがどうやって形成されるのかという問いに迫ることは、大きなチャレンジだとずっと感じていました。タイトジャンクション形成を誘

導するような直接のトリガー因子は生体内に存在するの。あるいはそういったものなど存在しないのか。論文を読み漁っても、こんなクエスチョンそのものがあるのかわからない。それならえいっと、タイトジャンクションをつくらない細胞とマウスの羊膜を共培養する、という雑な実験をしたのがきっかけです。「マウスの羊膜に由来する分泌因子が培養細胞にタイトジャンクションを誘導する」という結果を初めて観察した時、あまりにもびっくりして震えるほどでしたが、同時にこれは何かの間違いだろうとも思い、その後、慎重に慎重に検討を重ねました。石濱 泰教授（薬学研究科）にお世話になり、ペプチドにまみれながら精製に格闘し、石濱研の最先端の質量分析器のおかげでその分子を同定することができました（まさかペプチドが細胞間接着・タイトジャンクションを誘導するとは、夢にも思っていませんでした）。これは、私が双子を妊娠し、出産・産休／育休を経てドタバタの育児と時期が重なったのですが、男女共同参画推進センターの研究補助制度のおかげで研究を進めることができました。

### ●目の前のことに全力を尽くす

自分の研究の話をした後、「夢あるテーマ」と感動してもらえる日が来るなんて、思ってもいませんでした。このペプチドで、もしかすると炎症やがんが治るかもしれない可能性があり、現在薬にするための技術移転の活動を始めようとしています。

双子育児と研究の両立は想像以上に大変でした。しかし、今の環境の中でできることは最大限しているはずだ、と言い聞かせて目の前のことを一生懸命に、日々の研究に励んでいます。先日、大学院時代の恩師である永田先生に「これで10～20年やっていけるんちゃうか」と励ましのお言葉をいただきました。その言葉に背中を押してもらいながら、今の成果を無事に世の中に送り出し、さらに新しくわかってきていることを自分の手で発展させていきたいです。

### 編集後記

コラム「みんなどうしてる？」では、「保活入門」の特集を掲載しています。HPのコラムページにも載せていますので、ぜひ引き続きご覧ください。皆様の体験談もお待ちしております！



## みんなどうする？保活情報交換会

日時 2019年9月27日（金）12時～13時 途中入退室自由

ランチ持ちより

場所 男女共同参画推進センター <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/about/access/>

詳細は、コラム「みんなどうしてる？」のサイトをご覧ください <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>

## 全学共通科目（後期）「ジェンダー論」開講

落合 恵美子教授の全学共通科目「ジェンダー論」が10月7日（月）より開講しました。現代日本のジェンダーを広い視野に位置付けて理解し、問題解決の方法について自ら考える力を養うことを目指します。

適宜ゲストスピーカーをお招きし、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブ、日本および世界の他の地域のジェンダーの状況や課題について講義いただきます。



2019年度10月開講 全学共通科目（後期）  
「ジェンダー論」テーマ一覧

講義日	テ マ
10月 7日	日本の子育てはなぜ難しいのか
10月16日	伝統を問い直す：二つのアジア
10月21日	近代家族とジェンダー
10月28日	家族の戦後体制は終わったか
11月 6日	ハイジと日本
11月11日	女性医師／医学研究者として生きる：多様性の中の一事例
11月18日	男女雇用機会均等法・育児介護休業法・女性活躍推進法
12月 2日	性的同意
12月 9日	女性の貧困
12月16日	男性学とは何か
12月23日	ジェンダー平等と父親の育児休業の国際比較
1月 6日	男性のワーク・ライフ・バランス
1月14日	慰安婦と中国
1月20日	まとめ

- ゼミの時間：月曜日 3限（13時00分～14時30分）
- ゼミの場所：吉田南構内 国際高等教育院棟31



みんな どうしてる？

## シッターサービスを使ってみた

筆者は最初は夫と大阪在住の両親の助けを借りながら子育てと仕事を両立していた。保育園は私の職場及び自宅の近くにあり、他方夫の職場からは1時間弱かかるため、平日の送迎は私の担当、週末は夫が担当となることが多かった。しかし、息子が年少のときに母が緊急入院し、父は衰え介護が必要になり、負担は一人娘の私にかかった。初めて仕事を辞めようかという考えが頭をよぎった。幸い職場からサポートをいただいて乗り切ることができたが、通常業務に復帰するにあたって、保育のバックアップは必須と考え、同じ職場の人から情報を集めシッターサービスをお願いすることにした。他人を自宅にいれることに対する抵抗感は、「これがないと仕事が続けられない」という切羽詰まった状況によってあっさり消えた。

最初は、シッターサービス業者とのやり取り、初めてのシッターさんと息子との引き合わせ、など様々な打ち合わせがあり、実際に息子を長い時間お願いできるまでに1か月弱はかかった。幸い最初のシッターさんには早く慣れてくれたのでほっとした。

会議や研究打合せなどの会合は主に夕方に入るときが多い。部内の会合は可能な限り日中に行うよう変更を行ったが、夕方から動かせない会合があったり週末には研究会や学会があって、夫の出張や会議と重なるときがある。そんなとき、シッターさんにお世話になった。シッターさんのおかげで、予定よりも遅く帰ってきた夫に腹を立てることもなくなった。

息子が小学校に上がると、学童保育が6時半お迎え、にも関わらず夫・私共に時間外の業務が増え、週に1・2回はシッターさんお迎え～自宅での親の帰りを待ってもらうパターンが3年ほど続いた。1回につき最低3時間以上、時給2,000円程度（夜間は加算あり）。ご飯が用意できなかった時はコンビニでおにぎりを買ってもらい、シッターさ

んの交通費もあるので1回7千～1万円程度、月に4～5万円分をシッター代として使っていた。夫婦のどちらかが泊まりがけ出張の場合は夫婦でカバーできない時間が増えるため数日間続けるの依頼となり、さらに数万上乗せ状態であった。最近は息子が高学年になり、シッターさんがいなくても短時間なら一人でやっていけるようになり、また習い事で忙しくなったためシッターさんを頼むことはなくなった。

センターのおむかえ保育（脚注1）も選択肢ではあったが、私の場合は保育園と自宅の位置関係からは、センターを経由する分タイムロスが大きくなりそうだった。共稼ぎ家庭においては時間は貴重であり、諸要素を考えてベストな選択をした結果が私の場合はシッターサービスの利用となった。シッター業者に制限があったが、クーポンが利用できた（脚注2）。ただ、シッターサービスに関する金銭的補助は、決して十分とは言い難い。仕事を続けていくために一時的とは言えかなりの出費を覚悟する必要がある、その点について夫とはいろいろと話し合った。

最後にひとこと、夕方を過ぎる会合や研究会では、予定している時間を延長しないでいただきたい。ギリギリの時間までシッターさんをお願いして会に参加しているのに、長引いてしまって残念ながら中座しなければならなかった経験が何度かあった。もちろん、延長可能なシッターを私の代わりに手配してくれて代金も負担してくれるというのなら話は別だが。

（脚注1）おむかえ保育は、保護者に代わってシッターが保育園までお迎えに行き、センターで一時保育を行う制度です。学生も利用できます。 <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/proxy/>

（脚注2）ベビーシッター利用育児支援は、クーポンを発行してベビーシッターによる在宅保育サービスの利用料金の一部を助成する制度です。学生は利用できません。 <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/babysitter/>

コラム「みんな どうしてる？」バックナンバー <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>

（文責 育児介護支援事業 WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

## 電通×京大 SDGs シンポジウム

7月25日（木）10時より、大阪科学技術センターにおいて企業向けの「電通×京大 SDGs シンポジウム」が開催されました。その中の「JAMセッション 京都大学の挑戦」では、広報・相談・社会連携事業 WG 主査である今村 博臣准教授が、京都大学における男女共同参画の取り組みについて講演しました。女子学生・研究員を増やす取り組みとして、男女共同参画推進センターに関して、4つのワーキンググループの活動を中心に紹介

しました。センターのことを紹介できる機会を得たことは社会にアピールすることであり、今後も引き続き発信していきたいと考えています。



## 「多様性をイノベーションに繋ぐ要因の研究と新たな評価法の提案」に関する研究開発専門委員会

7月30日（火）11時より京都大学杉浦ホールにて、日本学術振興会「多様性をイノベーションに繋ぐ要因の研究と新たな評価法の提案」に関する研究開発専門委員会（通称：多様性イノベ委員会）（委員長：鈴木 和代 医学部附属病院特定助教）の研究会が行われました。

多様性イノベ委員会では、これまでにイノベーションに寄与した女性研究者・技術者へのインタビュー調査を通じて共通したイノベーション寄与要因を質的に解析し、その寄与要因を指標化することで多様な人材の能力を生かす多角的な仕組みと透明性のある評価制度の実現を目指しています。

今回の研究会では、はじめに、スギホールディングスの副会長である杉浦 昭子氏が「スギホールディングス

の多様性をイノベーションに繋ぐ取り組み」と題して講演を行われました。その後、鈴木特定助教が「多様性イノベ委員会のこれまでの進捗」について報告しました。午後からは、要因のイノベーションへの寄与度に関する分析・ルーブリック作成ワークショップが行われ、その後新たな評価法について活発な意見交換がなされました。



## 人社未来型ユニット 第2回全学シンポジウム 女性がつくるアジア人文学

8月23日（金）13時より、国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて「人社未来型ユニット第2回全学シンポジウム 女性がつくるアジア人文学」が開催されました。これは、大学で研究・教育に携わる女性たちが集まり、アジアの現代社会に潜むジェンダー関連の諸問題を明るみに出し、分析することを目的としたシンポジウムです。はじめに、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より挨拶がありました。その後、第一部のアジアの女性研究者による講演では、金 惠淑梨花女子大学総長、三成 美保



奈良女子大学副学長、落合 恵美子文学研究科教授、教育学研究科博士後期課程大学院生の西郷 南海子氏が、それぞれのテーマについて話されました。第二部の提題者とコメンテーターによる総合討論では、家族と大学を生きる女性研究者の視点から様々な意見が交わされ、盛会に終了しました。



## みんなどうする？保活情報交換会

9月27日（金）12時より、男女共同参画推進センター会議室にて育児・介護支援ワーキンググループ主催の「みんなどうする？保活情報交換会」が初めて開催されました。これは、来年4月入所を目指す方やその他研究者の保活（子どもを保育園に入れるための活動）に関心を寄せる方のために企画されたイベントです。はじめに、ワーキンググループ主査である矢野 孝次理学研究科准教授より挨拶がありました。次に齊藤 真紀法学研究科教授が、保育園入園のタイミングや見学について、また京都市のポイント制の概



要等について話しました。その後、自由な意見交換や質問の時間をもち、就労証明書や申込書の書き方のポイント等、保育園に入園するための手立てについて活発な情報交換が行われ、充実した交流会となりました。

## 京都大学女性教員懇話会ランチ会

9月2日（月）12時より、吉田泉殿にて京都大学女性教員懇話会のランチ会がありました。

今回は、決まった講演やミニセミナーなどは行わず、自由に育児や介護、今般の女性問題等について、思い思いに意見交換を行いました。

稲葉 カヨセンター長、理事・副学長にも参加していただき、短時間ではありましたが、意見が飛び交い、参考になったことや知らなかったことについての認識等で盛り上がりました。



## 連載：研究者になる！—第14回—

アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 中村 沙絵

### ●何でも挑戦する学生時代

父親の転勤で、中学時代に住んでいたインドネシア。スハルト政権が倒れた時期で、大規模な暴動などを経験し、広く世の中の仕組みのことや、自分とは違う生活をおくる人々の考えや生き方に興味を持ったことが研究者を目指すことへの始まりでした。運動も音楽もボランティア活動もしたい！と欲張りな私は、学生時代、女子サッカー部やサンバサークル、大学外のNGOなど課外活動に多くの時間を費やしました。NGOでの活動を通して津波復興支援の一環でスリランカを訪問したことがきっかけで、後にスリランカの全てに魅了され、スリランカ研究で進学することになるのです。

### ●様々な出会いが今に繋がっている

学生時代、忘れられない様々な出会いがありました。胡瓜の光合成をはじめ、植物の素晴らしさを教えてくれる生物学の先生、聖書をジェンダーの視点で読む先生。2人の先生の授業はとにかく興味深く感心することばかりで、何かを追求することはこんなにも素晴らしいことなんだと感じさせられました。また「私もいつかこんな本を書いてみたい」と思うほど感動した民族誌との出会いもあり、いつの日か研究者を目指す自分がいました。

大いに影響を受けることになったスリランカ訪問では、スリランカの人、食べ物、風景、いろんなものに魅せられました。スリランカにまた行きたいという思いと、自分も少し関わっていた津波復興支援についてもう少し考えてみたいという思いから再訪問しました。そこで、とある老夫婦に出会い、みずばらしい格好をしている私に声をかけてくれました。シャワー、トイレ付きの部屋を用意してもらい、なんと毎日の食事までお世話になることに。いつも私のことを気かけ、本当の両親のように親切にしてもらいました。かけがえのない出会いとなり、私自身も彼らのことを「お父さん、お母さん」と呼ぶようになっていました。私にとってその方々との出会いが大きく、「この人たちのことをもっと知りたい」と素直に思うようになりました。そこから、高齢者について研究し、老人ホームの民族誌を書くことに至りました。

出産・育児を経て、卒業できるかどうかわからない状況の時もありました。産後は所属もなく保活に苦労し、ようやく保育園に預けられるようになったのは息子が2歳のときでした。その間は、両親にみてもらったり、就寝後の時間を使うなどして「とにかく、本だけ出せればそれでいい。研究者になれなくてもいい」と思って博論を書いていました。京大の大学院（ASAFAS）の

先生方が支援してくださり、何とか研究者の道を諦めずに来られました。自身の著書を出すことができ、強い意志を持って続けてきてよかった、と今心から感じています。

現在は、スリランカをはじめとする南アジア地域の老い・病い・死とケアをめぐる問題を研究しています。地域のことを相対的・総合的に見て、生態系や地理的な特徴、文化的な特性、社会構造等がどのように関係しているのかという地域研究の視点と、文化をもっている人間の社会的・文化的側面を追求する文化人類学の視点から研究を進めています。

### ●調査に協力してくださった方々のためにも、意義のある研究を

私心がけていることは、とにかく、現地の人たちに教えてもらったことを一つ一つ大事に理解し、文字にし、忠実に伝えること。遠回りだったとしても、調査に協力してくれた人たちに何らかの意義ある仕事をする。現地で調査に協力してくれている人たちにとっても、私にとっても、学術的にも大事な問題を探し続けるようにしています。そして、まずは単著を英語にして現地の人たちに還元したい、と考えています。その後はもう一度、長期のフィールドワークをしたいです。

裁量労働なので、子育てもしやすい環境ではありますが、平日のお迎え時間までにできることが限られていて、休日や夜間（子供を寝かした後）などに仕事が集中してしまうこともあります。これが続く和家人も疲れてきてしまうので、ときには「忘れ」、裁量労働だからこそ、オンとオフをちゃんと意識しなければと思っています。また、夫や子どもはもちろん、それぞれの両親、姉家族、近所の方々やベビーシッターさんなど、本当に色々な方々に助けられています。ずっと感謝の気持ちを忘れず、自分のやりたいことを諦めることなくやっていたら、と思います。スリランカでは、内戦後、コミュニティの社会構造や関係性が大きく変わっている地域があります。そういう場所も含めて、スリランカのことをさらに深く知って、世の中に発信していきたいです。

### 編集後記

ずいぶん寒くなり、セーターを着ようか迷う日も出てきました。セーターのお庭はすっかり秋の色、新入りの花たちがとても綺麗です。お近くに来られた際は、ぜひお立ち寄りください。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

## 日本放射線影響学会第6回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

11月14日(木)に、百周年時計台記念館にて「日本放射線影響学会第6回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー」が開催されました。

第一部では、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より「京都大学における男女共同参画の取り組み」について講演が行われました。稲葉理事は、京都大学男女共同参画のこれまでの流れや、男女共同参画推進センターの取り組み・ホームページ等について、4つのワーキンググループの活動を中心に紹介しました。最後には「男女共同参画の実現に向けて、女性側の意識改革や自身の能力を最大限に



発揮する努力が大切です。」と述べ、参加者は興味深く聴いていました。第二部では「放射線影響科学から広がる多様な道 ～年代・性別の枠を超えて～」と題したパネル討論が行われました。会場の方々のリアルタイム意識調査を行い、放射線影響科学から広がるキャリアパスについて、経験や考えを共有しながらの活発な意見交換がなされました。



## 長期履修制度

在学中に学業と出産・育児を両立することになった学生にとっては、標準修業年限での修了は難しくなります。また、親の介護を担うことになった学生にとっても、同様のことが当てはまります。

留年するとすると、授業料負担が重くのしかかる上に、留年のせいで将来的に不利に扱われるかもしれません。そうかといって休学すると、休学中は授業を受けられず、研究費による旅費補助を受けての出張もできなくなるばかりか、保育所の利用が認められないおそれもあります。このような不利益は、経済的・身体的に重くのしかかるだけでなく、場合によっては、学業自体を諦めることにもつながりかねません。

こういったジレンマが、もし長期履修制度が利用できたなら、解消するかもしれません。長期履修制度とは、大学(院)設置基準の定めに基づく制度で、職業を有する等の事情のある学生が、標準修業年限の授業料で長期の計画的な履修を可能にする制度です。ウェブ検索すると全国の大学(院)で導入が進んでいることが分かり、出産・育児・介護も事情として認められているところが多いと分かります。

本学でも、この制度に関する上位規定があり、導入する準備はできています。しかし、実際に学生が出産・育児・介護を理由としてこの制度を利用するには、学部・研究科においてこの制度を運用するための規程が整備され、利用可能な事由として出産や育児、介護が挙げられている必要があります。農学研究科や情報学研究科など既に出産等を理由とした利用が認められているところがあり、工学研究科でもこの10月から同様の手当てがなされるなど、本学でもこの制度の導入は広がりつつあります。「京都大学 長期履修制度」で検索すると情報が手に入ります。

学業と出産・育児・介護の両立は難しく、志半ばで学業の継続を断念する人が後を絶ちません。場合によっては、本人に意欲があるにもかかわらず、「育児・介護をしなければならない身で学生を続けるのは贅沢だ」とか「子どもがいる女性に研究は無理だろう」という周りの無理解のために、不本意ながら学業を諦めるケースもあるのではないかと想像されます。ケアが必要な人が身内にいながら学業を続けるには、たくさんのサポートとともに周りの温かい理解が必要です。家族や社会に支えられ、育児・介護をしながら学生を続けることが、ごく当たり前の風景になる時代が到来するよう願っています。

コラム「みんな どうしてる？」バックナンバー <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/>

(文責 育児介護支援事業 WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

## 第 14 回女子中高生のための関西科学塾

11月10日(日)に京都大学にて、「女子中高生のための関西科学塾」が開催されました。このイベントは、関西の大学が中心となり女子中高生を対象に理科実験教室などを行う企画で、2006年から開催しています。第14回目となる今回は大阪市立大学が幹事校となり、京都大学、神戸大学、大阪大学、奈良女子大学、大阪府立大学、中西金属工業株式会社などが参加しました。京都大学



では小グループに分かれて様々な実験を行い、大学の研究を体験しました。



## 特別授業 岡山県立岡山操山中学校

11月15日(金)に岡山県立岡山操山中学校の生徒19名、引率教員2名が東南アジア地域研究研究所を訪問しました。

東南アジア地域研究研究所のセミナー室にて、同研究所の帯谷 知可准教授がウズベキスタンのイスラーム・ヴェール問題について講義を行いました。帯谷准教授は、ウズベキスタンの20世紀中のヴェール根絶運動の歴史や現代の新しいヴェール「ヒジョブ」着用問題について、伝統的ヴェールの実物や様々なヴェールの写真を見せながら話し、「女性たちがヒジョブを着け



るのは、一人の意志ある女性として、自分らしい生き方や幸福を模索した結果なのではないか。」と述べました。参加した生徒は、先生の話に熱心に耳を傾けていました。その後の質疑応答では、積極的に質問をしたり、ウズベキスタンの伝統的ヴェールを実際に着用したりしました。



## 京都大学女性教員懇話会セミナー

11月26日(火)12時15分より男女共同参画推進センターの会議室にて、女性教員懇話会主催の懇話会セミナーが行われました。国際高等教育院の吉田 万里子教授より「平等な機会と待遇に係る労働法と社会保障法についての国際比較～欧州法における「働く女性」の扱い～」と題して講演がありました。吉田教授は、ドイツと日本の産休・育児制度や給付金、就業形態などを比較し、欧州の男女均等待遇法制についても紹介され、「日本の男女均等待遇は改善しつつあるものの、非正規雇用や社会保険制度、法制度の遅れ等まだまだ課題があり、一般社会・家庭内でも意識改革を行うことが大切。」と

述べられました。その後、参加者から様々な質問や意見が寄せられ、有意義な時間となりました。



## 附属病院 オープンホスピタル

11月2日(土)10時から16時まで医学部附属病院外来棟アトリウムホールでオープンホスピタル(病院見学会)が開催され、そこに病児保育室「こもも」がポスター参加をしました。議題は「京大病児保育室について」「隔離室について」「保育室での遊びについて」で、病児保育室の利用方法や隔離室での様子、保育室での過ごし方等について、詳しく紹介しました。

**京大病児保育室 こもも**

本大病児保育室にて、京都大学 学術院医務科と連携し、看護部・保育士が協力をめぐる体制で、病児の保育を行っています。

**【病児保育室の運営体制】**  
2007年 2月 病児保育室開設  
2008年 12月 病児保育室に病児保育推進センター併設

**保育対象者**  
① 京都大学 附属病室および学部の学生  
② 京都府立小児科病院から転院された患者さま  
③ 病中・病後の子ども(保護者を伴って)

**保育時間**  
平日 午前8時～午後5時(受付 7:30～19:00)  
土曜 午前8時～午後5時

**保育室について**  
病児保育室には、保育室と隔離室が併設されています。病児保育室は、病児保育推進センターと連携し、病児保育推進センターの体制で運営されています。

**病児保育室の運営体制**  
病児保育室の運営体制は、病児保育推進センターと連携し、病児保育推進センターの体制で運営されています。

**病児保育室の運営体制**  
病児保育室の運営体制は、病児保育推進センターと連携し、病児保育推進センターの体制で運営されています。

**病児保育室の運営体制**  
病児保育室の運営体制は、病児保育推進センターと連携し、病児保育推進センターの体制で運営されています。

## 女子高生・車座フォーラム2019

12月22日(日)10時より、京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて「女子高生・車座フォーラム2019」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうという企画です。今回で14回目の開催となり、高校

生111名、保護者49名の参加がありました。お越しいただいた皆様、この度はご参加いただきありがとうございました。

当日の詳しい内容につきましては、次号の第89号とHPにも掲載致しますので、そちらをご覧ください。

## Women and the Worldフォーラム6

3月3日(火)12時～13時30分にWomen and the Worldフォーラム6を開催します。ランチミーティング

となりますので、昼食をご持参ください。詳細につきましては、HPのお知らせをご覧ください。

## 連載：研究者になる！—第15回—

高等研究院物質—細胞統合システム拠点・教授  
深澤 愛子

### ●化学者になって新しい物質を創りたい

科学者のルーツを辿ると、多くの場合が子供時代から自然や科学に触れ…というのが多いですが、私自身は幼い頃は本が好きなインドア派、科学とはあまり縁のない幼少時代を過ごしていました。そんな私が科学者を志した契機は間違いなく高校時代にあります。私の母校は、とにかく生徒の自主・自立性を重んじる学校で、まさに「出ていない杭は打たれる」雰囲気のもと、文化祭などの行事の企画や討論合宿で徹底的に意見をぶつけ合うことで、何事も主体的に考え周囲を巻き込みながら行動する力がついたと思います。理系科目では実験に重きが置かれ、自分たちで実験を計画するチャンスもあり、本当の意味での科学の面白さに触れることができました。次第に、新しい物質を生み出せる化学に魅力を感じるようになり、京大工学部工業化学科を目指すことにしたのは、高校3年生になった頃です。それまで学校行事や部活のバスケットボールに熱中していたため全くの実力不足でしたが、そこから猛勉強し、何とか合格。入学後は、サークル活動・アルバイト・趣味を謳歌し、試験直前になって勉強を詰め込むという当時の典型的な京大生で、気ままな生活を謳歌していました。

### ●生活スタイルが一変、研究漬けの毎日に

そんな気楽な生活が一変したのは、研究室に配属された4回生のときでした。新しい物質を創り出したいという初心を思い起こし、有機合成化学の研究室に飛び込みました。3回生までの実験では、結果が既に分かっている実験を行い基本操作や原理を習得するのに対し、研究室ではこれまで誰も作ったことのない物質の合成に取り組めます。最初にもらったプロジェクトは、ケイ素どうしの結合をもつ新しい有機化合物を合成し、その性質を明らかにするというものでした。合成の難しさから研究が一向に前に進まず、それまでの生活スタイルとの落差も激しかったこともあり、心身の調子を崩しかけたこともありましたが、でも、研究室の先輩や同期からの玉石混交の様々なアドバイスのおかげで（笑）、「多様な考え方に触れ、自らで考え取捨選択しながら進んでいけばいい」と思えるようになり、何とか乗り越えられました。その後とはとにかく文献を読み漁り、時には研究室の別のグループの先生や近隣研究室の先輩にも自分から議論を持ちかけ、実験を重ねることで着実に解決への糸口を見出し、3年半かけてようやくまとまった成果を出すに至りました。当初は博士課程への進学は考えていませんでしたが、いつの間にか研究の面白さに魅了され進学し、

その後大学で研究する道を選択し、今に至っています。私が現在取り組んでいる研究は、革新的材料の創製を目指した新しい有機分子の創出です。優れた光・電子機能をもつ新物質の創製は、持続可能な社会の実現の根幹を担う重要課題であり、かつ材料への応用に直結する可能性をもつため、有機・無機材料問わず世界中で活発に研究されています。私はむしろ基礎科学としての側面に強い興味があります。これまで実現できないだろうと考えられていた未踏物性や機能への挑戦は、科学の常識を覆すチャンス秘めているからです。もちろん既存の技術の改良に確実に貢献する物質創製も重要ですが、私たちは既に誰かが可能性を示した応用の方向性に囚われず、さらにその先を目指し、ユニークな有機分子のデザインを起点に、合成、機能開拓に取り組んでいます。



### ●今を大切に、そして楽しく

研究者である夫と結婚し、子どもが産まれてからは、今まで研究一色だった生活は驚くほど変化しました。さらに京大への異動に伴い夫とは別居を余儀なくされているので、研究の時間を今まで通りに確保することは非常に困難です。それでも、「研究と育児の両立」や「ワークライフバランス」という言葉には抵抗があります。私にとってワークはライフの一部であり、研究と育児は天秤にかけられるものではなく、一方のために他方を犠牲にすると捉えたくないからです。まずは自分と家族の健康を第一に、あとは完璧を目指し過ぎず、頼れる人やモノには割り切って頼ること。恩師の玉尾皓平先生（京大名誉教授）の言葉である「今を大切に、そして楽しく」をモットーに、その都度全力で取り組むしかないと考えています。今は京大で自分の研究グループを主宰するようになって間もなく、まだ何も大きなことは成し遂げられてはいませんが、これまで誰も思いもよらなかった「不可能を可能にする分子」を創り出し、世界をあっという間に驚かせたい。研究のワクワク感、自分の手でスゴい新物質を生み出した瞬間の震えるような喜びを、学生、研究員のみならずと共有し、有機化学、マテリアルサイエンスの新境地を開拓していきたいです。

### 編集後記

女子高生・車座フォーラム2019が無事終了いたしました。高校生には、京都大学での学生生活や研究者の仕事について知ってもらいたい機会になったことと思います。アンケートでいただいたご意見を来年度に生かしていきます！

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
電話 075 (753) 2437  
FAX 075 (753) 2436  
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

### 女子高生・車座フォーラム 2019

12月22日(日) 国際科学イノベーション棟シンポジウムホール等にて「女子高生・車座フォーラム2019」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうという企画です。今年で14回目の開催となり、高校生111名、保護者49名の参加がありました。



今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行のもと、はじめに、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より開会の挨拶と京都大学についての紹介がありました。稲葉センター長は、京都大学の歴史やミッション、特色入試等、京都大学について話しました。その中でもWINDOW構想については、「最後のWには、女性をサポートし、女性がより伸びるような教育をしていくという意味が込められています。」と述べ、男女共同参画のこれまでの流れや男女共同参画推進センターの取り組みについて紹介しました。最後は、「どうぞ京大に来てください。また皆さんと京大でお会いできることを楽しみにしています。」と締めくくりました。



引き続き、人文科学研究所の石井 美保准教授が「フィールドワーカーになろう!」の題で講演を行いました。石井准教授は、フィールドワークの意義や素晴らしさについて話し、ガーナでの調査では「人々のいきいきとした生活を見ることができました。フィールドへの没入と再帰を繰り返していく中で、自分が変わり、成長していきます。回り道に見えることでも無駄ではなく、研究の発想に生かされます。」と述べました。また自身の子どもを連れて村を訪問したり、子どもにヘルメットやマスクを付けて過ごしたりしたことなど、2人の子連れフィールドワークのエピソードについても話し、最後に「あらゆる場面で女子学生が活躍しています。高校生の皆さんには、希望を持って進んでほしいと思います。」と激励しました。

次に、総合人間学部卒業の舟橋 知生さんと理学部の学生達がおもろいチャレンジの取り組みについて紹介をしました。舟橋さんは、「バクタブルに訪問した際、宗教意匠に興味を持ち、研究したい!と思いました。周りが



応援してくれる恵まれた環境で取り組むことができ、想像以上におもしろい発見ができました。」とおもろいチャレンジでネパール・バクタブルでの建築意匠調査に取り組んだきっかけやエピソードなどについて話しました。最後には、「自分の夢に向かって今何をしなければいけないか考え、コツコツ取り組むと可能性は広がります。志を絶やさず頑張ってください。」と高校生にメッセージを送りました。また理学部の学生は、「4人でアラスカへと旅立ち、オーロラの音かもしれないものを発見しました。思ったより素晴らしい成果を得た。」とオーロラの音をテーマに調査したことについて紹介しました。また「女子率が低くて心配だったが、今ではとても居心地のいい場所となっています。」「3回生から専門分野を決められるので、何がやりたいかはっきりしていても大丈夫。ぜひ理学部を目指してほしいです。」とそれぞれの京大理学部を選んだ理由について話しました。



昼休憩後、高校生は希望学部別のグループに分かれ、総合研究8号館に移動し、グループワークを行いました。事前に集めた質問内容をもとに、学生は受験勉強や学生生活といった実体験を語り、研究生活や専門などについては講師が回答しました。質疑応答以外にも活発な意見交換が行われ、非常に内容の充実したグループワークとなりました。



高校生がグループワークに参加している間、保護者は京都大学学生との交流会に参加しました。稲葉 カヨセンター長挨拶の後、保護者から学生へ学校生活や学部などについて疑問に思うことを数々の質問があり、学生が回答しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。足立 壯一男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれのグループで話し合った内容を報告し、他のグループでの話し合いについて情報共有しました。

車座フォーラム閉会後も、入試企画課と学生が残り、女子高生からの質問に丁寧に対応しました。

今年度のアンケートや車座フォーラムの詳細内容は、HPに掲載していますのでご覧ください。



## グループワークの様子



文学部



教育学部



法学部



経済学部



理学部



医学部（医学）



医学部（人間健康科学）



薬学部



工学部



農学部



総合人間学部（文系）



総合人間学部（理系）



保護者（京大生との交流）

### 車座フォーラム参加者の声（保護者・高校生のアンケートより）※一部抜粋

- ・自分の進路について考え直すきっかけになり、選択の幅が広がったのはよかったです。
- ・京都大学の女性研究者への支援が厚いと感じました。研究者という進路も視野に入れて頑張ります。

- ・オーラのおもしろチャレンジの話が印象的で、京大の自由さがよくわかりました。女子大学生のお話が身近で分かりやすくよかったです。漠然と目指していた京大が、未来の自分が過ごしたい、輝きたい場所として想像できるようになりました。
- ・他の学校、地域の普段なら関われない人たちと交流することができて、とても刺激を受けました。京都大学でははじめからどの科目を学ぶかを選択するということではなく、3年生になってから選べるという点が、自分の進路に焦ることなく、ゆったりと決めることができると安心しました。
- ・学生さんの話もたくさん聞くことができ、京都大学を近くに感じることができました。先生のお話を聞いて、女性が子育てをしながらそんな風に仕事をする道があるのかと、自分の今までの考え方が変わりました。大変だと思うが、自分のやりたいことをするのは生きていくうえでとても大切だと思います。
- ・2年連続参加させて頂きました。「京大に絶対に入りたい！」と意志は固まったようなので、車座フォーラムに感謝です。

## 令和2年度第1期 研究・実験補助者雇用制度 利用者決定

令和2年度第1期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、12名（女性8名、男性4名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは育児・介護等で十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：事務及び教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年2回です。本事業は女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

## 2019年度 ワーキンググループ活動報告

### 広報・相談・社会連携事業WG

主査 今村 博臣

広報事業では、3月3日に Women and the World フォーラム6「総長と語る！京大らしさと diversity & inclusion」を女性教員懇話会との共催で行い、総長との意見交流を行いました。また、センターの活動について、ウェブサイトやweb ニュースレター「たちばな」、研究者紹介の冊子「未来に繋がる 青いリボンのエトセトラ」、卒業生紹介の冊子「Will」を通して、学内外に広報活動を行いました。

社会連携事業としては、京都大学主催で関西の他大学と連携し、第15回女子中高生のための関西科学塾を開催しました。京都大学においては、11月10日に様々な分野のグループに分かれて実験を実施しました。また、12月22日には女子高生・車座フォーラム2019を学内にて開催しました。両イベントとも多数の高校生および保護者にご参加いただきました。将来を担う次世代の女性たちに、早い段階から大学の雰囲気に触れ、教員や学生と交流する機会を提供することができたと考えています。

こうした従来の活動に加え、今年度は新たな取り組みとして男女共同参画センターの基金を立ち上げました。

### 育児・介護支援事業 WG

主査 矢野 孝次

当WGでは京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っています。

今年度も4月に男女共同参画推進センター内に待機乳児保育室を開室いたしました。ここでは京都大学の学生・研究者を対象として、認可保育所に入所できなかった生後15ヶ月未満のお子さんをお預かりしています。近年京都市に認可保育所が相次いで開設されていますが、依然として年度途中での保育所入所は厳しいもようので、保育室の利用申請者数は2月の時点で定員18名に達しました。

新たな支援の可能性を模索すべく、情報の発信と収集を促進するため、ニュースレターたちばなへのコラム掲載を継続していますが、今年度は5本の記事を掲載しました。また、保活（子どもを保育園に入園させるための活動）の支援活動として、保活情報交換会を開催しました。

### 病児保育事業 WG

主査 丹羽 房子

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」（以下、病児保育室）は、京都大学に在籍する全

ての教職員・学生の子供（生後6ヶ月から小学校6年生※2019年4月から年齢上限引き上げ）を対象とし、急な疾病により保育園／幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っています。事前登録制による運用で、登録者数はのべ1206名、うち令和元年度の新規登録者93名（令和元年12月末現在）と毎年100名前後の新たな登録があります。定員は5名（感染隔離室1名を含む）であり、令和元年度は751名の利用がありました（令和元年12月末現在）。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日が続くこともしばしばみられますが、利用者からは概ね良いご意見をいただいています。また、今年度も京大病院オープンホスピタルでのポスター掲示やホームページ等を通じての広報活動も継続して行いました。

定期的な利用者へのアンケート調査や要望を受けて、利用基準についての見直しを随時行っており、利用者からはより利用しやすくなったという声をいただいています。感染対策上困難な点もありますが、京都大学医学部附属病院感染制御部の協力のもと、京都大学教職員・学生が育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要があると考えています。3月より病児保育室の閉室時間が19時から18時に変更になりますのでご注意ください。

### 就労支援事業 WG

主査 喜多 恵子

本WGの主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきています。本年度中の実績は、第1期で応募者27名、利用者14名、第2期で応募者25名、利用者11名と、時期により変動はあるものの、ここ数年増加傾向にあります。予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきています。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加しています。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多くみられます。

雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適応した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題です。

**3月より病児保育室閉室時間が19:00より18:00に変更となります。**

## 連載：研究者になる！—第16回—

人間・環境学研究科・教授 山村 亜希

### ●歴史も地理も大好き。自分にぴったりの歴史地理学。

山に囲まれた中国山地の盆地で育ちました。子どもの頃から知らない土地を「探検」し、その経験をもとに頭の中で地図を作ることが大好きでした。その一方で、学校の科目として好きだったのが歴史でした。身体と頭は地理ですが、気持ちは歴史という感じでしょうか。どちらかを高校生の時点で選べなかった私が、入学後に専門を選べることから志望したのが京大の文学部でした。

受験勉強に苦勞して入った京大なのに、人間関係に当初は慣れませんでした。特に要領良く単位を取ることを自慢し、雑学王のように知識や読書量をひけらかす京大生の一部の文化に馴染めず、悩みました。そんな中、1回生の時に履修した、当時の人気授業の一つの「人文地理学」が唯一の救いでした。それは、先生の研究を基に組み立てられた歴史地理の授業で、研究とは何かを実感できる授業でした。独創的な研究者の知的営為には鳥肌が立つほどの面白さがありました。そこで、地理と歴史のどちらかを選ぶのではなく、どちらもできる歴史地理学があることを知って、京大に来てよかったと思いました。

### ●研究の苦しさ、覚悟と喜び

卒論は、著名な歴史都市であるにも関わらず、歴史地理学的研究はなされておらず、当時の研究の盲点であった鎌倉をテーマにしました。膨大な中世の記録を読み、発掘調査のデータを一つ一つ確認しながらも、それがどんな成果に結びつくのか分からず、今一つ気乗りしない作業でした。ただ、卒論提出前の最後の詰めで、無駄かも知れないと思っていた「点」と「点」の情報が繋がって、階段を駆け上がっていくような思考の上昇を経験しました。

しかし、その後の修論はとにかく苦しいだけで、出来は惨憺たるものでした。卒論はビギナーズラックだったと思い知りました。結果的に、博士1年次に、一から調査し直して、修論を一字から全て書き直したときに、卒論と同じ一筋の光明が見えました。プライドを捨てての修論の完全な書き直しは、相当の覚悟と労力が必要でした。しかし、この経験がその後に、失敗しても諦めない、再挑戦するという姿勢を作ってくれたので、無駄な経験ではなかったと確信しています。

### ●フィールドの力、過程を楽しむ心

日本の地域には歴史地理的な個性・特性があり、その土地ならではの魅力があります。研究では、その場所で歴史地理の痕跡を自ら確認し、頭の中の地図を作る

フィールドワーク（巡検）を重視しています。一見ただけでは歴史的景観が全く見えない場所であっても、頭の中に作られる今と過去を結ぶ地図の断片は必ず研究のヒントになります。自分の目で見て、聞いて、感じて学ぶ巡検は、常に新しい発見に満ちています。特に学生達とともにわいわいと勝手な推論を交わしながらの各地の巡検は、私自身も本当に楽しいです。

研究は成果ではなく、過程だと思っています。私は要領が悪い上に、過程を楽しむ気質が強くて、喫緊の論文に直接結びつかないことが薄々分かっているにもかかわらず、まずは着手します。最初にうじうじ悩むよりも、たとえ無駄になっても前進する姿勢だけは、指導教員に褒められました（笑）。そして、往々にして締め切りまでの時間が不足する、焦る、失敗するという結果になることに。ただ、その時は使えなかった情報や知識も自分の血となり肉となって、必ず後から自分に戻ってくるので、過程を楽しむ心はやめられません。

### ●バランスを取ることの難しさ

最近では、介護が必要な高齢の母に時間を割くことが多くなりました。母という時間は自分の存在意義をそこで感じ、もっと時間を割きたいと思います。一方で、研究は確かに好きなことではありますが、反面、追い詰められた時の逃げ場のなさは苦しいです。研究とそれ以外の生活とのバランスの悪さは、今でも解消できていません。

そんなときに思い出すのは、学生時代の「人文地理学」の高揚感です。あの時の私のようなキラキラした目で今の私の授業を受けてくれる学生達や、一緒に行ったフィールドで盛り上がる学生達を見ると、地理学の面白さ・意義を大学という場で伝えることの励みになります。研究のみならず、人生に無駄な経験は一つもありません。目の前の人とともに真摯に向き合うことを、日々心がけたいと思っています。

### 編集後記

3月は年度末で待機乳児は退所となり、4月に顔ぶれが一新します。少し寂しさもありますが、春の新しい出会いにワクワクしています。センター玄関横の花たちもきれいに咲き始め、みなさんを出迎えます。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

## Ⅱ 「育児・介護支援」事業

# 育児・介護支援事業ワーキンググループ活動報告

当 WG では京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っています。

今年度も4月に男女共同参画推進センター内に待機乳児保育室を開室いたしました。ここでは京都大学の学生・研究者を対象として、認可保育所に入所できなかった生後15ヶ月未満のお子さんをお預かりしています。近年京都市に認可保育所が相次いで開設されていますが、依然として年度途中での保育所入所は厳しいもようで、保育室の利用申請者数は2月の時点で定員18名に達しました。



新たな支援の可能性を模索すべく、情報の発信と収集を促進するため、ニュースレターたちばなへのコラム掲載を継続していますが、今年度は5本の記事を掲載しました。また、保活(子どもを保育園に入園させるための活動)の支援活動として、保活情報交換会を開催しました。

育児・介護支援事業 WG 主査 矢野孝次

## ■2019 年度活動記録

- 4月3日(水) 保育園入園待機乳児保育室開室
- 5月17日(金) 育児・介護支援事業ワーキンググループ会議
- 7月19日(金) 育児・介護支援事業ワーキンググループ会議
- 9月6日(金) 育児・介護支援事業ワーキンググループ会議
- 9月27日(金) 保活情報交換会開催
- 11月11日(月) 育児・介護支援事業ワーキンググループ会議
- 12月10日(火) 保育室利用者懇談会を開催
- 1月29日(水) 育児・介護支援事業ワーキンググループ会議

## 京都大学男女共同参画推進センター 2019年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」利用案内

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生、研究者の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けます。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。運営については、民間企業に委託し、大学が一部費用を負担して実施します。

### ◇保育施設の概要

施設の名称: 京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室

施設の所在地: 京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター内

受入定員: 4月～5月: 3名、6月～8月: 6名、9月～翌3月: 18名

### ◇保育の概要

開室期間: 2019年4月3日から2020年3月31日

開室日: 月曜日～金曜日(国民の祝日に関する法律に定める休日、大学の創立記念日、大学が定める夏季・冬季休業期間を除きます。また、京都大学男女共同参画推進センター長がやむを得ない事情により必要と認めるときは、臨時に休室することがあります。)

開室時間: 9時～18時

時間外保育は、8時～9時及び18時～20時までとし、別途利用料が必要です。

対象乳児: 入室時生後9週目～平成30年3月末時点で15ヶ月未満の健康な乳児(15カ月になる月の前月まで利用できます。)

運営体制: 運営を保育業者に委託します。

### ◇利用条件

利用資格: 京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員(週30時間以上勤務、学術振興会特別研究員を含む)、医員(週31時間以上勤務)

開室期間	2019年4月3日(水)～2020年3月31日(火)
開室日時	月曜日～金曜日 午前9時～午後6時 (時間外保育は、午前8時～9時/午後6時～8時)
保育場所	京都大学男女共同参画推進センター
利用資格	京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員 (週30時間以上勤務、学術振興会特別研究員を含む)、医員 (週31時間以上勤務)
対象乳児	生後9週目～15ヶ月未満 (入室時) の健康な乳児
定員	4月～5月: 3名、6月～8月: 6名、9月～翌3月: 18名
※事前登録の早い方が優先されます。ぜひお早めにご相談ください。	
詳細は男女共同参画推進センターのホームページで! <a href="http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/index.php">http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/index.php</a>	

### ◇利用料金(税込、乳児1人あたり):

週5日利用: 50,000円/月、学生 40,000円/月

週4日利用: 44,000円/月、学生 35,000円/月

週3日利用: 35,000円/月、学生 28,000円/月

週2日利用: 25,000円/月、学生 20,000円/月

※1) 週4日、週3日、週2日の利用は、あらかじめ曜日を指定して、利用するものとします。

※2) 月の途中の入・退室は日割り(1日 2,500円/学生 2,000円(税込))計算も可能です。

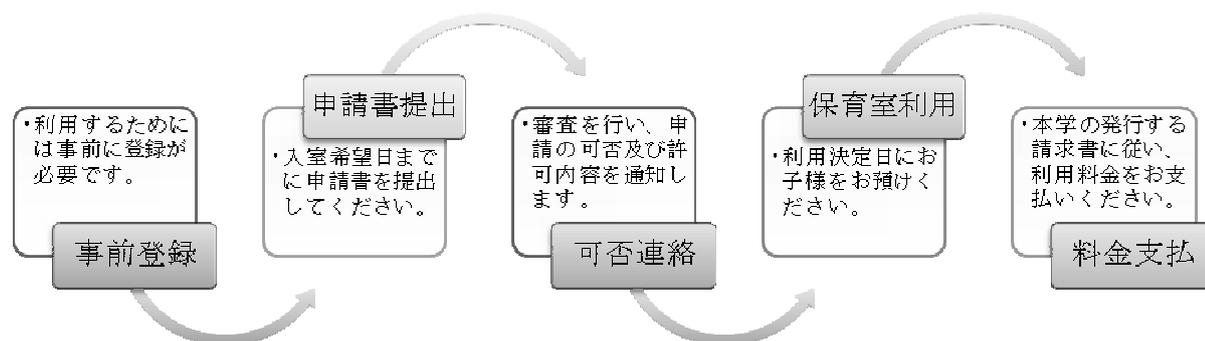
※3) 時間外保育料金は、30分 1,000円/学生 800円(税込、乳児1人あたり)です。

※4) 紙おむつ、ミルク、おやつ、食事等は利用料金に含まれませんので保護者が持参してください。

※5) 双子等の複数の乳児が利用する場合の利用料金は、乳児1人当たりについて、所定の利用料金に80/100を乗じた額とします。

入室申込: 1ヶ月単位での申込みとします。但し、入・退室の月はこの限りではありません。

## ◇利用方法



### 1. 事前登録

利用希望の方は、別紙 1「事前登録票」に必要事項を記入のうえ、事前登録を行ってください。事前登録票は、ホームページ (<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>) からダウンロードし、メールで送付することもできます。

送付先:京都市左京区吉田橋町  
京都大学男女共同参画推進センター保育室利用係  
メールアドレス:w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

(注) 定員を超えることが予想される場合は、先に事前登録した方の利用が優先されます。

### 2. 保育室利用申請書提出

原則として、入室希望日の 1 ヶ月前までに、別紙 2「利用申請書」・別紙 4「健康・身体状況伺い書」を提出してください。送付先・方法は事前登録と同様です。ただし、特別な事由のある場合は、事前登録票と合わせて、入室希望日の 1 ヶ月以内の提出も受け付けます。なお、申請事項に変更が生じた場合は、別紙 3「利用変更申請書」に変更内容を記載し提出してください。

なお、保育室入室までに自治体が発行する利用不可通知の控えを提出する必要があります。

### 3. 申請結果通知書の交付

受入の可否については書類審査を行って決定し、男女共同参画推進センターから申請者に「申請結果通知書」によりお知らせします。

### 4. 保育室の利用

保育室の利用については、「保育室利用の手引き」及び「京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室利用規程」を遵守し、利用してください。

### 5. 料金の支払い

利用者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。

\* 利用登録・申請において得た個人に関わる各種情報は、保育室の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

### 別紙一覧(省略)

別紙 1:「保育園入園待機乳児保育室」利用の事前登録票

別紙 2:「保育園入園待機乳児保育室」利用申請書

別紙 3:「保育園入園待機乳児保育室」利用変更申請書

別紙 4:「保育園入園待機乳児保育室」健康・身体状況伺い書

■保護者懇談会(2019年12月10日)



「保育園入園待機乳児のための保育室」の利用者を対象に保護者懇談会を行いました。育児・介護支援事業WG主査 矢野孝次先生の司会進行で、12名の参加者が一緒に昼食を食べながら、子どもたちの保育室での姿をスライドで見たり、保育士さんから日々の様子や、成長の過程を教えてもらったりなどして、交流を深めました。



## 待機乳児保育室 利用者アンケート（2018年度分 回答者：17名）

### ・どうやってこの待機乳児保育室を知りましたか（複数回答あり）

センターのHPを見て：6名

知人の紹介：5名

ポスターを見て：6名

以前利用したことがある：1名

### ・翌4月以降の状況

認可保育園・認定こども園を利用：15名

小規模保育事業所を利用：2名

### ・月齢制限のため、年度途中で退室された利用者の方対象（2名）

#### 3月末までの状況

自宅育児(次が決まらなかったため)：1名

認可保育園：1名

### ・利用者の声

・生後間もない乳児期から預けることに少し後ろめたさや不安がありましたが、愛情いっぱい育てていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

・大人数の認可保育園などはまた違ったアットホームな雰囲気です。預かっただき、保育士数も手厚く、お陰様で安心して復帰し研究を進めることができました。毎日の荷物が少ないことや、わりと柔軟な対応をしていただけたのも有難かったです。日光不足(?)ではないかと思われるところだけが、少し気になりました。数ヶ月間でしたが本当にお世話になり、ありがとうございました。

・一人目の子供で、初めての保育園で、初めは親も寂しいやら心配やらでしたが、慣らし保育もなしでも大丈夫ですよ、ととても柔軟に対応してくださり、仕事復帰に当たりとても助かりました。朝先生方にニコリする子供をみてとても安心して仕事へ行けましたし、何より愛情を持ってお世話して頂いて、この保育室に出会えてよかったと感じておりました。ありがとうございました。

・乳児室のスタッフの皆様がとても優しく、娘がのびのびと過ごすことができ感謝の思いしかありません。毎日書いてくださるノートのコメントを読むのが楽しみでした。色々ありがとうございました。

・保育室の先生方はとても温かく見守ってくださり子どもものびのびと過ごせていたので安心して預けることができました。ありがとうございました。

・いつも、明るく温かく保育して頂いて安心して仕事に復帰できました。息子は人見知りが始まっているのですが、保育室での生活はすっかり馴染んで楽しんでいました。離乳食でもすっかりお世話になり、食べるのが大好きになってくれました。また、新米母の忘れ物や遅刻にも温かくサポートして下さり、復帰間もない母にとって保育室での時間はちょっと肩の力が抜ける大切なひと時でした。入り口のお花もいつも綺麗で大好きでした。

・4月から10月まで、息子が大変お世話になりました。一人っきりのときからずっと一緒にいてくださった田中先生、兵庫先生を始め先生方、センターの皆様、本当にどうもありがとうございます。息子と時間をすごしつつ、ほとんどブランクなく研究が続けられたのは保育室のおかげです。心から感謝しております。保育室で教えてもらったコップ遊びは今でも好きで、叩くだけだったのが、今では積んだり、おままごとをしたり、アレンジして遊んでいます。息子は新しい保育園で、最初の数日は泣いたのですが、それからは楽しそうに、今ではベビーカーで歌を歌いながら登園しています。遅ればせながらあるき出し、相変わらず毎食バナナを要求しています。

年度途中でも年齢で途中退所がないといけないことは、保育室の制度としては大きな問題だと思います。4月入所に比べて圧倒的に難しく、一律で区切るのは実態に則さないと思います。一方、大きな保育園に比べて、大きい子と小さい子が一緒に部屋で過ごすことの難しさは理解できました。

ですので、研究者や大学職員の支援という点では、年度途中で保育園を探すサポートをしていただけたらと思います。途中で退所して、次が見つからない子供は数としては多くないかもしれませんが、途中で出なければならぬから申し込まない家庭も多いはずで、年齢で退所した子供の数が、保育室需要の実態を反映しているかは自明ではありません。年齢で退所せざるを得ない家庭への、一時保育可能な保育園の案内や、ベビーシッターの追加的経済補助（現行のは限定的）などを検討していただけないでしょうか。また、保育園の入所は、保育園の事情で決まった月でないといけないことも多く、うちのように1ヶ月から数ヶ月の空白期間ができる場合も多いと思います。保育園が決まらない場合に限り、3ヶ月までの延長を認める、などの例外的措置が必要だと思います。たかだか1ヶ月、3ヶ月でも、研究活動や大学で仕事を続ける上での大きな助けになります。今後、多くの女性研究者が京大で活躍するためにも、実態に即した制度の変更を期待しています。

・失礼ながら、保育園までの場つなぎと考えてあまり期待していなかったのですが、節分やひな祭りの行事の際も、牛乳パックでいろいろ作ってくださり、保育園にも負けない本格的な対応に非常に驚き、また感謝しております。

・利用開始が人見知りの時期と重なり不安でしたが、保育士の方のおかげで思ったよりも早く慣れ、楽しく過ごせているようでした。職場から近く授乳に行っていましたが、歌や絵本読みなどいつも楽しい雰囲気が感じられました。また、ストローやコップの練習も手伝って

いただき、毎日状況を細かく教えて下さって安心できました。認可保育園への途中入所は難しく、学内のこのような施設を利用でき大変助かりました。ありがとうございました。

・お昼や帰宅前の授乳など柔軟に対応していただきありがとうございました。慣れないことも多くとても助かりました。

・12月から3月まで4ヶ月間利用させて頂きました。子供は保育室で遊ぶのが大好きなようで、保育室につくとニコニコになってうれしそうでした。生活のリズムも整い、沢山のおもちゃと広いスペースで遊べるのがとても良かったです。保育士の先生方も沢山いてくださったので安心でした。お世話になりました。有難うございました。

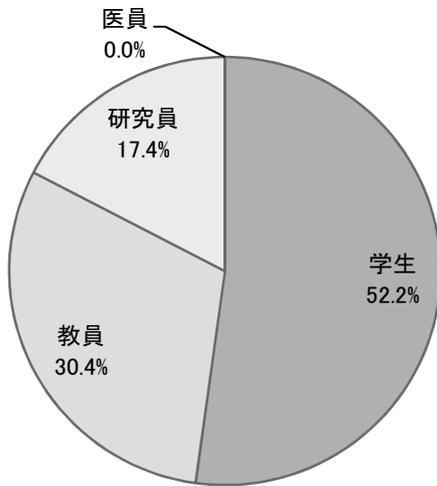
・第1子の時は布団の運搬で苦労した記憶がありましたが、第2子を預けさせて頂いた際は毎週の布団返却が無く、非常に助かりました。第1子の保育園の荷物も含め、毎日子供の荷物が多いため、ご配慮頂き、大変ありがたかったです。

保育室の様子はいつも明るく、楽しそうで、安全に気を配って頂きながら丁寧に保育頂けていることに日々感謝しておりました。授乳や離乳食といった細々とした要望にもご対応いただき、とても快適に利用させて頂くことができました。大変お世話になり、ありがとうございました。

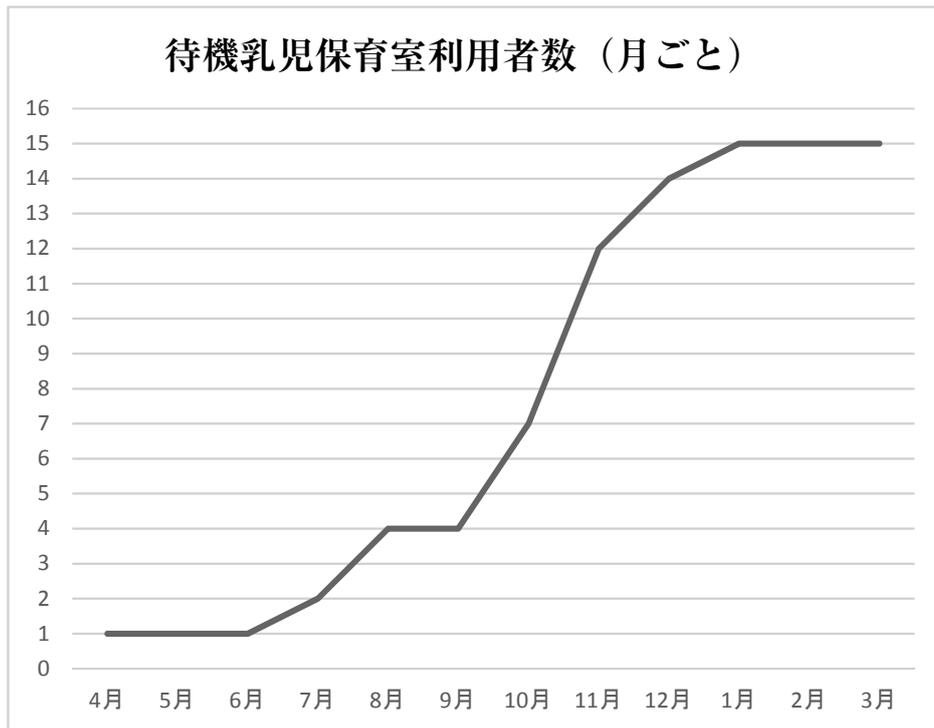
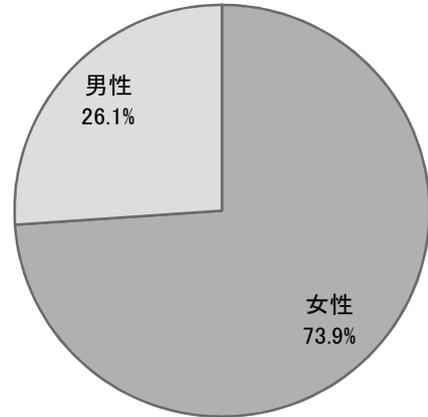
・当初は妻の病気が利用理由の主なところだったのですが、最近では妻も仕事を始めることができるようになりました。娘を預かっていただけたおかげで家庭が安定したことに心から感謝しています。

## 2019 年度待機乳児保育室利用実績

### 身分別集計



### 性別集計



## おむかえ保育

### ■利用案内

決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない…などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を開設します。この保育は、研究等仕事の都合で子どもを保育機関に迎えに行けない保護者に代わり、保育者が子どもを迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。運営については、保育業者に委託して実施します。ご利用を希望される方は、下記の内容を熟読のうえ、お申し込みください。

### ◇利用条件

利用資格:

京都大学に所属する学生、常勤の教職員、研究員(週30時間以上勤務日本学術振興会特別研究員を含む)、医員(週31時間以上勤務)

保育対象:

生後2カ月から小学3年生までの利用資格者の子ども

利用定員:

子ども5人程度(兄弟、年齢構成により異なる場合がある)

利用料金:

①保育料金 1,250円(税抜)/30分～1,550円(税抜)/30分(時間帯により異なる)

\* 子ども1人についての料金です。

\* 利用は2時間以上、30分単位で受け付けます。

\* 学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。

②その他利用手数料(状況により異なる)

※交通費・夕食等は別途実費が必要です。

※詳細については別紙3「おむかえ保育利用料金表」をご覧ください。

#### 1. 事前登録(無料)

別紙1「おむかえ保育事前登録票」に必要事項を記入のうえ、利用希望日の2日前の15時までに事前登録を行ってください。登録事項に変更が生じた場合は、再提出してください。

#### 2. 利用方法

##### (1)利用申込(FAX)

利用希望日の2日前の15時までに、別紙2「おむかえ保育申込票」を、センターにメールかFAX(075-753-2436)にて申込みをしてください。

事前登録票を2日前までに提出済みで、特別な事由のある場合は、利用希望当日の15時まで申込を受付けます。ただし、利用希望当日の申込みの場合は、保育者手配の都合によりご希望に添えない場合がありますのであらかじめご了承ください。



おむかえ  
に行って

男女共同参画推進  
センターで保育します

子どもを保育機関に迎えに行くことのできない研究者に代わって、センターが子どもを迎えに行き、センターの保育室にて保育を行います。

利用日時: 月曜日から金曜日 午後5時から10時  
利用資格: 本学の学生、常勤の教職員、研究員、医員  
利用定員: 生後2ヶ月目～小学3年生までの子ども(5名まで)

登録と申込が必要です。(有料・学部学生・院生は半額補助があります。)

詳細は、男女共同参画推進センターのホームページを参照してください。  
(URL) <http://www.ccm.kyoto-u.ac.jp/> (TEL) 753-2437

おむかえ保育

##### (2)利用申込受付連絡

別紙2の申込票の受信を確認後、センターから、指定された連絡先に受付確認の連絡をします。

##### (3)利用可否連絡

(保育利用が可能な場合)保育者については決定次第、委託企業から連絡します。

保育者決定後に申し出があった場合は、事前に保育者の写真を渡すことが出来ます。

##### (4)保育者との打合せ

保育者手配が可能な場合、利用前日(当日申込の場合は当日)に保育者から保護者に電話がありますので、迎えに行く保育機関の場所、方法、夕食の有無、実費支払いの金額等について、トラブルにならないよう詳細に打ち合わせを行ってください。

子どもの夕食は、保護者が用意するか、保育者に購入を希望する場合は、コンビニエンスストア等で購入できるもの(おにぎり、パン等簡易なものに限る)を指定してください。

乳児のミルク、離乳食(レトルト食品など)、哺乳瓶、おむつ、着替え等は保護者が用意してください。

#### (5)利用

利用にあたっては、「京都大学男女共同参画推進センターおむかえ保育利用規程」を遵守してください。

お子様が当日熱のある場合や、伝染病疾病の疑いのある場合は利用できません。この場合、キャンセル料が発生しますので、あらかじめご了承ください。

### 3. 料金の支払い

保護者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。振込手数料は、保護者負担となります。

利用料金①、②に掲げる以外の料金(交通費、夕食費等)については、子どもをセンターに迎えに行った際、実費額を保育者へお支払いください。

#### ◇保育について

保育場所：京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター保育室

#### ◇補償制度について

万一の事故の場合には、施設に起因する損害は国立大学法人総合損害保険、業務に起因する損害は保育委託業者の賠償責任保険が適用されます。

○事前登録票、申込票は、ホームページ

(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>)からダウンロードできます。

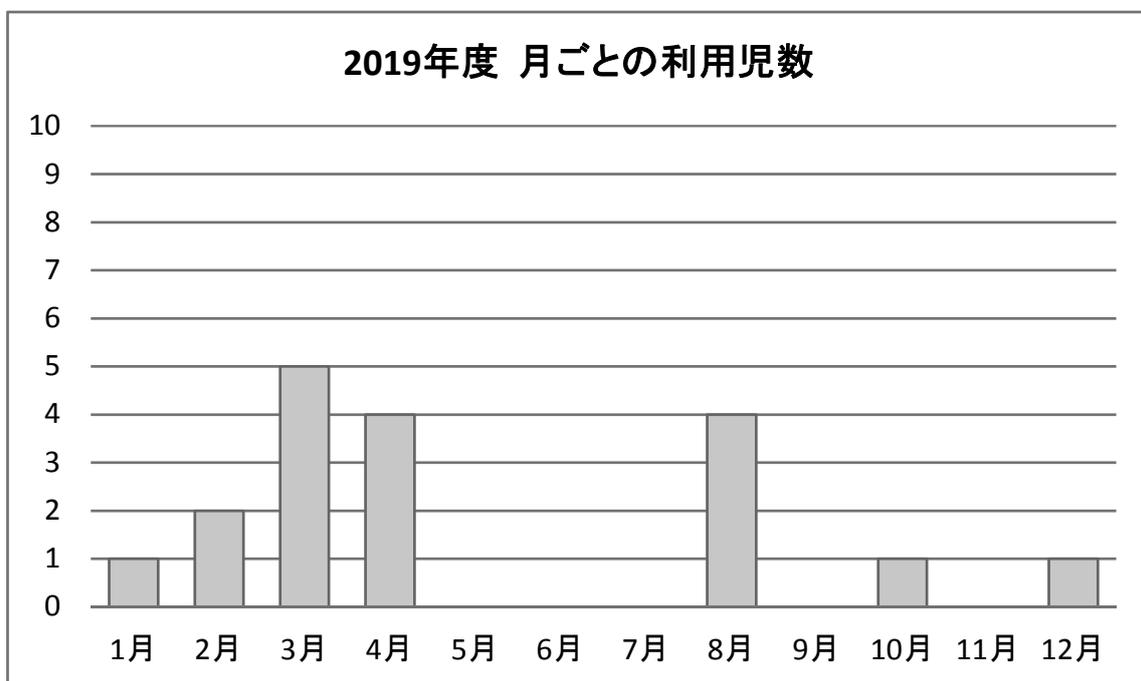
○事前登録及び利用申込において得た個人に関わる各種情報は、おむかえ保育の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

別紙一覧(省略)

別紙1:「おむかえ保育事前登録票」

別紙2:「おむかえ保育申込票」

別紙3:「おむかえ保育利用料金表」



## ベビーシッター利用育児支援

京都大学男女共同参画推進本部では、ベビーシッター利用育児支援を行っています。

京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者（以下「ベビーシッター事業者」という。）が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ①ベビーシッター派遣事業
- ②双生児等多胎児家庭育児支援事業

### 【注意事項】

○割引券発行枚数の上限は、1家庭につき①：280枚、②：2枚まで。

※使用される分だけ申請頂きますよう、お願いいたします。

※予算状況等により、大学全体の発券枚数を制限させて頂く場合がございます。

### ○最初の利用方法

※発券には学内手続き上、お時間を頂きますので余裕をもって申請してください。

※申請は年度ごとになりますので、昨年度ご利用されていた方も年度ごとに新たに申請が必要となります。

- 1 ベビーシッター事業者（webサイト）もしくは別紙に掲載されている、「割引券取扱事業者」から選んだベビーシッター事業者と事前に請負契約をする。
- 2 下記の必要書類を人事課職員掛まで直接お持ちいただくか、学内便等でお送りください。

- 1) ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書
- 2) ベビーシッター事業者との利用契約書（請負契約書）の写し

※以下のことが明記されているかご確認ください。

- ・ベビーシッター事業者の住所・名称・代表者氏名
- ・利用者の住所・氏名
- ・サービス内容・料金
- ・その他必要な事項

※利用契約書（請負契約書）の契約者は、1)ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書に記載の申請者と同じであることが必要です。

3) その他必要書類

配偶者の在職証明書等（配偶者が本学教職員の場合にはその旨を 1)ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書の備考欄にご記入頂ければ、証明書の提出は不要です。）子供の年齢・人数がわかる書類（例：母子手帳や保険証の写し等）（申請者が扶養していることを、別途大学に届け出ている場合にはその旨を 1)ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書の備考欄にご記入頂ければ、書類の提出は不要です。）

- 3 学内便等で割引券が届きましたら、利用者記入欄に記入の上、利用時にベビーシッターに割引券を渡してください。  
ベビーシッターが「報告用半券」を返却しますので、必ず受け取ってください。
- 4 割引券利用後の「報告用半券」は、翌月 5 日までに総務部人事課職員掛へ学内便等で提出してください。

※本学の週休日や休日に利用される場合はご注意ください。

本学の用務のための就労であることを確認させていただきますので、別途資料（旅行伺の写し等）をご用意の上、報告用半券とともに、ご提出願います。

○2 回目以降の利用方法

- 1 割引券の発行依頼を E メールにて、人事課職員掛までお送りください。

-----  
ベビーシッター育児支援割引券発行依頼（2 回目以降）

所属・職名：氏 名：

利用月：令和 年 月 希望枚数： 枚

-----

※本学の週休日や休日に利用される場合は、ご注意ください。

- 2 割引券が届いた以降は、最初の利用方法 3、4 と同じです。

○利用するベビーシッター事業者を変更した場合

ベビーシッター事業者変更届を、E メールに添付して、人事課職員掛までお送りください。なお、変更届の提出と割引券の発行依頼を同時に行う場合は、変更届に発行希望枚数等を記載してください。

○制度自体に関しましては、公益社団法人全国保育サービス協会 HP をご覧ください。

担当：男女共同参画推進本部（総務部人事課職員掛）

（内）本部 16 2059

E-mail [g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

### Ⅲ 「病児保育」事業

# 病児保育事業ワーキンググループ活動報告

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」(以下、病児保育室)は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供(生後6ヶ月から小学校6年生※2019年4月から年齢上限引き上げ)を対象とし、急な疾病により保育園／幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っています。事前登録制による運用で、登録者数はのべ1206名、うち令和元年度の新規登録者93名(令和元年12月末現在)と毎年100名前後の新たな登録があります。定員は5名(感染隔離室1名を含む)であり、令和元年度は751名の利用がありました(令和元年12月末現在)。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日が続くこともしばしばみられますが、利用者からは概ね良いご意見をいただいています。また、今年度も京大病院オープンホスピタルでのポスター掲示やホームページ等を通じての広報活動も継続して行いました。



定期的な利用者へのアンケート調査や要望を受けて、利用基準についての見直しを随時行っており、利用者からはより利用しやすくなったという声をいただいています。感染対策上困難な点もありますが、京都大学医学部附属病院感染制御部の協力の元、京都大学教職員・学生が育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要があると考えています。

病児保育事業WG主査 丹羽 房子

## ■2019年度活動記録

- 9月～ 全国ダイバーシティネットワークHPで、病児保育室の取り組みを紹介
- 11月2日(土) 京大病院オープンホスピタルにポスター参加

## 病児保育室【こもも】

病児保育室は、2006年2月に附属病院内に開室しました。

2007年に、病児保育室登録者に対して利用者の声を聞くためのアンケート調査を行い、その結果出された意見に基づいて、2008年より、学生割引(半額)を導入、病児保育相談窓口の開設、お昼の食事メニューを増やす、ホームページに病児保育室のスタッフの紹介や保育室の紹介を写真入りで行うといった改善を行ってきました。

また、2009年2月には、感染隔離室の設置について、アンケートによる学内のニーズ調査を行い、2009年12月に病児保育室内に、感染隔離室を設置しました。

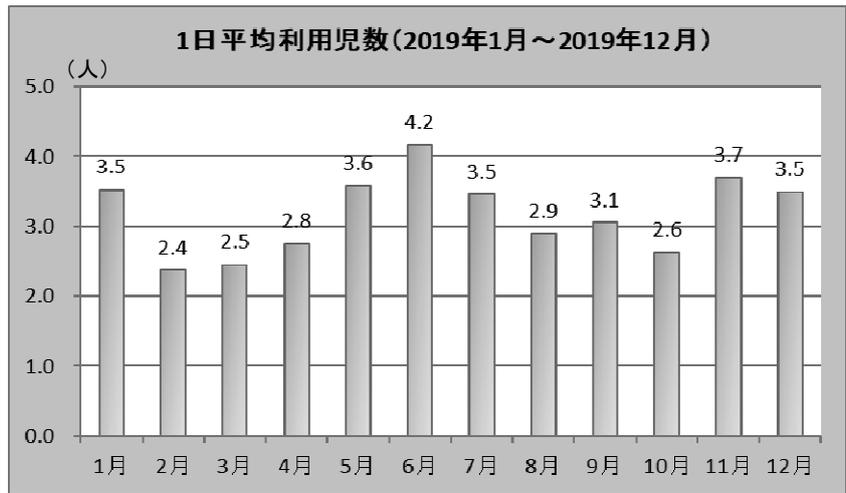
2016年には更に保育サービスを充実させるため、京都大学構成員にアンケートを行い、利用開始時間を7時30分からに変更し、昨年4月からは、受入対象年齢を「小学校3年生」より「小学校6年生」へと引き上げました。

### ■病児保育室利用状況

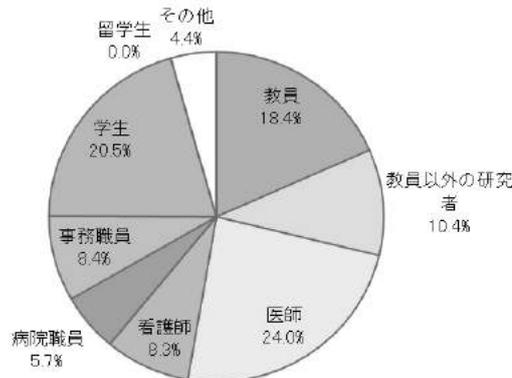
利用実績(2019年1月～2019年12月)

#### ①利用者数

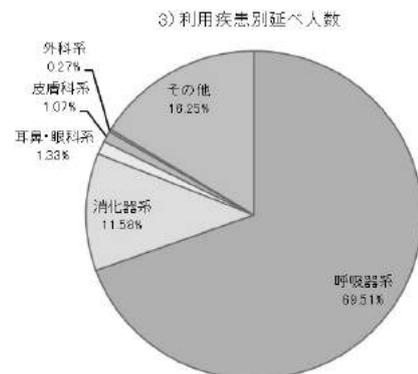
月	人数	うち隔離室利用者
1月	67	14
2月	45	16
3月	49	12
4月	55	5
5月	68	4
6月	79	1
7月	76	3
8月	55	1
9月	58	2
10月	55	3
11月	74	4
12月	70	3



#### ②利用者の職種別分布



#### ③利用疾患別延べ人数





# 京大病児保育室 こもも

★事前診察が必要。京大病院では 7 時から  
救急外来で受診できます。

★熱が 38.5 度以上でも利用できるよ  
うになりました。

★感染隔離室があります。

★病児保育室では、医師の観察が  
あります。

■ 開室日時：月曜日～金曜日 午前 7 時 30 分～午後 7 時

■ 場 所：医学部附属病院 外来棟 5 階

■ 利用資格：京都大学の教職員および学生の子どもで、生後 6 ヶ月から  
小学校 6 年生までの病中・病後の子ども（伝染性疾患を除く）

■ 料 金：1 時間 500 円（昼食・おやつ代込）

※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します

■ 定 員：5 名

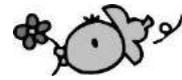
利用方法など、詳細は男女共同参画推進センターのホームページで！

↓  
[http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji\\_kaigo/byoujihoiku/index.html](http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo/byoujihoiku/index.html)





## 4月から利用対象年齢が変更となります



まだ朝晩は少し肌寒いですが、暖かく気持ちのよいぽかぽか陽気と共に、こももでも今年度が始まりしました。

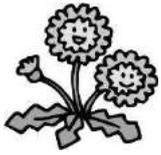
今まで利用対象年齢が、生後6ヶ月から小学校3年生まででしたが、この4月より、生後6ヶ月から小学校6年生まで利用できるようになります。

何かご不明な点がございましたらいつでもお問い合わせください。

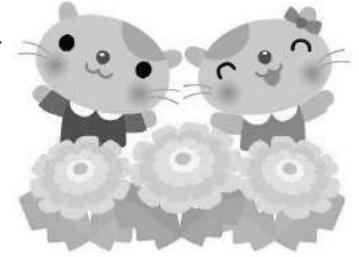
病児保育室 こもも 075-751-3090



2019.4.1



## おもちゃ紹介 23 ～感染隔離室について～



4月になりました。

入園、入学、進級おめでとうございます！！

桜の花も満開でとてもきれいです。

病児保育室は4月から小学校6年生まで利用できることになりました！

小学校高学年のご利用をお待ちしております。

今年度も病児保育室「こもも」をよろしくお願ひします。

今回は「感染隔離室」のお話です。

インフルエンザの流行時には、毎日フル稼働していました。

定員1名ですが同じ病気の際は2～3名で利用しています。保育室より狭く、廊下側にあるのでちょっと暗いかもしれませんが、色々工夫をして楽しく過ごせるよう考えています。おもちゃも保育室にあるものをどれでも使ってもらえます。使用した後はそれぞれ拭いて消毒して返しています。



手洗い、トイレもあります。

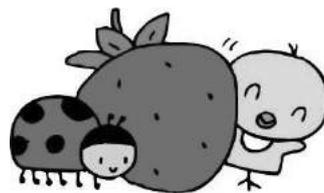
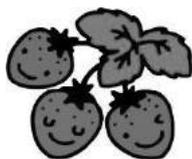


トトロのイラストを配置して楽しい感じに。  
こどもたちは「トトロのおへや」と言うこともあります。



お互いに病気をうつしあわないように「隔離室で…」とお願いすることもあるかと思いますが、その時にはご理解ご協力をお願いします。

## おもちゃ紹介 24 ～くみくみスロープ～



長いGWが終わりました。暑かったり、寒かったり気温の変動が激しい日が続きました。体調を崩した子も多かったのでは。

5月は例年、4月に入園した乳児の利用が多い傾向にあります。初めての集団生活でいろいろな病気をもらいやすいのでしょうか。



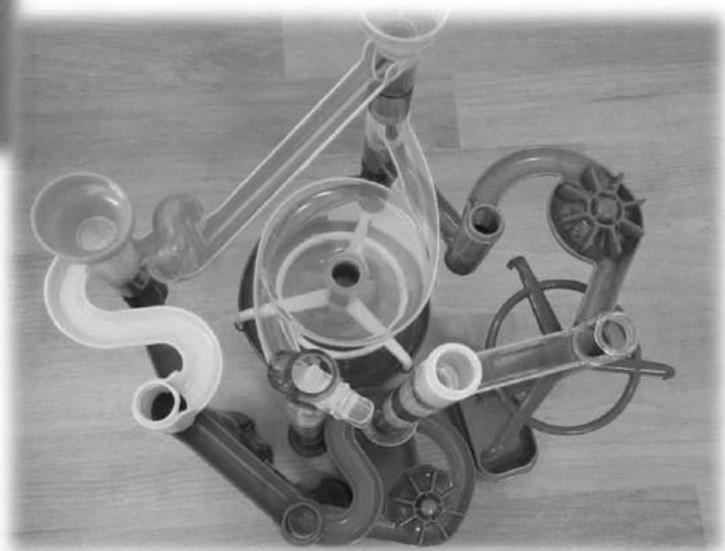
さて今回は前にも紹介した「くみくみスロープ」という、組み立てて玉を転がして遊ぶおもちゃです。

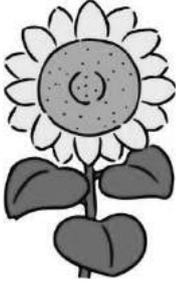
今日は4年生と4歳の兄弟が来てくれてこれで遊びました。利用者の年齢制限が4月から「6年生まで」になったので初の4年生利用です！

基本の作り方が書いてあるパンフレットがあるので、私たちはそれを見ながら作ったりするのですが、4年生のお兄ちゃんはいろいろ考えて面白い組み合わせをしてくれました。玉が途中で落ちたり跳んだり…。うーん、発想が柔軟です！

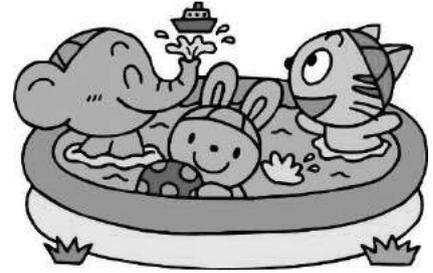
その後、1歳の子が上手に玉を転がして遊んでいました。

1歳児から小学生まで年齢に応じて楽しく遊べるおもちゃです。





## おもちゃ紹介 25 ～ラキュー～



6月から7月にかけて「手足口病」が全国的に大流行していました。病児保育室でも手足口病で来室する子が多く、定員いっぱいの日が続いていました。

7月終わり頃になり手足口病もひと段落し、落ち着いた日が続いています。

利用希望者が多い時には、定員超過でお断りすることもあり、入室できなかった方にはご迷惑をおかけしました。そういう時でも利用希望者が多い日と少ない日があって、お断りする日もあれば定員に満たない日もあり、なかなかうまくいかないものです…。



さて、今日はまた「ラキュー」のお話です。ラキューではいろいろな面白いものが作れるのですが、今回、来室した女の子が「ばね」のように伸びる虹色のリングを作ってくれました。丸い形を繋げるとこんなにきれいになりました！！



「ラキュー」は3歳くらいから小学生まで、その年齢に応じて色々なものが作れます。

何時間も頑張って大作を作ってくれる子もいておもしろいです。



## おもちゃ紹介 26 ～はたらくるま～



8月は暑い日が続きましたが、後半にかけて雨の日が多く朝晩も少し涼しくなりました。今年の夏はプールや海に行けるような日が少なかったように思いますが、皆さまはどうお過ごしでしたか。

病児保育室ではRSウイルスの感染をよく聞くようになりました。「保育園でも流行しています。」というような声も聞きます。手洗いうがいをしっかりと感染予防に努めてくださいね。



今日は「はたらくるま」のお話です。病児保育室は大通りに面しています。ここは病院なので救急車がよく通ります。「ピーポーピーポー」と救急車の音が聞こえるとみんな「それっ」とばかりに窓辺に集まって救急車を見送ります。間に合わずに見逃すことも多いのですが…。

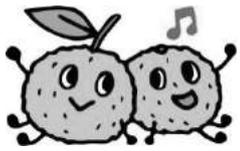
「きゅうきゅうしゃみえたねー」

「きゅうきゅうしゃ、行っちゃったねー」と言い合うのが気分転換にもなり、とても助かっています。泣いていた子も泣き止んでいたります。

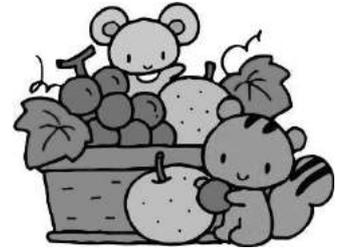


こどもたちは「はたらくるま」が大好きです。保育室には救急車、消防車、パトカーなど車のおもちゃがありますがみんな喜んで遊んでいます。





## おもちゃ紹介 27 ～ねんどあそび～



10月になりました。1, 2人の利用の日が続いたり…かと思うとキャンセル待ちが多い日があったり、少なかったり多かったりの日が続いています。



先日来てくれた4歳の女の子が「おこめねんど」で素敵な人形を作ってくれました。

「おこめねんど」はきれいな色のついたお米素材のねんどです。

色々なものを作ってくれますが置いておくとすぐ硬くなるので作ったものは持って帰ってもらっています。

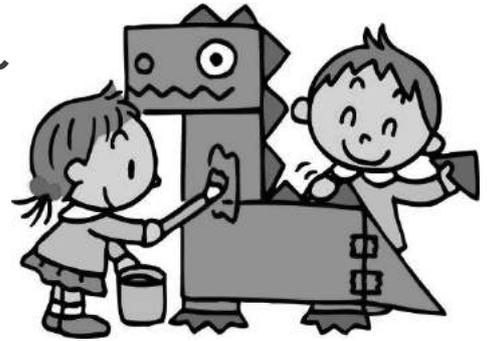
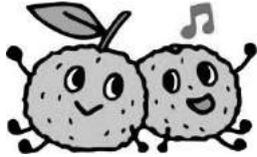
このお人形は見本があったわけではなく自分で考えて作ってくれました。長い髪の毛がとても素敵！！

粘土遊びは人気で、みんなどんどん作ってくれます。おとなたちは見本がないと作れないのに、子どもたちは好きなようにどんどん作っていき、発想の豊かさに驚かされます。

今回、恐竜がつかれる型がふえたので、いろんな恐竜が増えるのが楽しみです。



## おもちゃ紹介 28 ～ねんどあそび 2～



病児保育室は落ち着いた日が続いています。

前回、紹介した「おこめねんど」です。

来室した3歳の男の子が恐竜の型でいろんな恐竜をつくってくれました。



こんな型にねんどを詰めていきます。  
上と下に詰めたら重ねてぎゅっと力を入れて合わせます。

型を開けて恐竜を取り出し、いらないところをへらで除きます。

### 恐竜の出来上がり～☆



案外簡単に型からするんと外せます。  
赤や緑の粘土でピカピカの恐竜が出来上がりました！！

出来た恐竜をうれしそうに持って帰ってくれましたよ。





## こももでのインフルエンザの利用基準



インフルエンザが流行してきました。

今年もこももでは 12 月 9 日よりインフルエンザ対策を行うことになりました。  
今回はこももでの、インフルエンザ対策を紹介します。

病児保育室内での感染拡大及び附属病院内での院内感染の防止のため、インフルエンザウイルス流行期には、38.5℃以上の発熱児は原則としてインフルエンザウイルス抗原の迅速検査を行い、陰性と判定された方のみ病児保育室でお預かりすることとします。

ただし、発症から 12 時間程度は迅速検査の信頼性が低いため、インフルエンザウイルス流行期の病児保育室の入室基準について以下のように定めています。

### ○ BT38.5℃以上の発熱時

発熱した時刻より、12 時間以上経過してからインフルエンザウイルス抗原検査施行。

陽性→病児保育室利用不可。(発症後の利用基準は下記)



陰性→病児保育室利用可能。

### ○ 病児保育室で BT38.5℃以上に上昇した場合、早めのお迎えを依頼。

お迎えまで隔離室が空いていれば隔離室に移動して保育可能。

(家族・兄弟にインフルエンザ罹患者がいる場合は利用不可、またはお迎え)

12 時間以上経過してから、インフルエンザウイルス抗原検査施行。

結果は、上記に準ずる。

### ○ インフルエンザ発症後は、解熱後 (BT37℃台) 24 時間経過すれば隔離室で保育可能。

発症後 5 日経過しかつ解熱後 3 日 (学童は 2 日) 経過すれば通常保育室で保育可能。それまでは隔離室で保育。(学校感染症に準ずる)



#### ◇ 隔離室優先順位について ◇

利用者の増加により、感染隔離室が既に空いていない状況があるかもしれません。

その場合は、入室時に 38.5℃以上の発熱がある場合や、入室中の発熱の際には利用できないか、お迎えに来て頂く場合がありますのでご了承ください。

120周年  
**京大病院**  
**オープンホスピタル**  
 OPEN HOSPITAL 2019

伝えたい、  
 医療を支える  
 わたしたちの力



**11/2** 土  
**2019**

10:00-16:00

場所 **当院外来棟  
 アトリウムホール 他**



国立大学法人  
**京都大学医学部附属病院**

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54

TEL.075-751-3005

<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp>

京大病院 検索

他にも楽しいイベント  
 盛りだくさん!!

**京大病院 寄席** 予約不要

開催時間 14:30-15:30  
 開場 13:30  
 開催場所 臨床第一講堂・第二講堂  
 出演 桂雀三郎 桂小鯛

**就職案内**

見学ツアー  
 ▶ 看護部 (対象:看護学生、当院への就職を希望する看護部)  
 ① 11:00-12:00 ② 13:00-14:00  
 ▶ 放射線部 (対象:診療放射線技師を目指す学生)  
 ① 11:00- ② 13:00-  
 ▶ 地域ネットワーク医療部 (対象:医療ソーシャルワーカーを目指す学生)  
 ① 11:00- ② 13:00-

就職相談コーナーの常設  
 ▶ 看護部 (対象:看護学生、当院への就職を希望する看護部)  
 ▶ 事務部 (対象:病院事務職員を目指す大学生)

業務説明会  
 ▶ 事務部 (対象:病院事務職員を目指す大学生)  
 ① 10:30- ② 12:30-

**パネル展示** 外来棟アトリウムホール

▶ 看護活動、認定・専門看護師の活動 ▶ ボランティアグループの活動  
 ▶ 診療支援部門の取り組み

**体験コーナー** 外来棟アトリウムホール ※整理券制

▶ インボディによるメタボチェック (※) ▶ 筋力テスト:あなたの筋力を測定してみませんか?  
 ▶ VRで診療放射線技師になってみよう (※) ▶ その採血管わしのですか? RFIDを体験してみよう (※)  
 ① 静脈採血 ③ BLS-一次救命救急法 ⑤ ハンドマッサージ/カパーメイク (真生堂)  
 ② エンゼルメイク実演 ④ 手洗いコーナー ⑥ ヘッドマッサージ&アロマ



京大病院を  
 近くするバス **hoop** 片道 約30分

**ミニコンサート** エントランスホール

▶ かるがも♪ あんさんぶる  
 京大職員・学生による混声合唱  
 ① 11:30-12:00  
 ▶ 京大病院職員、他による  
 ホルン&ピアノ演奏  
 ② 13:00-13:30



# 京都大学男女共同参画推進センター 病児保育室 こもも



## 京大病児保育室について

京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行っています。

### 【病児保育室の現在に至るまで】

- 2006年 9月 京都大学 男女共同参画推進センター設立
- 2007年 2月 病児保育室設置
- 2009年 12月 病児保育室に感染隔離室設置

- 保育対象者
- ① 京都大学教職員および学生のお子さま
  - ② 生後6ヶ月から小学校6年生までのお子さま
  - ③ 病中・病後のお子さま(感染症等を除く)

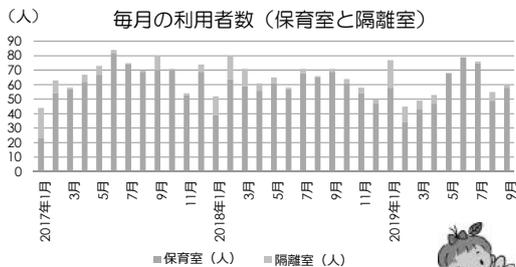
- 定員 5名(隔離室を含む)  
 開室時間 月曜日～金曜日(除外日あり) 7:30～19:00  
 利用手順 入室前に事前診察が必要です。  
 かかりつけ医または京大病院小児科を受診し利用許可が必要です。

病院内への院内感染防止を考慮しながら京大職員や学生の利用者に利用してもらいやすい環境を作るため、病児保育室の担当医師や京大病院ICTとの連携により定期的に利用基準疾患を見直しています。

また、多くの方に利用していただけるように、利用者からの声を受けて様々な見直しや変更を行い利用者数も増えてきていますが、その一方でキャンセル待ちの場合も多く、日々状況に応じて取り組んでいます。キャンセル待ちの増加は、引き続き今後の課題の1つとなっています。

## 隔離室について

病児保育室には、保育室と隔離室があります。隔離室とは、通常の保育室と隔てて1室、フィルター付き陰圧換気空調と上下水道が整備されたお部屋のことで。



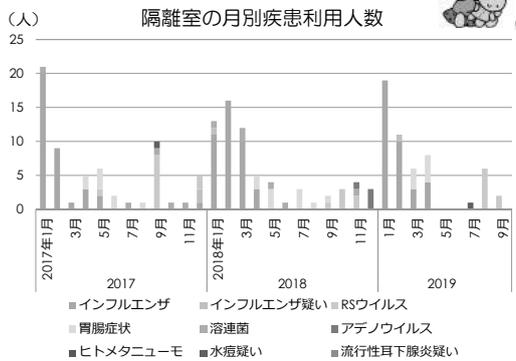
隔離室への利用は、

- ① 伝染性疾患の急性期以外の感染症
- ② 確定診断の付いていない嘔吐下痢や胃腸炎
- ③ 咳や咽頭炎がひどくマスク装着が困難な場合
- ④ 高熱でインフルエンザ疑いがある場合



①の伝染性疾患の急性期以外の感染症として隔離室を利用できる疾患は以下の通りです。

- インフルエンザ感染症: 解熱後24時間が経過した出席停止期間中
- アデノウイルス感染症: 発熱/咽頭炎症状のみ高熱であっても全身状態が落ち着いた結膜炎を伴う一症状消失し解熱後2日まで隔離室  
流行性角結膜炎一利用不可
- 溶連菌感染症: 有効な抗菌薬内服後24時間以内
- マイコプラズマ感染症: マスク着用が困難な場合
- RSウイルス・ヒトメタニューモウイルス感染症: 乳児の利用状況により判断
- 胃腸炎: ノロ・ロタ不明である場合、児の状態及び保育室の状況により判断
- 水痘: すべての水疱が痂皮化すれば利用可
- 麻疹: 発疹を伴う発熱が解熱し3日経過後
- 風疹: 発疹が消失
- 流行性耳下腺炎: 耳下腺腫脹発現後5日経過後



隔離室の利用状況は、1年の中で1～2月が1番多く利用しています。疾患別では、寒い時期に流行するインフルエンザの利用率が1番高く、次いでRS、胃腸炎となっています。以前は、隔離室の利用人数を1人/日としていましたが、同じ疾患2人/日でも利用できるように変更し、多くの児に利用してもらえるようにしています。



## 保育室での遊びについて

☆こんなことをして遊んでいます！



「つくる」遊び…いろいろなものを作って遊びます。

☆お米ねんど…お米素材の粘土です。きれいな色をしていて扱いやすい。

病児保育室では、熱があったり、体がしんどい時に、なるべくお家で過ごすのと同じように、安心してゆったりと遊べるように、心がけています。

乳児さんが大好きなのは、音が出る絵本とアンパンマンの自動販売機。曲に合わせて体を揺らしたり、ジュースの飲み真似をして遊んでいます。



先日来てくれた4歳の女の子が「おこめねんど」でかわいい人形を作ってくれました。

「おこめねんど」はきれいな色で扱いやすいのでみんな色々作ってくれます。置いておくともすぐ硬くなるので作ったものは持って帰ってもらっています。この人形は見本があったわけではなく自分で考えて作ってくれました。長い髪の毛がとても素敵！！



☆LaQ (ラキュー) …三角四角などのパーツでいろいろなものが作れます！



大きい子たちになると、ままごとや買い物ごっこ！アイスクリーム屋さん、パン屋さん、レジ打ちのおもちゃが人気です。また、プラレールを長く繋げて電車を走らせたり、LaQ (ラキュー) やお米のねんどにじっくりと取り組んでいるお友達も多いです。そのほか、ドラえもんのごろくゲームやカードゲームなどで楽しんでいます。



このすごいロボットは1年生の男の子が作ってくれました。ラキューの作り方の本によると、このロボットに使うピースはなんとおよそ700個！新しく円状のパーツが加わったので、腕や胴体が滑らかに動いたり、背中の武器がぐるぐる回ったりします。そのため部品やパーツの接合部がたかさんありましたがひとつずつ手際よく作っていき、手伝わすもりだった私たちは逆に教えてもらうばかりでした…「できた！」と見せてくれた後も、角や肩、背中などにアレンジしてパーツを加え、世界に一つだけのロボットが完成していました！！お迎えの際に、お母さんに写真も撮ってもらっていましたよ。

## IV 「就労支援」事業

## 就労支援事業ワーキンググループ活動報告

本WGの主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の実績は、第1期で応募者 27 名、利用者 14 名、第2期で応募者 25 名、利用者 11 名と、時期により変動はあるものの、ここ数年増加傾向にある。予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。



雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適応した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。

就労支援事業WG主査 喜多 恵子

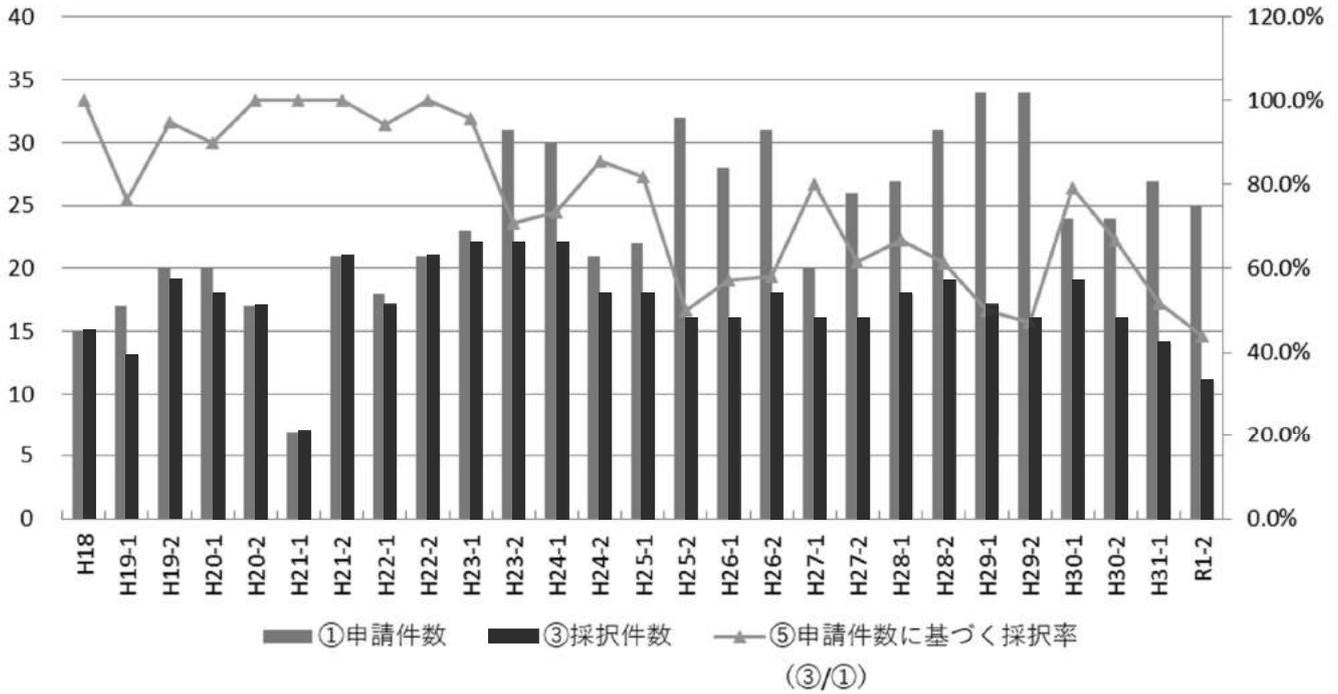
### ■2019 年度活動記録

- |           |                            |
|-----------|----------------------------|
| 5月20日(月)  | 第52回就労支援事業ワーキンググループ会議      |
| 5月24日(金)  | 令和元年度2期 就労支援事業による支援希望者募集開始 |
| 7月29日(月)  | 第53回就労支援事業ワーキンググループ会議      |
| 11月18日(月) | 第54回就労支援事業ワーキンググループ会議      |
| 11月25日(月) | 令和2年度1期 就労支援事業による支援希望者募集開始 |
| 2月13日(木)  | 第55回就労支援事業ワーキンググループ会議      |

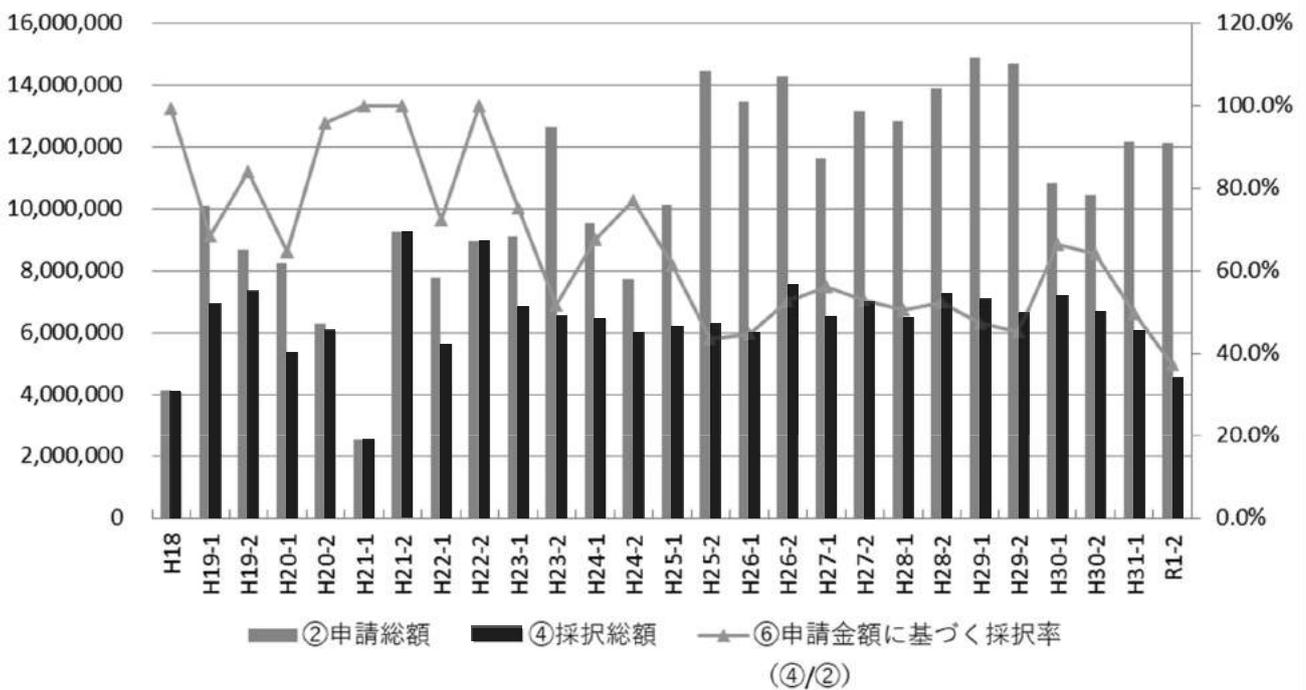
研究・実験補助者雇用制度 利用状況

期 間	①申請件数	②申請総額	③採択件数	④採択総額	⑤申請件数に基づく採択率 (③/①)	⑥申請金額に基づく採択率 (④/②)
H18	15	4,124,400	15	4,100,400	100.0%	99.4%
H19-1	17	10,091,600	13	6,911,800	76.5%	68.5%
H19-2	20	8,683,500	19	7,291,000	95.0%	84.0%
H20-1	20	8,246,400	18	5,321,200	90.0%	64.5%
H20-2	17	6,294,300	17	6,035,100	100.0%	95.9%
H21-1	7	2,505,000	7	2,505,000	100.0%	100.0%
H21-2	21	9,261,000	21	9,261,000	100.0%	100.0%
H22-1	18	7,772,500	17	5,617,500	94.4%	72.3%
H22-2	21	8,932,500	21	8,932,500	100.0%	100.0%
H23-1	23	9,100,000	22	6,837,500	95.7%	75.1%
H23-2	31	12,617,500	22	6,530,000	71.0%	51.8%
H24-1	30	9,545,000	22	6,450,000	73.3%	67.6%
H24-2	21	7,729,000	18	5,957,500	85.7%	77.1%
H25-1	22	10,115,000	18	6,219,400	81.8%	61.5%
H25-2	32	14,440,000	16	6,275,000	50.0%	43.5%
H26-1	28	13,452,500	16	6,002,500	57.1%	44.6%
H26-2	31	14,300,000	18	7,528,750	58.1%	52.6%
H27-1	20	11,600,018	16	6,503,000	80.0%	56.1%
H27-2	26	13,128,998	16	6,931,000	61.5%	52.8%
H28-1	27	12,830,184	18	6,466,000	66.7%	50.4%
H28-2	31	13,896,100	19	7,253,000	61.3%	52.2%
H29-1	34	14,890,586	17	7,051,000	50.0%	47.4%
H29-2	34	14,690,886	16	6,649,000	47.1%	45.3%
H30-1	24	10,841,229	19	7,199,000	79.2%	66.4%
H30-2	24	10,454,112	16	6,682,000	66.7%	63.9%
H31-1	27	12,176,392	14	6,048,000	51.9%	49.7%
R1-2	25	12,119,404	11	4,518,000	44.0%	37.3%

## 研究・実験補助者制度の申請件数等



## 研究・実験補助者制度の申請金額等



## ■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告①

対象者:平成30年度第2期 研究・実験補助者雇用制度利用者16名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率:94%(15名)

### 1.「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

・末梢神経の再生を評価するために、電子顕微鏡で得られた画像から再生神経の形態を数千本計測する必要がありますが、補助者に行ってもらうことで大幅に時間的な余裕が生まれました。その結果、論文の執筆時間を増やすことが可能となりました。子どもの保育園までの送迎が可能となり、子どもと触れ合う時間が確保できております。

・医療社会学では特に日本が抱える医療・保健・病気・健康問題を取り上げ日本社会との関わりを調べるために日本語での文献検索や政府統計・政策からの情報収集が不可欠となります。本制度の利用により日本語を母語とする補助者を一定時間雇用することで、この情報収集作業を効率的に進めることができました。

・サンプルの保存と管理、ライブラリ作製、完成したライブラリの様々な定量・定性解析、次世代シーケンサの操作は、単純作業ですがとても時間がかかります。その作業を補助して貰うことで、本実験およびその準備・解析に時間を割けるようになりました。

・補助者がいない時は、子供の熱で中断せざるを得ないことも多く、また、短い勤務時間内にやるべきことを思うようにこなしていけずストレスが溜まるばかりでした。実験を手伝っていただき、とてもスムーズに進められています。“こまごまとしたやるべきことに追われない時間”をいただき、思考や調べものに時間を割くことができ、新しいアイデアが浮かんできます。

・成体マウスを用いた実験では、サンプル数が多く、時間のかかる作業も多いのですが、補助者と分担することで、着実に研究が進みました。一連の時間のかかる作業を真面目に丁寧に根気強く取り組んでくれ、解析にあたっては自らアイデアを出してくれました。論文のリバイス対応では再校の提出期限が決まっており、要求された沢山の実験を全て一人でを行い解析するのは不可能でしたが、補助者が作業を手伝ってくれたのでなんとか期限内に再校を提出することが出来そうです。

・現在担当している、iPS細胞から分化誘導した骨格筋前駆細胞を製剤化する実験系において、長期培養プロトコールは厳密化されており、決まった日程で培地交換など実施する必要があります。子供の病気や怪我など、自身でコントロールできない突発的な出来事が発生しても、実験補助の方にサポートいただき長期培養を実施することができました。

実験計画を推進し成果を出せたのも「研究・実験補助者雇用制度」を利用することができたためであります。今後もなくては

ならない制度だと思っています。

・研究・実験補助者と協力することで、研究を効率よく継続することができました。子供の急な発熱で早退しなければならない時でも、後を任せて早退できた。

・研究・実験補助者制雇用度で支援を得ることで、大学病院で日常業務を行いながらも、実験を遂行し、大学院生の指導が円滑にできるようになった。これまで睡眠時間や家族との時間を削って研究を行ってきたが、使える時間を睡眠、家族との時間に充てることが可能になった。

・子どもの送り迎えに伴い、長時間の実験を計画できなかったのですが、本制度を通して実験補助者に実験を進めてもらえるようになりました。作業を分担することで、私自身はデータ解析や論文執筆に集中できるようになり、効率が上がりました。また、共同研究先に赴く際なども、学内での実験を中止する必要がなくなったので、様々なことを円滑に進められました。

・この制度を使って、研究に関する事務補佐や実験補助を受けた。これにより、今年度、新しく2つの研究に取り組むことができた。さらに、自分の研究を推進するための時間(データ解析や論文執筆のための時間)を作ることが可能になった。研究成果として、過去の実験結果をまとめ、国際誌に論文を投稿することができた。

・本制度により雇用させていただいた方は、これまでに民間企業や大学で勤務されてきた、植物の培養、無菌操作のエキスパートです。本研究室の貴重な緑藻株コレクションの維持管理、凍結保存や実験に必要な細胞試料の調製や交配実験などが可能となりました。

・研究活動の一部を研究補助者に分担していただくことで少ない研究時間を有効に使えるようになりました。

その結果、多くの研究成果を論文として発表できました。

・補助者の方が研究をサポートしてくれることで、保育所の迎えの時間までに仕事を終わらせる事、子供の体調不良時でも研究が中断されることが少なく、研究を続けられる事が可能となりました。また、補助者の方にお問い合わせすること、私自身が行うことを整理することにより、効率的に時間が使えるようになりました。これにより、新たな研究遂行のための研究費申請の時間も確保することができました。

・サプレッサー株のアウトクロス実験は、2週間以上にわたる連続した作業を繰り返すことが必要であるが、この連続作業の一部を実験補助者に依頼することで、滞りなく作業を完了させることができた。

・申請者は上記のプロジェクトの他にもう一つプロジェクトを進

めており、補助者が実験の一部を分担することにより、育児のため勤務時間が制限される中、二つのプロジェクトに精力的に取り組む実験を進めることができた。ルーティン的な仕事の負担を減らすことができ、他の実験作業に集中することができた。

## 2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

・継続して支援を受けることで、実験の遂行だけでなく論文の執筆や外部資金の獲得のための申請書作成など、着実に研究を前に進めることができております。大変ありがたく思っております。

・娘が昨年2月に生まれたばかりで、多忙な中での家庭と研究活動の両立に不安もありましたが、補助者の協力によって研究活動にも今まで以上に専念して取り組み大きな成果も残すことができ、家庭と研究活動と助教としての教育活動のワークバランスを満身に充実させることができました。

・出産後は、保育園の保育時間内しか仕事ができず、また、発熱などの呼び出しの為に、急所帰宅を余儀なくされる場合があります。出産前と比較して、実験に割ける時間が大幅に減りましたが、この制度を利用することで、実験の進捗が少し早くなりました。

・本当にありがたいです。継続して同じ技術員の方に働いているので、技術が向上していったとどんどん高度なことを任せることができています。おかげさまでプロジェクトが花開き、今後自分の仕事として展開していく軸が定まりました。本制度のおかげで出産前に劣らないくらい進められていると思います。

・子育て中の研究は時間の制約との戦いですが、人との出会いも含め、この制度には大変助けていただき、感謝しています。

・子育てをしているとどうしても出勤出来なくなったり、勤務時間が限られる場面があるのですが、この制度を利用し、サポートしてくれる人がいることで、実験計画通りに実験を実施することができました。

・実験補助者に仕事を手伝っていただくことで、安心して、子育てと仕事の両立を行うことができた。

・研究を継続する時間が日常業務で、手術や外来でほぼとれないため、支援を受けられて大変ありがたい制度であると思います。睡眠時間や家族の時間を削って研究を行わざるを得ない状況ですので、心身の健康の維持や家族(妻)への負担も軽減できれば、ありがたい限りです。

・本支援制度では、研究室単位ではなく個人で専任の実験補助者を雇用できるので、実験を依頼しやすく、その他の業務に集中できるようになり、格段に研究スピードが向上しました。

・この制度のおかげで論文執筆や学会参加など、研究のための時間を作ることができた。その結果、研究者としての自己効力感も高まった。私は仕事に復帰した直後は研究費を持っていなかったの、この制度はとてありがたかった。

・夫婦共に研究者であり、妻の海外長期出張や学会参加など

で、託児所の送迎、子供の病気の対応などの負担が大きく仕事が滞っていました。ご支援いただいたおかげで実験株の管理や交配実験がようやくできるようになり、本当に助かりました。

・子育てに時間を割くべき人生の一時期を研究者としても有意義に過ごすことを可能にする素晴らしい制度だと思いました。

・仕事と育児の時間を確保することができ、精神的にも体力的にも、無事に過ごせていることに感謝しています。

このような制度が広く普及し、出産・育児・介護をする研究者の支えになることに期待しています。

・夫が東京に単身赴任しており、両親は中国にいるため、平日は家族の協力を全く得られない状態で子育てをしており、いわゆるワンオペ子育てと呼ばれる状態で毎日を過ごしている。また、左京区は保育園の競争率が高いため、希望していた保育園にも子供を入れることができず、登園に時間がかかる毎日である。精神的にも肉体的にも大変であるこの時期に、自分の実験に専任の実験補助者を雇えることは、非常に大きな支えとなった。

・研究室や自身の財源のみでは補助者を雇用することが困難であるため、大変助かった。今後研究者として仕事をしていくために必要な、他者への仕事の割り振りやトレーニング、また自身の時間の効率的な使い方等を考える良い機会となった。

## 3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

・半期ごとの支援のため、長期的な計画を立てづらい点があります。優秀な補助者を雇用したくても、なかなか短期で雇うことは難しい状況かと思えます。子育てや介護は年単位で行うものだという点を鑑みますと、支援も年単位に延長していただくと助かります。いずれにしても、このような支援があること自体素晴らしいことだと思いますので、継続していただければ幸いです。

・本制度の雇用時間、雇用期間の拡充を望みます。

・保育園との両立など女性研究者を取り巻く環境は厳しいので、3年くらいのスパンで計画できる制度があればよいと思います。

・半年契約と継続が困難になった場合、せっかく雇用した方が途切れてしまうと、また新しく雇用先をみつけたり、雇用者を探したりとなりますので、1年契約に期間延長してほしいと思います。

・雇用期間を半年間から一年単位にするほうが、雇用者は依頼しやすく、実験補助者も契約しやすと思います。私の場合、幸いにも近くに適当な技術者がいましたが、そうでない場合は雇用期間・給与の観点から実験補助者を外部から募集するのは難しい印象を持ちました。ぜひ、外部からの募集が可能となるような仕組みをご検討いただきたいです。

・有期雇用者(年度末で契約が更新されるタイプの雇用者)の場合、次年度の雇用が確定されていないと、前期の補助金制

度に申請できないことに困っている。

次年度の雇用はプロジェクトの予算に依存する。プロジェクト予算が確定するのが1月になるので(学内予算の関係もあると思うが)、申請期間を1月末まで延期してもらいたい。

・本制度は、雇用者、被雇用者双方にとって素晴らしい制度であり、ぜひ今後とも継続をお願いしたいと思います。できれば半期ごとではなく、年度単位にさせていただいた方が、被雇用者にとっては安心で、人材確保もしやすいかもしれません。

・実験の補助者として、社会人を採用する場合、半年の雇用しか保証ができず、非常に不安定な雇用環境です。また、現在の時給設定では、半年という短い期間で直ちに即戦力となる理系の大学卒、修士卒の補助者を見つけること自体が難しいです(派遣会社で勤務した方が給料がよく、半年よりは長い期間、勤務が保証される場合が多いため)。理系の学術背景を有しない社会人の場合、現在の時給設定でも採用できる機会が増えますが、実験器具の使用法の伝達などが必要なため、半年という短い期間ですと、慣れたところで、勤務終了となってしまいます。半年ではなく、少なくとも、1年以上の補助ができれば、もっとこの制度を利用して研究をしよう、とする方が増えるのではないかと思います。また、その方が、補助の効果を最大限に活かすことができるのではないのでしょうか。

(補足:研究分野によって色々かと思いますが、学生を研究補助者として採用するのは、教育的によいのかどうか、迷うところがあり(講義のTAとは違う)、可能であれば、社会人を採用したいと思っています)

・利用できる期間の制限をなくして頂けるとよいと思いました。例えば、複数人の子供を出産した女性は、長い期間、手のかかる乳幼児の育児をすることになり、3ヵ年では不足する方もいるのではないのでしょうか。また、介護は育児と異なり、先が見えないため、期間の制限があつて困る方もいるのではないのでしょうか。一律に、利用期間を3年と区切るのではなく、その方の置かれている状況によって補助期間を決めた方がよいと思いました。

・とてもありがたい制度だと思うが、申請が通ってからでないと補助者の募集ができないため(財源の問題で制度利用が決定する前に補助者が探せない)、もう少し時間にゆとりがあると思う。

## 5. その他

・育児も頑張りたいと常々思っており、このような制度があつて大変うれしく思っております。今後も継続していただければいいと思います。

・以前、子供が待機児童になってしまった際、どこも面倒をみていただける場所が見つからず困っていたところ、男女共同参画推進センターの託児所の存在を知りました。直前のお願いだったにもかかわらず、すみやかに受け入れていただき本当に助かりました。重ね重ね、御礼申し上げます。

・保育園が決まったので使用しませんでした。待機児童のための保育室も女性研究者の育児をしながらの復帰の助けになる良いシステムだと思いました。

## 4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール(うち所属部局から)	6
センターHP	3
指導教官からの情報	2
知人からの情報	1
その他	3
合計	15

## ■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告②

対象者:令和元年度第1期 研究・実験補助者雇用制度利用者 14名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率: 100%(14名)

### 1.「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

- ・大学での勤務時間の多くは講義・実習とその準備・調整に追われている現状ですが、本制度を利用させて頂くことで、限られた研究時間でも自身が指示や確認を行いながら、補助者の方と連携し効率的に文献検索やデータ分析準備などの作業を進めることが可能となりました。
- ・子供達の送迎時間から就労時間が制限されている上に、学外での実習、演習、講義などの教育 duty が非常に多く、研究はいつも後回しになっておりました。本制度を利用してデータ収集やデータベースの作成などを補助者に依頼することができ、短期に集中的にデータ収集ができ、節約した時間を解析や論文執筆に使えることができました。育児と研究と教育業務の両立が以前よりできるようになりました。
- ・安心して実験計画を立てられるようになった。流行性の病気などが保育園で流行ると、子供たちは大概感染し保育園に行けなくなってしまいます。季節変わり目などは、いつ保育園からお迎えの要請があるかハラハラしながら仕事をする。子の急病で、何週間もかけて準備してきた実験が駄目になってしまうことが心配だったが、補助者を雇用することで常にバックアップしてくれる存在が支えになり、まともな実験計画を立てることが出来た。実際に、子供が急病の時にはあらかじめ共有していたプロトコルや実験ノートなどが役に立った。「あとお願いします」とお互いに言える環境を整えられたことが何よりの成果だと思う。
- ・ライブラリの作製・定量・定性解析など時間がかかる作業を補助して貰うことで、データ解析に時間を割けるようになりました。
- ・実験を手伝っていただくことで、データをまとめる時間を作ることができました。補助者がいない時は、やるべきことが多すぎて空回りするようなどころがあり、思うようにこなしていけずストレスが溜まるばかりでした。実験していただいて、出してもらったデータを客観的に眺められるのが良いです。何より、思考や調べものに時間を割くことができ、新しいアイデアが浮かんできます。
- ・申請者は昨年11月に第二子を出産し、今年4月から研究活動を再開したが、第二子が哺乳瓶を拒否したことで、4月～10月の半年間は勤務時間が短時間に限られてしまった。しかし、手順や待ち時間の長い実験を、補助者に進めてもらうことで、滞りなく研究活動を進めることができた。現在、その成果を論文としてまとめるべく執筆を進めている。
- ・私の研究テーマは「眼難治疾患に対する治療法の開発」であ

り、日々様々な実験を行っている。

実験に使用する細胞や動物は、維持・管理が必須であるが、研究者は通勤時間が長く、1歳の子供の育児をしている為、研究に十分な時間が取れない。この制度を利用することで、維持管理といった日々のルーティンを補助者にお願いすることが出来、その後の実験や解析のスピードが上がり、研究を着実に進める事が可能になった。

- ・研究・実験補助者と協力することで、研究を効率よく継続することができた。子供の急な発熱等で早退しなければならない時でも、後を任せて早退できた。
- ・本制度を通して長時間かかる実験を進められるようになり、作業を分担することで、私自身はデータ解析や論文執筆に集中できるようになり、効率が上がりました。また、共同研究先や学会に赴く際も、学内での実験を中止する必要がなくなったので、様々なことを円滑に進められました。
- ・保育園への送迎、子供の通院、入院の付き添い、家事の分担等のため、どうしても細切れ時間内でできる研究が中心となり、時間のかかる有機合成実験や膨大な量のデータを解析するような研究はできずにいましたが、本制度で有機合成や、データ解析の一部を分担していただくことにより、今後の申請につながる成果を得ることができました。
- ・保育園の送迎で、長時間の実験が難しかったが、本雇用制度を利用することで、補助者に実験装置の立ち上げや立ち下げをお願い出来るようになり、時間変化の観測や、まとまったデータの取得が可能になった。また、この半年の間に雇用関係にあった学生も実験技術や解析の手法を獲得することが出来、今後より良い共同研究者として一緒に実験を進めていくことが出来るようになり、教育的な利点もあった。
- ・ルーティン的な作業を分担することにより、論文を読んだり新しい実験系を立ち上げることに時間を割けるようになった。
- ・補助者の方が研究をサポートしてくれることで、保育所の迎えの時間までに仕事を終えられる事、子供の体調不良時でも研究が中断されることが少なく、研究を続けられる事が可能となりました。また、補助者の方をお願いすることと、私自身が行うことを整理することにより、効率的に時間が使えるようになりました。これにより、研究成果を国際・国内学会で発表することに繋がりました。
- ・ライフワークバランスをとることが以前より可能になりました。妻と子どもがいるが、学位(博士号)を取得できていないため夜中まで働き詰めになることが多いが、今回の補助制度のおかげで家庭の時間を増やせました。また、研究に関しても実験を行

う以外に、先行研究などを勉強するなど実験以外の研究時間を増やせました。

## 2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

・大学の勤務時間は学務で手一杯となり、家庭の事情からエクストラの時間を捻出することが難しい状況でしたが、本制度で補助者を雇用し研究を進めることが可能となり、大学教員として教育と研究の両方の責務を果たすことが可能になりました。本当にありがたいことと感謝しております。

・夫が単身赴任をしており、平日は協力が得られない中で0歳(3ヶ月)、2歳、4歳を育てておりますが、家事や育児で精神的にも体力的にも非常にづらい状況でした。上司や共同研究者は協力的で恵まれた環境ですが、思っていた以上に研究の時間が取れないことから何もかもが計画通り進まず、帰宅後も休日も気持ちが休まりませんでした。この制度のおかげで以前より研究の時間が確保できるようになり、精神的に余裕ができました。心より感謝申し上げます。

・この制度で雇用するはずだった候補者が、雇用期間直前に辞退してしまい、新たに候補者を選定するのに時間がかかってしまった。利用できる期間が決まっているため、実際に雇用できたのは20-30%程度の日数になってしまった。もっとこの制度を有効に使いたかった。

・出産後は、保育園の保育時間内でしか仕事ができず、出産前と比較して仕事に割ける時間が大幅に減りましたが、この制度を利用することで「考えること」と「データ解析」に時間を割けるようになりました。また、ラボでしかできない実験部分を補助して貰えるようになったため、子供の急な体調不良で出勤できない日も、自宅でデータ解析ができ、以前よりダメージが少なくなりました。

・継続して同じ技術員の方に働いていただいております。技術が向上していったとどんどん高度なことを任せています。本制度のおかげで、これからの自分自身のライフワークとなる研究の礎を気付くことができました。ありがとうございました。

・産休育休明けは、子どもの体調も安定せず、急遽欠勤せざるを得ないという場面が多々ある。また、哺乳瓶拒否等の問題から、勤務時間が短時間に限られてしまうこともある。そのような状況下でも滞りなく研究活動を進めていくためには、実験補助者の存在は非常に有用であったと感じる。

・この制度を利用することで、子育てと両立して研究を進める事ができるようになり、とても感謝している。これにより得られた研究成果を、研究課題や研究チームへの貢献、延いては患者さんへの貢献に繋がられるようにしていきたいと思う。

・実験補助者に仕事を手伝っていただくことで、安心して、子育てと仕事の両立を行うことができた。まだ研究成果が出ていないため成果をもとに資金を調達することができず、個人の資金で雇用することは困難であり、非常に有り難い制度である。

・本支援制度では、研究室単位ではなく個人で専任の実験補助者を雇用できるので、実験を依頼しやすく、その他の業務に

集中できるようになり、格段に研究スピードが向上しました。

・7月に長女が生まれ、上の長男も赤ちゃん返りする中、家事・育児・仕事を目一杯こなしても仕事が滞るような状況で、現在進行中のプロジェクトの成果を出しつつ、新たなプロジェクトの提案をしていかなければなりませんでしたが、本制度を利用することで、新たな研究にも着手でき、研究計画の目途を立てることができたのは大変大きな意味がありました。

・以前は、まとまった実験が出来ず、成果が出し辛い状況にあり、家庭と仕事の両立で精神的にも辛かったが、本制度を利用することで、うまく人をお願いし、実験を進めることが出来るようになり、研究の進展だけでなく、精神的な安心も得ることが出来、非常に助かった。

・半年という期間だと応募も少なく、まともな人材に来てもらうのはなかなか難しいと感じました。習熟が求められる作業は慣れた頃に退職となってしまい、短期間で習得できる仕事中心とせざるを得ない状況でした。また半年で育児に関する環境が劇的に変わることもなく、研究に割ける時間が制限されるのは変わらないため、やはり期間が短いと感じました。

・仕事と育児の時間を確保することができ、精神的にも体力的にも、無事に過ごせていることに感謝しています。

このような制度が広く普及し、出産・育児・介護をする研究者の支えになることに期待しています。

・私のように、配偶者や子どもがいるが、キャリアアップの観点で問題を抱えている人には非常に有益な制度であると思います。とても困っていたので、大変助かりました。

## 3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

・制度を利用できるか否かがわからない状況で補助者を探すことが難しかったです(もし「否」になった場合お断りしないといけなくなるため、ホームページなどで大々的に募集をすることができません)。制度利用が決まった後、補助者の雇用を決めるまでの時間的猶予がないことはやや大変でした。

・6月に出産して8月から復職する前提で申請し採択していただきましたが、4-5月分のみ助成で6-9月は助成対象外とされました。産休中は監督者不在のため助成できないとのことでしたが、8-9月は復職しているので助成対象にしてほしかったです。特に育児休業を取得せずに復職すると、子供の月齢で保育時間に制限があり、それに伴い就労時間も短くなるので助成金が使えたと助かります。産休中は科研費を含め使えない研究費が多いので、産休中も使える助成制度があればもっと研究も育児も頑張れると思います。

・候補者辞退により制度利用期間が短くなってしまった。もう少し、融通が効くと利用しやすくなると思う。特に今回は、産休後、申請者の所属が変わった上、異動先はラボ立ち上げ期だったこともあり補助者を公募するしかなく、さらにこの制度の雇用条件は時給や勤務時間に制限があるためなかなか応募がなく苦労した。本当に補助者が必要な時に、補助者選定に時間も労

力も費やしてしまった。

・本制度の雇用時間、雇用期間の拡充を望みます。

・雇用期間を半年間から一年単位にするほうが、雇用者は依頼しやすく、実験補助者も契約しやすいと思います。私の場合、幸いにも近くに適当な技術者がいましたが、そうでない場合は、雇用期間・給与の観点から実験補助者を外部から募集するのは難しい印象を持ちました。

・本制度では、大学院生等を雇用することが多いかと思いますが、学生は講義、研究やその他の活動で大変忙しく、学生の時間と手伝ってほしい実験等の時間を合わせるのが難しい場面がありました。本制度について、学外にも周知し、学外からも経験者を実験補助者として雇用しやすい環境を整える必要があるのではないかと感じました。例えば、学外の実験経験者の中で本制度に関心がある方に実験補助者バンク(?)に登録してもらい、実験補助者を希望する人と実験補助者バンクに登録した人が面談してマッチングすれば、そのまま雇用し、マッチングしなければ、学内の院生等を雇用するといったこともできるのではないかと思います。実験補助者バンクには、学外の実験経験者の他、学内の学生も登録してもらいやすいようにすれば、人材をより活用しやすくなると思います。

・期間についてはシステム上仕方ないのかもしれませんが、年単位だと助かるように思いました。

・実験の補助者として、社会人を採用する場合、半年の雇用しか保証ができず、非常に不安定な雇用環境です。また、現在の時給設定では、半年という短い期間で直ちに即戦力となる理系の大学卒、修士卒の補助者を見つけること自体が難しいです(派遣会社で勤務した方が給料がよく、半年よりは長い期間、勤務が保証される場合が多いため)。理系の学術背景を有しない社会人の場合、現在の時給設定でも採用できる機会が増えますが、実験器具の使用法の伝達などが必要なため、半年という短い期間ですと、慣れたところで、勤務終了となってしまいます。半年ではなく、少なくとも、1年以上の補助ができれば、もっとこの制度を利用して研究をしよう、とする方が増えるのではないかと思います。また、その方が、補助の効果を最大限に活かすことができるのではないのでしょうか。

・制度上、申請者の書面上の労働時間内でしか補助を依頼できない点が困りました。労働契約の書類上では、実際の労働時間より大幅に少ない時間で労働契約が結ばれているので、補助を毎日4時間分ほどを依頼したかったが、平均して1-2時間分ほどしか依頼できませんでした。常勤職員などで時間の縛りが無い場合は最大限の助成を申請できるが、特殊な事情を抱えたオーバードクターなどの非常勤はごく僅か、というのはこの点において制度に多少の歪みがあると感じたのが正直なところでした。研究室や申請者それぞれに様々な事情があるので、制度の本質を鑑みてもケースごとにより細かい審議がなされても良いのではないのでしょうか。

(それでも、本制度によって大変助けられたことは改めて申し

上げます。)

#### 4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール(うち所属部局から)	4
センターHP	3
指導教官からの情報	4
知人からの情報	1
その他	3
合計	15

#### 5. その他

・育児や介護と研究との両立は多くの研究者が直面する課題だと思います。こういった制度で大学がバックアップして下さることは何より心強いです。ありがとうございます。

・貴センターが企画されている保育園にも申請させていただきました。

今回は地元の保育園が奇跡的に1枠あいており、入園することはありませんでしたが、保育園や研究・実験補助者雇用制度があることで妊娠中も「子育てをしながらも研究は継続できる」ととても安心できました。ありがとうございました。

・ベビーシッター派遣事業ですが、学会や実験等で出張する際に、急に家で子供の面倒をみてもらえなくなってしまったという場面があります。この場合、出張自体をやめるとというのが一番簡単なのですが、出張をやめると他への影響が大きい場合は、子供を出張先に連れて行ってでも出張しなければならぬということがあります。その場合に、出張先でベビーシッターを利用できるように制度を拡張していただけると便利かと思います。

・本制度は、出産や育児といった大きなイベントで仕事と家庭のバランスをとることが難しい研究者を支援する、大変有益で有効な制度だと思いました。感謝いたします。

## 喜多 恵子 就労支援事業ワーキンググループ主査 退任の挨拶

私は 2014 年度より男女共同参画推進センター就労支援 WG 事業支援員を拝命し、研究・実験補助者雇用制度利用希望者の審査に従事してまいりました。2017 年度に、前任者の佐藤亨先生から主査を引き継ぎましたが、来る 2020 年 3 月末で定年退職となり、主査を退任いたします。退任にあたり、遅まきながら自己紹介を兼ねてご挨拶させていただきます。

私は、農学部農芸化学科（当時）に 1973 年に入学し、1 回生のとき教養部（当時）の生物学実習を履修しました。担当は柳島静江教授であったと記憶しています。恥ずかしながら、氏が京大初の女性教授ということは露知らず、形態観察の試料として提供されたクルマエビを、スケッチ後に下宿に持ち帰って夕飯のオカズの一品として食した記憶しかありません。小中高校は国公立の男女共学校で学び、高校では理系を選択しましたが 48 名のクラスの中で女子は 8 名（17%）でした。農芸化学科の 38 名のクラスの中で女子は 7 名（18%）で、当時の京大としては女子学生の比率が極めて高かったこともあって、女性ということあまり意識しない鈍感で呑気な学生でした。

1979 年に、京都に本社がある東証一部上場企業に運よく採用されました。修士課程を修了した女子学生の採用実績がなかったため給与体系が整備されておらず、入社するまで初任給を気にしていませんでした。当時は男女雇用機会均等法の施行前で、同じ学歴でも男女で賃金に差があり、社会に出てから女性ということをやっと意識するようになりました。

研究・実験補助者雇用制度へ応募される方々の申請書類や利用者のアンケートを拝見するたびに、はたして現在の制度でよいものかどうか迷うことが多かった 6 年間でしたが、幸い、審査にあられる教員や担当職員の皆さんは意識の高い方々で、彼/彼女らの的確なフォローがなければ主査は務まりませんでした。厚く御礼申し上げます。限られた予算の中で、本学の多様な研究者がそれぞれに活躍できる環境を整備することは一朝一夕にはできません。関係各位の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

柳島名誉教授は 2019 年 8 月にご逝去されました。半世紀前の社会情勢を振り返ると、想像を絶するご苦勞があったと思います。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。最後になりましたが、故柳島氏のご遺族から男女共同参画支援たちばな基金にご寄付をいただきましたことに深甚なる感謝を捧げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

# 資 料

## 男女共同参画推進センター 関係者名簿

2019.12.1 現在

役職	氏名	所属・職
センター長	稲葉 カヨ	理事・副学長
男女共同参画推進本部支援室長	足立 壯一	医学研究科・教授
広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ°		
主査	今村 博臣	生命科学研究科・准教授
事業推進員	鈴木 晶子	教育学研究科・教授
事業推進員	松下 佳代	高等教育研究開発推進センター・教授
事業推進員	久家 慶子	理学研究科・教授
事業推進員	末永 幸平	情報学研究科・准教授
事業推進員	竹之内 沙弥香	医学研究科・准教授
育児・介護支援事業ワーキンググループ°		
主査	矢野 孝次	理学研究科・准教授
事業推進員	岩崎 奈緒子	総合博物館・教授
事業推進員	齊藤 真紀	法学研究科・教授
事業推進員	渡辺 範雄	医学研究科・准教授
事業推進員	中村 沙絵	アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授
事業推進員	片岡 正子	医学部付属病院・助教
事業推進員	吉永 直子	農学研究科・助教
事業推進員	本田 晶子	地球環境学堂・助教
病児保育事業ワーキンググループ°		
主査	丹羽 房子	医学部附属病院・助教
事業推進員	加藤 格	医学部附属病院・助教
事業推進員	河合 優美子	医学部附属病院・副看護部長
事業推進員	小川 優	医学部附属病院・総務課長
事業推進員	隈村 綾子	医学部附属病院・医務課掛長
就労支援事業ワーキンググループ°		
主査	喜多 恵子	農学研究科・教授
事業推進員	木下 彩栄	医学研究科・教授
事業推進員	高橋 淑子	理学研究科・教授
事業推進員	横山 美夏	法学研究科・教授
事業推進員	見学 美根子	高等研究院・教授
事業推進員	船越 資晶	法学研究科・教授
事業推進員	高橋 良和	工学研究科・教授

## 男女共同参画推進委員会会議 議事

### ■推進委員会会議議題と資料

#### 2019年4月15日(月)

【議事】 第14回(2019年度)関西科学塾への協力について  
女子高生・車座フォーラム2019について

#### 【報告】

1. 新メンバーの紹介について
2. ベビーシッター割引券 利用状況について
3. 日経ウーマノミクスフォーラムについて
4. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

#### 【資料】

1. 関西科学塾 協力依頼
2. 車座フォーラム チラシ原稿案
3. 日経ウーマノミクス チラシ
4. 平成30年度活動報告書
5. センターパンフレット(和文・英文)
6. 青いリボンのエトセトラ vol.5、Will
7. ニュースレター「たちばな」第83号

#### 5月13日(月)

【議事】 女子高生応援大使の実施について  
女子高生・車座フォーラム2019 参加者募集チラシについて

#### 【報告】

1. ベビーシッター育児支援割引券の開始について
2. センターの予算について
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

#### 【資料】

1. 女子高生応援大使 実施案
2. 女子高生・車座フォーラム2019 チラシデザイン案、プログラム案
3. 男女共同参画支援たちばな基金 パンフレットデザイン案

#### 6月10日(月)

#### 【報告】

1. 女子高生応援大使の実施について
2. ベビーシッター育児支援割引券の開始について
3. 日経ウーマノミクスフォーラム 参加について
4. 全国ダイバーシティネットワークについて
5. 女子高生・車座フォーラム2018 チラシ決定について
6. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

#### 【資料】

1. 女子高生応援大使 高校送付資料
2. 令和元年度 ベビーシッター割引券概要
3. 日経ウーマノミクスフォーラム 出展ブース案
4. 全国ダイバーシティネットワーク事業資料
5. 女子高生・車座フォーラム2019 チラシ
6. ニュースレター「たちばな」第84号
7. 男女共同参画支援たちばな基金 パンフレットデザイン最終案

## 7月8日(月)

【議事】 病児保育室の保育士について

【報告】

1. 女子高生応援大使 募集終了について
2. ベビーシッター育児支援割引券の開始について
3. センターのおむかえ保育について
4. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

【資料】

1. 保育士派遣の見積もり
2. 女子高生応援大使 申請状況
3. おむかえ保育 改定最終案
4. 英文 HP リスト
5. 男女共同参画支援たちばな基金 パンフレット

## 9月9日(月)

【報告】

1. 女子高生応援大使 進捗状況について
2. 全国ダイバーシティネットワークへの記事提供について
3. 日経ウーマノミクスフォーラム 参加報告について
4. ベビーシッター育児支援割引券 利用状況について
5. 病児保育室 保育士採用報告について
6. 今年度の保育現況、来年度の保育契約について
7. 研究者支援・制度一覧サイトへの掲載について
8. 育児・介護支援事業 WG 推進員の追加について
9. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

【資料】

1. 女子高生応援大使 現況報告
2. 全国ダイバーシティネットワーク HP 掲載記事
3. 日経ウーマノミクスフォーラム アンケート
4. 保育利用・事前登録状況
5. 研究実験補助者令和元年度2期 採否一覧(会議終了後回収)

## 10月10日(木)

【報告】

1. 女子高生応援大使 進捗状況について
2. ベビーシッター割引券 利用状況について
3. 第12回京都大学たちばな賞 募集開始予定(11/1~11/29) について
4. 院内保育きらら おむかえ保育について
5. 女子高生・車座フォーラム 応募状況について
6. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

【資料】

1. たちばな賞 募集チラシ
2. 車座フォーラム 応募状況
3. 保育契約 調達スケジュール
4. Make Kyoto University Gender Sensitive
5. 保活情報交換会 アンケート

## 11月18日(月)

【報告】

1. 女子高生応援大使 進捗状況について

2. ベビーシッター割引券 利用状況について
3. 第 12 回京都大学たちばな賞 募集開始(11/1~11/29) について
4. 女子高生・車座フォーラム 応募状況について
5. 来年度の保育契約について
6. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

**【資料】**

1. たちばな賞募集チラシ車座フォーラム応募状況
2. 車座フォーラム応募状況
3. 女性教員懇話会セミナー チラシ
4. ニュースレター「たちばな」第 87 号
5. 関西科学塾実験概要(京大実施分)
6. オープンホスピタルポスター

**12 月 2 日(月)**

**【報告】**

1. 第 12 回京都大学たちばな賞 募集終了について
2. ベビーシッター育児支援割引券利用状況について
3. 女子高生・車座フォーラム 2019 募集終了について
4. 来年度の保育契約について
5. 特定専門業務職員の扱いについて(おむかえ保育)について
6. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

**【資料】**

1. 車座フォーラム応募状況
2. W&W フォーラム第 6 回 チラシ案

**1 月 14 日(火)**

**【議事】**

1. 2020 年度 待機乳児保育室の開室について
2. センター非常勤職員の例外措置について
3. 病児保育室非常勤職員の勤務時間について

**【報告】**

1. 第 12 回京都大学たちばな賞 選考状況について
2. ベビーシッター割引券 利用状況について
3. 関西科学塾 来年度以降の支援について
4. 12/22 女子高生・車座フォーラム 2019 開催について
5. 来年度の保育業務 準備状況について
6. おむかえ保育の取扱いについて
7. センター派遣職員 1 名交替について
8. ワーキンググループの活動状況と今後の予定について

**【資料】**

1. 2020 年度待機乳児保育室 開室準備資料
2. 女子高生・車座フォーラム 2019 アンケート集計
3. おむかえ保育の取扱い
4. W&W フォーラム第 6 回 チラシ

京都大学教員数

(2019年5月1日現在)

区分	総長		役員			教授			准教授			講師			助教			助手			合計		
	男	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総長	1	1																			1	0	1
理事・監事(非常勤含む)			8	1	9																8	1	9
文学研究科						37	10	47	24	4	28	3		3	10	10				0	74	14	88
教育学研究科						12	7	19	9	4	13	2	1	3	3	3				0	26	12	38
法学研究科						42	6	48	12	4	16	1	1	2		0		1	1	55	12	67	
経済学研究科						21	1	22	8		8	3	4	7	1		1			0	33	5	38
理学研究科						73	2	75	81	9	90	8	1	9	68	6	74			0	230	18	248
医学研究科						67	9	76	53	12	65	51	6	57	34	15	49			0	205	42	247
医学部附属病院						5	1	6	13	2	15	10		10	115	19	134			0	143	22	165
薬学研究科						13		13	11	2	13	6	2	8	7	1	8			0	37	5	42
工学研究科						128	2	130	112	5	117	27	3	30	102	5	107			0	369	15	384
農学研究科						59	4	63	47	5	52	4	1	5	54	5	59			0	164	15	179
人間・環境学研究科						60	9	69	23	5	28			0	17	1	18			0	100	15	115
エネルギー科学研究科						19		19	19		19			0	8		8			0	46	0	46
アジア・アフリカ地域研究研究科						14		14	6	4	10			0	1	1	2			0	21	5	26
情報学研究科						37		37	23	2	25	7		7	29		29			0	96	2	98
生命科学研究科						18		18	17		17	4	1	5	9	2	11			0	48	3	51
総合生化学館						6	2	8	4		4			0			0			0	10	2	12
地球環境学堂						17		17	10	5	15	1		1	6	3	9			0	34	8	42
公共政策連携研究部						9	1	10			0			0			0			0	9	1	10
経営管理研究部						13	1	14	4	1	5			0			0			0	17	2	19
化学研究所						28		28	16	1	17		2	2	34	3	37			0	78	6	84
人文科学研究所						19	1	20	16	2	18			0	7	3	10	1		1	43	6	49
ウイルス・再生医科学研究所						18	1	19	16	1	17	4		4	16	7	23			0	54	9	63
エネルギー理工学研究所						9		9	12		12	2		2	11		11			0	34	0	34
生存圏研究所						14		14	10		10	2		2	7	2	9			0	33	2	35
防災研究所						30	1	31	34	1	35		1	1	14	1	15			0	78	4	82
基礎物理学研究所						9		9	8		8	1		1	3		3			0	21	0	21
経済研究所						10		10	2		2			0	1	1	2			0	13	1	14
数理解析研究所						12		12	11		11	3		3	7	1	8			0	33	1	34
原子炉実験所						16		16	21	2	23	1		1	24	4	28			0	62	6	68
霊長類研究所						12		12	10		10			0	7	6	13			0	29	6	35
東南アジア地域研究研究所						10	3	13	10	2	12			0	3	3	6			0	23	8	31
iPS細胞研究所						11	2	13	9		9	3		3			0			0	23	2	25
附属図書館								0		1	1			0		1	1			0	0	2	2
学術情報メディアセンター						8		8	5		5	1		1	4		4			0	18	0	18
生態学研究センター						6	1	7	2		2			0			0			0	8	1	9
野生動物研究センター						3	1	4	1		1			0		1	1			0	4	2	6
高等教育研究開発推進センター						1	1	2	2	1	3			0			0			0	3	2	5
総合博物館						2	1	3	1	1	2	1		1	2		2			0	6	2	8
フィールド科学教育研究センター						4	1	5	7	1	8	2		2	6	3	9			0	19	5	24
福井謙一記念研究センター						1		1			0			0			0			0	1	0	1
こころの未来研究センター						3	1	4	1		1			0			0			0	4	1	5
学生総合支援センター						1		1	1	2	3	2		2			0			0	4	2	6
大学文書館						1		1			0			0			0			0	1	0	1
学際融合教育研究推進センター								0	1		1			0			0			0	1	0	1
国際高等教育院						22	5	27	14	3	17	2		2			0			0	38	8	46
環境安全保健機構						5		5	3	1	4			0	7	1	8			0	15	2	17
情報環境機構						3		3	2		2			0	1	1	2			0	6	1	7
産官学連携本部								0	1		1			0			0			0	1	0	1
高等研究院						4	2	6	5		5	2		2			0			0	11	2	13
合計	1	1	8	1	9	912	76	988	697	83	780	153	23	176	618	96	714	1	1	2	2390	280	2670

(注)育児休業者・退職者、再雇用者は除く

## 京都大学学生数

### 学部学生数

(2019年5月1日現在)

区分	学部学生			聴講生			科目等履修生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合人間学部	424	151	575			0	8	4	12	432	155	587
文学部	614	397	1,011	27	18	45	7	6	13	648	421	1,069
教育学部	166	112	278	2	1	3	2		2	170	113	283
法学部	1,090	399	1,489	1		1				1,091	399	1,490
経済学部	902	223	1,125				2		2	904	223	1,127
理学部	1,249	129	1,378				13		13	1,262	129	1,391
医学部(6年制)	563	122	685							563	122	685
医学部(4年制)	163	341	504							163	341	504
薬学部(6年制)	63	66	129							63	66	129
薬学部(4年制)	94	35	129				2		2	96	35	131
工学部	3,812	410	4,222				2		2	3,814	410	4,224
農学部	855	451	1,306				7		7	862	451	1,313
計	10,093	2,899	12,992	30	19	49	43	10	53	10,166	2,928	13,094
	(130)	(103)	(233)							(130)	(103)	(233)

(注) ( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

### 大学院学生数

(2019年5月1日現在)

区分	修士課程			博士(後期)課程			専門職学位課程			聴講生			科目等履修生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	148	100	248	132	63	195				6	10	16				286	173	459
教育学研究科	42	51	93	47	33	80							4	8	12	93	92	185
法学研究科	13	19	32	60	17	77	238	115	353	2		2		1	1	313	152	465
経済学研究科	67	57	124	75	30	105							2		2	144	87	231
理学研究科	566	99	665	405	75	480							3		3	974	174	1,148
医学研究科				513	221	734										513	221	734
	20	27	47	63	39	102	47	38	85				1		1	131	104	235
医学研究科(人間健康科学専攻)	37	91	128	37	47	84										74	138	212
薬学研究科				25	12	37										25	12	37
	110	37	147	42	13	55										152	50	202
工学研究科	1,341	190	1,531	433	86	519							1		1	1,775	276	2,051
農学研究科	432	241	673	159	67	226							5	2	7	596	310	906
人間・環境学研究科	218	151	369	180	140	320										398	291	689
エネルギー科学研究科	256	38	294	61	17	78								1	1	317	56	373
アジア・アフリカ地域研究研究科				75	76	151							1		1	76	76	152
情報学研究科	399	59	458	128	30	158							1		1	528	89	617
生命科学研究科	96	67	163	54	44	98										150	111	261
総合生存学館				37	35	72										37	35	72
地球環境学舎	44	56	100	33	42	75										77	98	175
公共政策教育部							63	21	84							63	21	84
経営管理教育部				19	6	25	114	98	212				7	3	10	140	107	247
計	3,789	1,283	5,072	2,578	1,093	3,671	462	272	734	8	10	18	25	15	40	6,862	2,673	9,535
	(435)	(398)	(833)	(555)	(391)	(946)	(40)	(72)	(112)							(1030)	(861)	(1891)

(注1) 医学研究科・薬学研究科の博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2) アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3) ( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

# 京都大学の女性研究者・女子学生の状況

## 1. 教員数の経年変化と女性比率

(分析データ：京都大学概要 2019)

2004年までは、保田その氏の作成データ（京都大学女性教員懇話会 2005年度ニュースレターNo.2）による

2019年5月1日現在の京都大学の教員数(助手2名を含む)は、全体で2,711名である。そのうち女性教員は全体の10.4%、数にしてわずか279名である。2006年は7.3%だったので、この12年間で3.3%増加している。女性教員数が目立って増加の傾向を見せてきたのは、2000年頃からである。図1に1952年以来的女性教員の推移を示す。

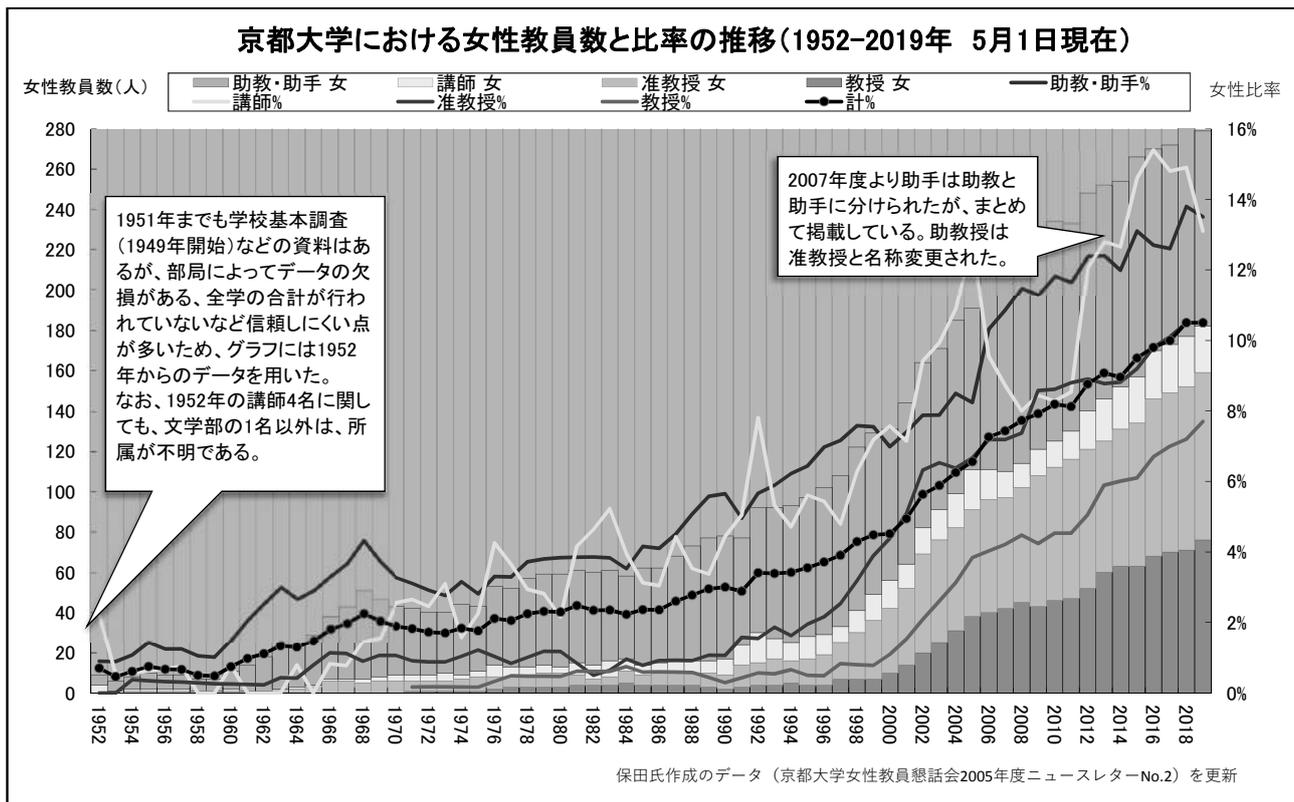


図1：1952年以来的女性教員の推移

職階別に男女比を見ると、女性は総数が少ないのでどのポストでもわずかだが、その中でも、教授ポストの女性比率が特に少なく、7.7%しかない。准教授ポストでは10.6%、講師では13.1%、助教・助手では13.5%が女性である(図2)。

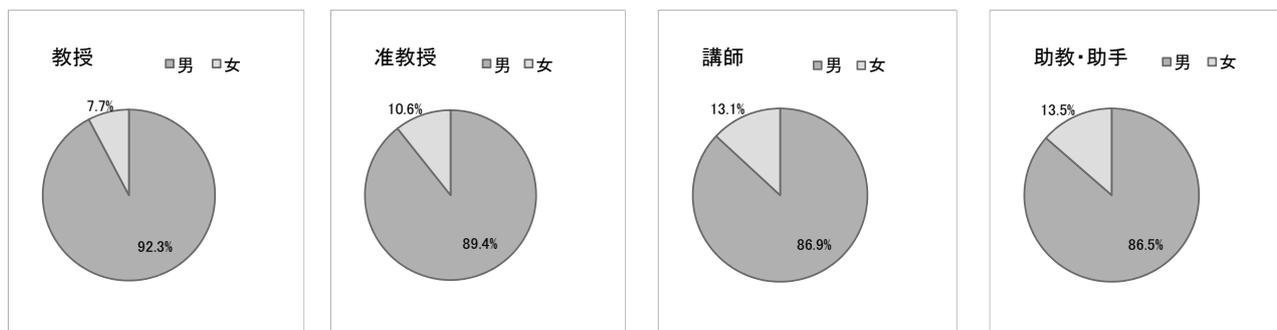


図2 教員の職階毎の男女比(2019年5月1日現在)

図3の職階分布からわかるように、男性では教授(38.3%)が最も多く、女性では助教・助手(34.8%)が最も多い。

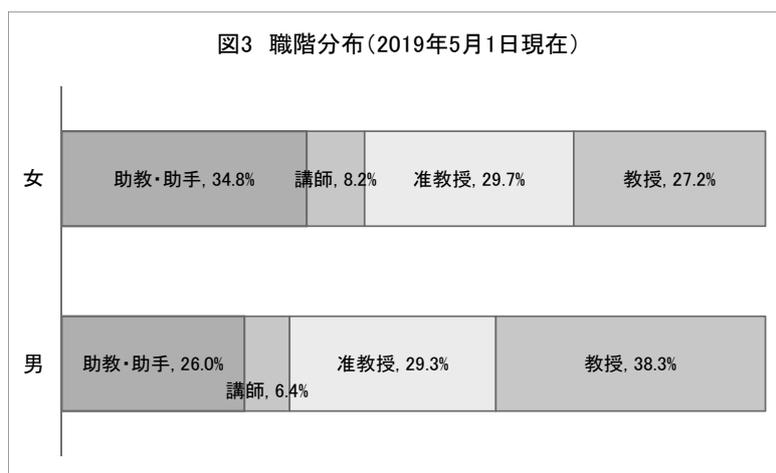


表1に男女別教員数(「定員」)を示す。女性がない部局は載せていないが、総合計は総教員数である。

部局	男	女	計	女性比率
附属図書館	0	2	2	100.0%
こころの未来研究センター	4	1	5	20.0%
野生動物研究センター	4	2	6	33.3%
高等教育研究開発推進センター	3	2	5	40.0%
学生総合支援センター	4	2	6	33.3%
教育学研究科	26	12	38	31.6%
情報環境機構	6	1	7	14.3%
総合博物館	6	2	8	25.0%
東南アジア地域研究研究所	23	8	31	25.8%
フィールド科学教育研究センター	19	5	24	20.8%
医学研究科	205	42	247	17.0%
総合生存学館	10	2	12	16.7%
地球環境学堂	34	8	42	19.0%
公共政策連携研究部	9	1	10	10.0%
人文科学研究所	43	6	49	12.2%
アジア・アフリカ地域研究研究科	21	5	26	19.2%
法学研究科	55	12	67	17.9%
文学研究科	74	14	88	15.9%
国際高等教育院	38	8	46	17.4%
経済学研究科	33	5	38	13.2%
霊長類研究所	29	6	35	17.1%
薬学研究科	37	5	42	11.9%
人間・環境学研究科	100	15	115	13.0%
ウイルス・再生医科学研究所	54	9	63	14.3%
医学部附属病院	143	22	165	13.3%
生態学研究センター	8	1	9	11.1%
環境安全保健機構	15	2	17	11.8%
経営管理研究部	17	2	19	10.5%
高等研究院	11	2	13	15.4%
i P S細胞研究所	23	2	25	8.0%
農学研究科	164	15	179	8.4%
複合原子力科学研究所	62	6	68	8.8%
化学研究所	78	6	84	7.1%
理学研究科	230	18	248	7.3%
経済研究所	13	1	14	7.1%
生命科学研究科	48	3	51	5.9%
生存圏研究所	33	2	35	5.7%
防災研究所	78	4	82	4.9%
工学研究科	369	15	384	3.9%
数理解析研究所	33	1	34	2.9%
情報学研究科	96	2	98	2.0%
総合計	2,399	279	2,678	10.4%

## 2. 女性研究者の雇用形態

(分析データ：総務部資料 2019年5月1日)

表2に示すように、本学には女性研究者が約933人いる。プロジェクトなどの雇用でない、いわゆる“定員”の教員は279人、残り654人が種々のプロジェクトなどで雇用されている任期付きの研究者である。表2にその職種、職階分布を示した。表2で常勤というのは、勤務形態は定員と同じだが雇用形態が例えば、准教授(産官学連携)というように職名に財源の由来が付いている任期付きのポストを示している。非常勤というのは、勤務形態が非常勤で雇用の財源はいろいろである。例えば「最先端研究」などである。

表2 女性研究者の雇用形態

学内の雇用形態		人数	%
定員	教授	76	8.1%
	准教授	83	8.9%
	講師	23	2.5%
	助教・助手	97	10.4%
	合計	279	29.9%
常勤	教授	7	0.8%
	准教授	26	2.8%
	講師	20	2.1%
	助教	88	9.4%
	研究員	172	18.4%
	合計	313	33.5%
非常勤	研究員	264	28.3%
	医員	70	7.5%
	教員	7	0.8%
	合計	341	36.5%
総合計		933	100.0%

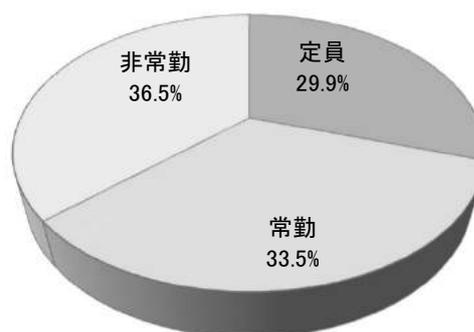


図4 女性研究者の雇用形態

### 3. 女性教員の部局別・職階別分布

表3に全部局の職階別女性教員数(2019年5月1日現在)を示す。

(分析データ：総務部資料2019年5月1日)

表3：部局別職階別女性教員数（2019年5月1日現在、総務部より）

部局	定員					常勤						非常勤				総合計
	教授	准教授	講師	助教 助手	合計	教授	准教授	講師	助教	研究員	合計	研究員	医員	教員	合計	
医学部附属病院	1	2	0	19	22	1	3	1	22	10	37	17	70	0	87	146
医学研究科	9	12	6	15	42	2	5	4	11	11	33	54	0	0	54	129
i P S細胞研究所	2	0	0	0	2	1	0	1	4	48	54	9	0	0	9	65
工学研究科	2	5	3	5	15	0	0	0	4	8	12	14	0	0	14	41
農学研究科	4	5	1	5	15	0	1	0	3	3	7	19	0	0	19	41
理学研究科	2	9	1	6	18	0	0	0	0	6	6	8	0	0	8	32
ウイルス・再生医学研究所	1	1	0	7	9	0	0	0	2	5	7	10	0	0	10	26
霊長類研究所	0	0	0	6	6	0	0	0	2	6	8	7	0	2	9	23
人間・環境学研究科	9	5	0	1	15	0	0	2	1	2	5	4	0	0	4	24
生存圏研究所	0	0	0	2	2	1	0	0	0	8	9	18	0	0	18	29
生命科学研究科	0	0	1	2	3	0	0	0	2	3	5	15	0	0	15	23
学際融合教育研究推進センター	0	0	0	0	0	0	1	0	5	6	12	4	0	0	4	16
教育学研究科	7	4	1	0	12	0	0	0	3	0	3	1	0	0	1	16
高等研究院	2	0	0	0	2	0	3	0	5	14	22	11	0	0	11	35
文学研究科	10	4	0	0	14	0	0	0	0	1	1	3	0	0	3	18
法学研究科	6	4	1	1	12	0	0	0	7	0	7	0	0	0	0	19
地球環境学	0	5	0	3	8	0	1	0	0	1	2	5	0	0	5	15
公共政策連携研究部	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
国際高等教育院	5	3	0	0	8	0	1	6	0	0	7	0	0	0	0	15
東南アジア地域研究研究所	3	2	0	3	8	0	0	0	0	5	5	5	0	0	5	18
防災研究所	1	1	1	1	4	0	0	0	0	3	3	3	0	0	3	10
化学研究所	0	1	2	3	6	0	0	0	1	3	4	9	0	0	9	19
人文科学研究科	1	2	0	3	6	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	9
野生動物研究センター	1	0	0	1	2	0	0	0	2	2	4	3	0	1	4	10
薬学研究科	0	2	2	1	5	0	0	1	0	1	2	5	0	0	5	12
産官学連携本部	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	7	4	0	0	4	11
アジア・アフリカ地域研究研究科	0	4	0	1	5	0	0	0	1	2	3	2	0	0	2	10
こころの未来研究センター	1	0	0	0	1	1	0	2	0	2	5	4	0	0	4	10
情報学研究科	0	2	0	0	2	0	1	0	1	5	7	2	0	0	2	11
生態学研究センター	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	5	0	0	5	7
複合原子力科学研究所	0	2	0	4	6	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4	10
フィールド科学教育研究センター	1	1	0	3	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	6
経営管理研究部	1	1	0	0	2	0	2	1	1	2	6	3	0	3	6	14
白眉センター	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	8	0	0	0	0	8
経済学研究科	1	0	4	0	5	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	7
高等教育研究開発推進センター	1	1	0	0	2	0	0	1	1	1	3	1	0	0	1	6
総合博物館	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4
アフリカ地域研究資料センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	2	0	0	2	6
エネルギー理工学研究所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	2	3
学生総合支援センター	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
環境安全保健機構	0	1	0	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
基礎物理学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	2
総合生存学館	2	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	2	0	0	2	5
エネルギー科学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
学術情報メディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	2	4
情報環境機構	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大学院横断教育プログラム推進センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属図書館	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
経済研究所	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
数理解析研究所	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総務部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
大学文書館	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2
福井謙一記念研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
合計	76	83	23	97	279	7	26	20	88	172	313	264	70	7	341	933

#### 4. 女子学生の状況

(分析データ：総務部資料 2019 年 5 月 1 日)

2019 年 5 月 1 日現在の京都大学の学部生数、大学院生数、女性比率を表 4 と表 5 に示す。1946 年からの女子学生数とその比率は図 5 にある。

学部学生の女性比率は全体で 22.3%と、教員と比較するとかなり高い。医学部(4 年制)では、67.7%、薬学部(6 年制)では 51.2%、文学部、教育学部は、約 40%が女子学生である。工学部は教員と同じく低く、女性比率 9.7%である。大学院では、修士課程から博士課程に進むに従って、女性比率が、25.3%から 29.8%へと高くなる。しかし、図 6 に示したように教員への道は細いパイになっている。

表4 学部学生数と女性比率

	学部生数計	女性%
総合人間学部	587	26.3
文学部	1,069	39.3
教育学部	283	40.3
法学部	1,490	26.8
経済学部	1,127	19.8
理学部	1,391	9.4
医学部 (6年制)	685	17.8
医学部 (4年制)	504	67.7
薬学部 (6年制)	129	51.2
薬学部 (4年制)	131	27.1
工学部	4,224	9.7
農学部	1,313	34.5
計	13,094 (233)	22.3

注) ( ) 内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数

表5 大学院生数と女性比率

	修士課程	女性%	博士課程	女性%
文学研究科	248	40.3	195	32.3
教育学研究科	93	54.8	80	41.3
法学研究科	32	59.4	77	22.1
経済学研究科	124	46.0	105	28.6
理学研究科	665	14.9	480	15.6
医学研究科			734	30.1
	47	57.4	102	38.2
薬学研究科			37	32.4
	147	25.2	55	23.6
工学研究科	1,531	12.4	519	16.6
農学研究科	673	35.8	226	29.6
人間・環境学研究科	396	38.1	320	43.8
エネルギー科学研究科	294	12.9	78	21.8
アジア・アフリカ地域研究研究科			151	50.3
情報学研究科	458	12.9	158	19.0
生命科学研究科	163	41.1	98	44.9
総合生存学館			72	48.6
地球環境学舎	100	56.0	75	56.0
公共政策教育部				
経営管理教育部			25	24.0
計	5,072 (716)	25.3	3,671 (865)	29.8

(注1)医学研究科博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2)アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3) ( ) 内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数

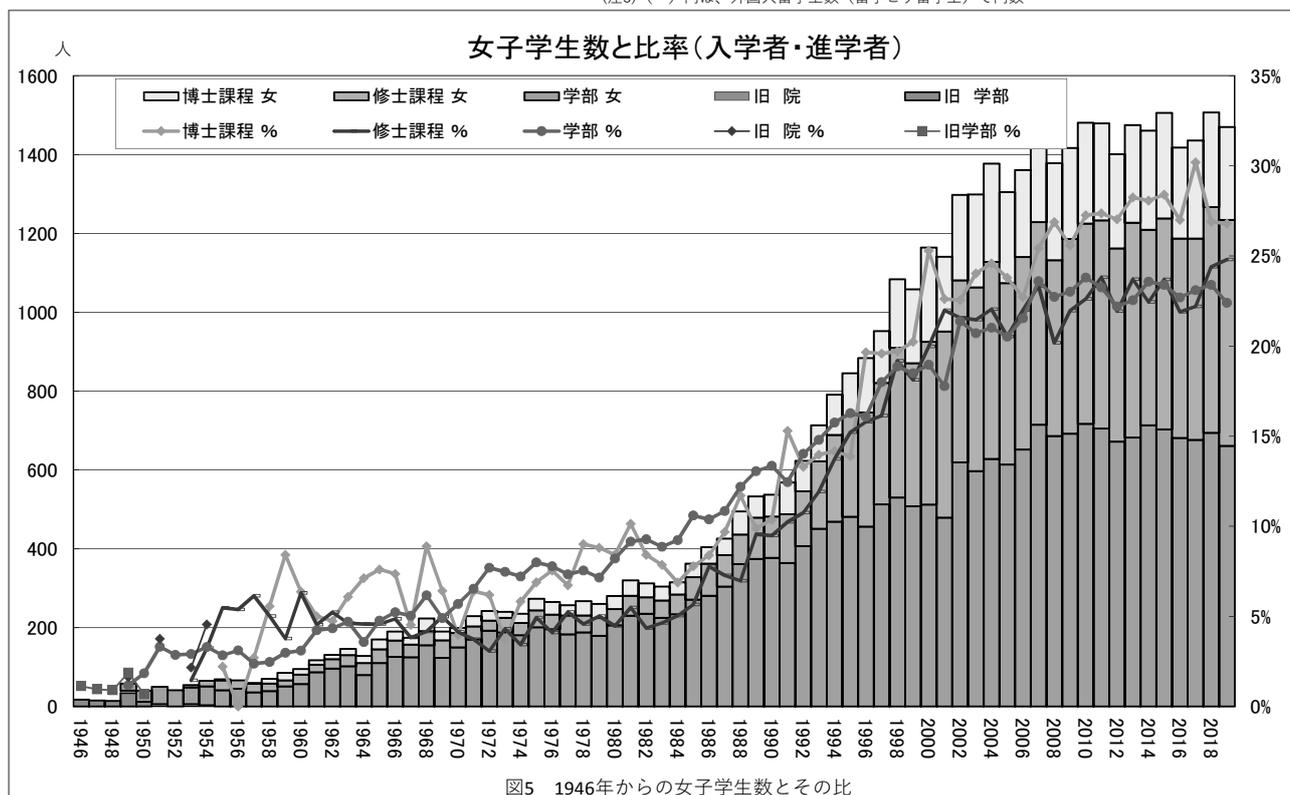


図5 1946年からの女子学生数とその比

図6 女性の比率の流れ



※ 2.「女性研究者の雇用形態」(表 2、図 4)、3.「女性教員の部局別・職階別分布」(表 3)は、総務部(2019年5月1日現在)より作成。その他は、京都大学概要 2019(2019年5月1日現在)より作成。総務部データと京都大学概要では、集計上の事情によって女性研究者総数で数名の違いがある。また、作図にあたり四捨五入している。

## 2019年度 京都大学男女共同参画推進センター報告書

発行日 2020年3月

発行所 京都大学男女共同参画推進センター

© 京都大学男女共同参画推進センター

